

物件取除費河川ハ標杭障害物件取除費人夫賃及量水標設置ニ關スル費用ヲ市町村ニ於テ負擔スルモノニ限ル(全上本) (項追加)

第八條 第二類以下道路ノ改良及維持修繕並ニ第二類以下河川沙除堤防維持修繕ノ費用ハ町村ノ主擔トシ左ノ區分ニ依リ縣費ヨリ補助ス但百間以上ノ橋梁及從前官營若クハ地方稅補助ノ確證ナキ河川沙除堤防ハ補助ノ限ニアラス

一 第二類乃至第四類道路ノ改良ハ其費用總額ノ豫算ニ對シ十分ノ七以內ヲ補助ス但市町村ニ於テ負擔額ヲ前納シ工事ノ施行ヲ當廳ニ出願シ許可シタルモノハ工事費ニ限リ其精算ニ對シ十分ノ八ヲ補助ス

二 第五類道路ノ改良ハ其費用總額ノ豫算ニ對シ十分ノ五以內ヲ補助ス

三 第二類道路ノ維持修繕ハ其工費總額ノ十分ノ七以內ヲ補助ス但其市町村若クハ部落從前負擔額ノ負擔額地價千圓ニ付金壹圓以上ニ至ルトキハ當該年度ノ豫算定額以內ニ於テ歩合ニ拘ハラス適宜増給スルコトアルヘシ

四 第三類道路ノ維持修繕ハ其工費總額ノ十分ノ五以內ヲ補助ス但其市町村ノ負擔額地價千圓ニ付金壹圓以上ニ至ルトキハ當該年度ノ豫算定額以內ニ於テ歩合ニ拘ハラス適宜増給スルコトアルヘシ

五 第四類道路ノ維持修繕ハ其工費總額ノ十分ノ三以內ヲ補助ス但市町村ノ負擔額地價千圓ニ付金壹圓以上ニ至ルトキハ當該年度ノ豫算定額以內ニ於テ歩合ニ拘ハラス適宜増給スルコトアルヘシ

六 第五類道路ノ維持修繕ハ其工費總額ノ十分ノ二以內ヲ補助ス

七 第二類河川及第二類沙除堤防ノ維持修繕ハ狩野川麓科川瀬戸川菊川太田川原ノ谷川ノ六川ハ工費總額十分ノ六其他ノ河川及沙除ハ工費總額ノ十分ノ五ヲ補助ス但町村若クハ部落部落ノ高ニヨリ高役人夫等ヲ負擔セシ履行アルモノ及其他現今ノ大字ニ付金壹圓ヲ超過スルトキハ其超過額ハ悉皆補助ス

八 第三類河川及第三類沙除堤防ノ維持修繕ハ工費總額ノ內町村若クハ部落部落ノ高ニヨリ高役人夫及其他現今ノ大字ノ地價千圓ニ付金壹圓ヲ扣除シタル殘額ニ對シ當該年度ニ於テ各郡ニ配付シタル豫算定額ヲ割合補助ス但非常水害等ニ依リ町村若クハ部落ノ負擔額地價千圓ニ付本文扣除金額ヲ通算シテ金貳圓ヲ超過スルトキハ臨時増給スルコトアルヘシ

第九條 前條工費積算ニ用ユル諸色代職工賃人夫賃漬地代植物料家屋其他移轉料竹木伐採料等ハ當該官廳ニ於テ定ムル所ニ依ル

附 則

第十條 本規則施行前繼續工事トシテ既ニ補助豫算ノ確定セルモノハ其當時ノ成規ニ依リ費用總

額ノ精算ニ對シ十分ノ八以內ヲ補助スルモノトス

●甲第十一號 (明治三十年三月十一日)

郡役所 市役所 町村役場

改良道路工費積算標準規程左ノ通相定ム

改良道路工費積算標準規程

第一條 明治二十七年二月二縣令第四號土木費及市町村土木補助費支辨規則第六條中改良道路工費積算ニ用ユル潰地代家屋其他移轉料ハ本規程ノ標準ニ依リ調査算定スルモノトス

第二條 潰地代金ハ左ノ標準ニ依ル

但改良工事所在町村、大字、一戸當反別田ハ貳反步畑ハ貳反壹畝步以下ナルトキハ標準ニ依リ算出シ得タル金額ニ尙十分ノ二以內ヲ加フルコトヲ得

一 田ハ壹反步ニ付地價反金參拾圓以上五拾圓未満ハ之ニ二個五分ヲ乘シ更ニ定率反金四拾圓ヲ加ヘ地價收金五拾圓以上ハ之ニ二個五分ヲ乘シ更ニ定率反金四拾五圓ヲ加フルモノトス但地價反金參拾圓未満ハ尙參拾圓ト見做シ算出ス

二 畑ハ壹反步ニ付地價反金貳拾圓以上ハ之ニ三個五分ヲ乘シ更ニ定率反金貳拾圓ヲ加フルモノトス但地價反金貳拾圓未満ハ尙貳拾圓ト見做シ算出ス

燒畑切替畑ハ山林ニ準ス

三 宅地ハ壹反步ニ付地價反金參拾圓以上ハ之ニ四個ヲ乘シ更ニ定率反金參拾七圓ヲ加フルモノトス但地價反金參拾圓未満ハ尙參拾圓ト見做シ算出ス

街路取締規則ニ規定スル市街準市街ノ分ハ更ニ五割以內ヲ加フルコトヲ得

四 竹林及林ハ壹反步ニ付金參拾五圓以內トス

五 山林ハ壹反步ニ付金拾六圓貳拾五錢以內トス

六 原野、山、牧場、池、沼、雜種地ハ壹反步ニ付金拾貳圓五拾錢以內トス

七 第二類地開墾及第一類地荒地起返ノ田ハ金百五圓以內畑ハ金八拾參圓以內宅地ハ金百拾五圓以內トス

八 荒地ノ田ハ壹反步ニ付金五拾圓以內畑ハ金參拾八圓以內宅地ハ金五拾五圓以內トス但川成海成湖水成ハ此限リニアラス

九 墳墓地ハ壹反步ニ付金參拾參圓以內トス

十 免租地ニ属スル公立學校地鄉村社地ハ壹反步ニ付金百拾五圓以內トス

十一 畦畔ハ壹坪ニ付金貳錢五厘以內トス

第三條 家屋其他移轉料ハ左ノ標準ニ依ル

土 木 土木及工費

五百三

但隔所ニ移轉ヲ要ニ對シテハ引料ノ二倍トス

一 板、杉皮、藁葺平屋	引料一坪ニ付金八拾五錢以內但庇雪隠トモ
二 同 二階屋	同 金壹圓貳拾錢以內但前全斷
三 瓦葺 平屋	同 金壹圓貳拾錢以內但前全斷
四 瓦葺 二階屋	同 金壹圓七拾錢以內但前全斷
五 土藏 土藏打	同 金四圓貳拾錢以內
六 同 土壁打	同 金貳圓五拾錢以內
七 板、杉皮、藁葺雪隠	同 金六拾五錢以內
六 瓦葺 雪隠	同 金八拾五錢以內
九 板、杉皮、藁葺物置	同 金七拾錢以內但板敷張
十 瓦葺 物置	同 金壹圓以內但前全斷
十一 板、杉皮、藁葺納屋並馬部屋	同 金六拾錢以內
十二 瓦葺納屋並馬部屋	同 金八拾五錢以內
十三 雜小屋	同 金參拾八錢以內
十四 塙	〔板塙一間ニ付金貳拾錢以內 竹塙同 金拾五錢以內〕

土垣

夫石垣

〔竹垣一間ニ付金六錢以內  
土垣同 金參錢六厘以內  
杉其他生垣同 金拾錢以內  
割石一坪ニ付金八拾五錢以內  
丸石同 金六拾錢以內〕

第四條 前各條ニ規定セサルモノハ其都度當廳ニ於テ之ヲ定ムルモノトス  
第五條 本規程ハ明治三十年度起工ノ分ヨリ之ヲ施行ス

●甲第十三號 (明治三十年四月七日)

郡役所 市役所 町村役場

明治三十年三月本縣甲第十一號訓令改良道路工費積算標準規程第二條潰地代金標準中一個常反別及同條第三宅地ニ對スル市街準市街ノ割増ヲ加算スル場合ニ於テハ左ノ調書ヲ願書ニ添付候様致ス

潰地代金割増調書

戸數 何戸 何郡町村大字

一田反別何町歩

但戸數一戸ニ付反別何反何畝歩

一畑反別何町歩

土 木 土木及工費

但戸數一戸ニ付反別何反何畝歩

一何所ハ街路取締規則規定(二十年八月縣令第七十號)ノ市街(準市街)タリ

改良道路工費積算標準規程第二條田畑宅地割増事項前書ノ通相違無之ニ付規定ノ通算出致候也

郡市町村長

年月日

氏

名印

●土第八五八號

(明治三十年四月七日)

各郡長宛内務部長照會

本年四月本縣甲第十三號ヲ以テ改良道路工費積算標準規程中漬地田畑宅地代金割増調書添付方訓令相成候處右ニ掲クル戸數反別ハ貴官ニ於テ篤ト調査ヲ遂ク其計數ノ確實ナルヲ證明シ副申ノ上被差出度依命此段及照會候也

●甲第十二號

(明治三十一年四月九日)

郡役所 市役所 町村役場

道路改良費補助ニ關スル規程左ノ通相定ム

道路改良費補助ニ關スル規程

第一條 道路改良費ノ補助ヲ受ケントスルモノアルトキハ其ノ補助ヲ受クヘキ前年度ノ六月十五

日迄ニ當應ヘ到達スヘキ日取ヲ以テ翌年度ノ補助線ニ編入ノ許可ヲ出願セシムヘシ但特ニ出願期限ヲ指定シタルモノハ其ノ期限ニ依ル

前項ノ願書ニハ左記第一號乃至第三號ノ事項ヲ具シ第四號ノ書類ヲ添付スルヲ要ス

- 一 工事ノ設計既成ナル事
- 二 補助ノ種類

三 各町村ノ負擔歩合(町村組合起業ノモノニ限ル)

四 郡市町村會若クハ町村組合等ノ決議書謄本

第二條 翌年度補助線ニ編入スヘキモノハ前條ノ稟請ニ對シ一月三十一日迄ニ許可ス可ニ付其許可ヲ得タル者ハ其年三月三十一日迄ニ當應ヘ到達スヘキ日取ヲ以テ成規ノ工事願ヲ差出サシムヘシ但前條第一項但書ニ係ルモノハ其ノ工事出願期限モ亦特ニ之ヲ指定ス

第三條 前各條ノ願書其出願期限後到達シ又ハ成規ノ書類完備セサルモノハ第一條ノ許可ヲ與ヘス又既ニ許可シタルモノハ之ヲ取消スモノトス

附 則

第四條 本規程ハ三十二年度所屬ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年一月甲第二號訓令道路改良工事施行規程ハ三十一年度所屬限リ廢止ス

●訓士第二十五號

(明治二十二年五月十六日)

各郡長

地方税補助ニ係ル道路橋梁之通常修繕ハ支給法明文及訓令乙第二十一號施行手續ニ明記セル如ク  
 里數ニ應シ割賦補助シ周ク全道へ修繕ヲ加フル趣旨ニ付其成績ノ良否ハ之カ方法如何ニアルヲ以  
 テ適宜之カ方法ヲ設クルヲ要ス茲ニ明治十九年度已來國道ニ於テ施行スル常工夫修繕法ハ頗ル良  
 成績ヲ奏セシニ付地方税補助之各道ニ於テモ右ニ準シ二十二年度ニ於テハ一郡下各道毎ニ凡一里  
 ニ付常工夫五名已上ヲ置キ割賦補助額及町村負擔額ヲ合セテ之カ諸費ニ充テ一ヶ月二回以上道路  
 橋梁ノ修繕ニ從事セシムル方法ヲ設ケ施行セラレタシ就テハ之ヲ實施スルニ當リ每町村限リ施行  
 セシムルト關係町村團結シテ施行セシムルトノ二途ニアリト雖每町村限リ施行スルトキハ各町村  
 ノ里程一樣ナラサルカ故割合ニ多寡ノ人夫ヲ價カサルヘカラサルニ付費用多キヲ要スルハ勿論修  
 繕ノ仕様區々ニ涉リ工夫ノ監督寬嚴ノ別ヲ生スル等不利多クシテ効用甚タ少シ之ニ反シ關係町村  
 團結シテ施行スルトキハ管理一ニ版スルヲ以テ費用モ多キヲ要セス修繕ノ仕様モ一途ニ出テ良成  
 績ヲ得ル必然ニ付此際各道毎ニ一部役所所轄限關係町村組合會議ヲ組織セシメ常工夫ヲ設置シ通常修繕ヲ  
 施行セシムル様計畫盡力セラルヘシ  
 但特別修繕モ通常修繕ト同シク組合會議評決ニヨリ施行スルモ妨ケナシ

●甲第十七號

(明治三十一年六月九日)

郡役所 市役所 町村役場

土木工事施行ヲ出願セントスルモノニシテ其箇所官有土地又ハ水面ノ使用ヲ要スルモノアルトキ  
 ハ工事願書ト使用願書若クハ使用申請書トヲ取纏メ同時ニ差出スヘシ  
 甲第十八號 (明治三十二年七月八日)

内務部 警察部 監獄署 郡役所  
 警察署 警察分署 監獄支署 縣立學校

明治三十一年四月甲第十一號靜岡縣工事及工用品請負規程左ノ通改定ス

靜岡縣工事及工用品請負規程

第一條 縣經濟ニ屬スル工事請負及工用品ノ購買ハ總テ本規程ノ定ムル所ニ據ル

第二條 工事請負及工用品ノ供給ハ左ノ資格ヲ具備スルモノニアラサレハ當該官廳ハ其契約ヲ締  
 結スルヲ得ス

一 一年以來當該業務ヲ營ムモノ但土木請負業ヲ營ムモノハ工用品ノ供給ヲ營業トスルモノト  
 見做ス

二 直接國税參圓以上ヲ納ムルモノ但工事及工用品ノ多大ナルトキハ納稅額ヲ増加スルコトヲ

得

- 三 無能力者ニアラサルモノ
- 第三條 工事請負及工用品ノ購買ハ公告シテ競争入札ニ付シ若クハ五名以上ヲ指名シテ競争入札ヲナサシムヘシ競争入札ノ公告ハ其入札期日ノ七日前ヨリ揭示又ハ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ
- 第四條 左ノ場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
  - 一 一人又ハ一會社ニシテ専有スル物品ヲ買入ル、トキ
  - 二 土木工事ヲ當該市町村ニ受負ハシムルトキ又ハ現ニ受負ニ付シタル工事ニ關聯シテ他人ニ受負ハシメ難キトキ
  - 三 非常急遽ノ際工事又ハ工用品ノ買入ヲ爲スニ競争入札ニ付スル暇ナキトキ
  - 四 特種ノ物品ヲ其生産者製造者ヨリ直接ニ買入レ又ハ特別ノ技術家ニアラサレハ製造シ得ヘカラサル製造品ヲ買入ル、トキ
  - 五 一口金高百五拾圓未滿ノ工事又ハ百圓未滿ノ工用品買入ノ契約ヲナストキ
  - 六 再度ノ入札ニ付スルモ豫定價格ニ超過スルトキ
  - 七 競争入札ニ付スルモ競争者ナキトキ

- 八 縣外ノ各地ヨリ買入ル、ニアラサレハ適當ノ物品ヲ得難キトキ
- 第五條 競争入札ハ場所及日時ヲ異ニシテ差出サシム又ハ書留郵便ヲ以テ差出サシムルコトヲ得入札ノ場所ヲ異ニスル場合ニハ入札スヘキモノ、居住地ニヨリ入札ヲ差出スヘキ場所ヲ指定スヘシ
- 第六條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争入札ヲ行ヒ若クハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但更ニ競争入札ニ付スル場合ニ於テハ第三條ノ公告ノ期限ヲ三日迄ニ短縮スルコトヲ得
- 第七條 工事又ハ工用品ノ請負契約書ニハ其契約セントスル事項設計書仕譯書着手竣功受渡期限保證金額契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分其他必要ナル條件ヲ掲クヘシ但工事請負及工用品供給者心得ニヨリ請書ヲ徵スルトキハ契約書ヲ省略スルコトヲ得
- 第八條 工事又ハ工用品請負ノ競争ニ加ハラントスルモノニハ見積リ金高百分ノ五以上契約ヲ結ハントスルモノニハ契約金高百分ノ十以上保證金トシテ差出サシムヘシ但隨意契約ノ場合ニ於テハ保證金ヲ免除スルコトヲ得
- 前項ノ保證金ハ現金又ハ無記名公債證書ニ限ル
- 第九條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ヲ還付セサルモノトス
- 第十條 第三條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 一 競争入札ニ付スル事項
  - 二 入札心得及契約書案等ヲ示ス場所
  - 三 入札ヲ差出スヘキ場所及日時
  - 四 競争執行ノ場所及日時
  - 五 入札保證金額
  - 六 其他必要ノ事項
- 第十一條 開札ハ主任者二名以上列席シ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ  
 入札ノ場所及日時ヲ異ニシタルトキ若クハ入札人十名以上ニ及フトキハ入札人中ニ就テ三名ヨ  
 リ少カラサル開札立會者ヲ指定スルコトヲ得  
 開札ノ結果ハ揭示其他ノ方法ニヨリ之ヲ公示スヘシ
- 第十二條 開札ノ結果總テ豫定價格ヲ超過シタルトキハ其入札ヲ取消スヘシ但時宜ニ依リ直ニ入  
 札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第十三條 落札ハ最低價トス但價格不相當ト認ムルトキハ其入札ヲ取消シ直ニ再度ノ入札ニ付ス  
 ルコトヲ得
- 第十四條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ更ニ

競争セシメ再同價ナルトキハ直チニ抽籤セシメ其落札人ヲ定ムヘシ

第十五條 本規程ニ據ラサル處分ヲ必要トスル場合ニ於テハ縣參事會ノ議決ヲ經テ適宜處分スル  
 コトヲ得

●告示第九十三號 (明治三十二年七月八日)

本縣ノ縣經濟ニ屬スル工事請負及工用品供給者心得左ノ通相定メ明治二十七年四月告示第三十三號  
 土木工事及工用品請負規則同年四月告示第三十四號土木工事及工用品入札規則ハ之ヲ廢止ス  
 但土木工事及工用品請負要則ニ依リ既ニ契約ヲ締結セルモノニハ仍ホ該規則ヲ適用ス

工事請負及工用品供給者心得

第一條 工事請負又ハ工用品供給ノ入札ヲサントスル者ハ左ノ資格アルコトヲ行政廳ニ於テ證  
 明スル者ニ限ル

一 一年以來當該業務ヲ營ムコト但土木請負業ヲ營ムモノハ工用品ノ供給ヲ營業トスルモノト  
 見做ス

二 直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト但特ニ納稅額ヲ増加スル場合ニハ其相當額ヲ納ムルコト  
 三 無能力者ニアラサルコト

第二條 工事請負又ハ工用品供給ノ入札ハ繪圖面仕様帳並ニ現場現品及見本ヲ熟覽シ第一號書式

ニヨリ入札ヲ製シ封緘封印ノ上入札保證金ト共ニ當該官廳ニ於テ指定セシ場所及日時ニ差出ス  
ヘシ

第三條 入札保證金ハ入札價格ノ百分ノ五以上トシ現金又ハ無記名公債證書ヲ以テ納付スヘシ

第四條 入札ハ書留郵便ヲ以テ差出スコトヲ得此場合ニ於テ入札保證金ヲ現金ニテ納付セントス  
ルトキハ本縣本、分金庫ノ事務ヲ取扱フ銀行ニ預ク入レ其ノ預證券ニ直ニ取付ケ得ヘキ委任狀  
ヲ添付シテ差出スヘシ

第五條 開札ハ掛員二名以上立會ノ上入札人ノ面前ニ於テ之ヲ執行スヘシ但開札ノ時限ヲ過クル  
トキハ入札人ノ在否ニ拘ハラズ開札スルモノトス

當該官廳ハ入札ヲ差出スヘキ場所及日時ヲ異ニシタルトキ若クハ入札人十名以上ニ及フトキハ  
入札人中ニ就テ三名ヨリ少カラサル開札立會者ヲ指定スルコトアルヘシ

開札ノ結果ハ揭示其他ノ方法ニ依リ之ヲ公示スルモノトス

第六條 開札ノ上落札ハ最低價トシ同直段ノモノアルトキハ直ニ同直段ノモノ、ミテシテ競争セ  
シメ仍ホ同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム尤モ當該官廳ニ於テ其價格ヲ不相當ト認ムルカ或ハ  
他ニ不都合アリト認ムルトキハ順次々札ヲ取り又ハ再入札ニ付スルコトアルヘシ  
前項再札ノ場合ニ於テハ價格不相當ト認メタルモノ、外前入札ヨリ代價ヲ増加スルヲ得ス若之

ヲ増加スルトキハ落札ヲ辭スルモノト見做ス

第七條 開札ノ上ハ見込違積違其他如何ナル事由ヲ申立ツルモ落札ヲ辭スルコトヲ許サス若シ強  
テ之ヲ辭スルトキハ入札保證金ヲ取上クルノ外以後其者ノ入札ハ採用セサルコトアルヘシ

第八條 入札保證金ハ落札人ヲ除クノ外開札ノ當日直チニ之ヲ還付シ落札人ノ入札保證金ハ契約  
保證金ヲ差出ス迄之ヲ領置ス

第九條 一旦工事請負及工用品供給ノ契約ヲ結ヒ違約ノ爲メニ其契約ヲ解カレタル者ノ入札ハ以  
後採用セサルコトアルヘシ

第十條 入札若クハ隨意契約ニヨリ工事請負又ハ工用品供給ヲ命セラレタル者ハ其中渡ヲ受ケタ  
ル當日ヨリ七日以内ニ本縣下ニ本籍ヲ定メ現ニ居住シ直接國稅三圓以上ヲ納ムル者ニシテ當該  
官廳ニ於テ確實ト認ムル者二名以上ノ保證人ヲ立テ契約保證金トシテ契約代價ノ十分ノ一以上  
ノ金額(現金若クハ無記名公債證書)ヲ添付シ第二號書式ノ請書ヲ差出スヘシ而シテ其請書ヲ差出セシ當日ヨリ  
當該官廳ニ於テ定ムル日數以内ニ工事ニ着手竣功シ又ハ物品ヲ完納スヘシ

契約保證金ハ現金ヲ以テ納入セントスルモノハ本縣本、分金庫ヘ拂込ミタル證券ヲ以テスヘシ  
保證人ノ資格ニ就テハ行政廳ノ證明ヲ受クルコトヲ要ス

第十一條 第十條ノ日限内ニ請書及契約保證金ヲ差出サ、ルトキハ違約價金トシテ入札保證金ヲ



取上ケ其契約ヲ解クヘシ

第十二條 請書ニ記載セシ日限内ニ工事竣功又ハ物品完納ニ至ラサルトキハ過期一日ニ付契約代價ノ二百分ノ一ヲ違約償金トシテ受負金額ヨリ引去ルヘシ若シ期限ヲ過クルコト受負日數ノ十分ノ三以上ニ及ヒテ仍ホ竣功若クハ完納ニ至ラサルカ又ハ期限經過ノ爲メ差支ヲ生シタルトキハ契約保證金ヲ取上ケ其契約ヲ解クコトアルヘシ

請書ニ記載セシ期日内ニ工事又ハ物品納付ニ着手セサル爲メ又ハ着手スルモ進捗遅緩ニシテ豫定期限内ニ竣功又ハ完納ニ至ルノ見込ナシト認ムルトキハ進捗日程ヲ徴シテ之ニ照査シ該日程ニ違フコト五日以上ニ至ルトキハ契約保證金ヲ取上ケ其契約ヲ解クコトアルヘシ但進捗日程ヲ徴スルモ之ニ應セサルカ又ハ之ニ應スルモ其日程ヲ差出サ、ルコト五日以上ニ及フトキモ亦本文末段ニ依ル

第十三條 工事請負者又ハ工用品供給者ハ一旦請書ヲ差出シタル後ハ如何ナル事情アルモ契約ノ解除ヲ乞フコトヲ許サス

第十四條 工事落成若クハ物品完納済ノ場合又ハ工事中若クハ物品納付中タリトモ仕様帳又ハ物質數量見本等ニ違背スル廉アルトキハ無償ニテ改造若クハ引換ヲ命スヘシ若シ改造引換ヲ命セサル場合ニ於テハ其違背セシ廉ノ出來形若クハ物品相當ト認ムル代價ノ十分ノ八ヲ下付シ其十

分ノ二ハ違約償金トシテ引去ルヘシ

工事請負者又ハ工用品供給者ハ監督者ノ指揮ニ依リタルヲ事由トシテ前項ノ命令ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 契約保證金ハ出來形検査ノ上之ヲ還付スヘシ但保險契約アルモノハ保險契約保證金ヲ差出シタル後ニアラサレハ還付セス

第十六條 工費若クハ物品代價ハ五分以上落成若クハ納付済ノ上ハ十分ノ七以内ニ於テ内金渡ヲナスコトアルヘシ但工費若クハ物品代價巨額ナルモノハ五分以上落成若クハ納付済ニ至ラサルモ内金渡ヲナスコトアルヘシ

第十七條 工事請負者又ハ工用品供給ノ契約ニ係ル債務ハ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ委任スルコトヲ得ス但特ニ常應ニ於テ許可スル場合ハ此限ニアラス(三十二年告示第五十二號ヲ以テ修正)

第十八條 工事出來形検査済若クハ物品檢査済以前ニ係ル一切ノ損害ハ總テ請負人ノ負擔トス

第十九條 請負人ハ常ニ其事業ヲ執行スヘキ現場ニ在リテ工事ヲ擔當シ若クハ物品納付ヲ處辨スヘシ請負人若シ事故アルトキハ保證人之ニ代リ諸事ヲ擔當處辨スヘシ請負人死去ノトキ亦同シ

第二十條 天變又ハ豫期スヘカラサル障害(水火災等ノ類)ニ依リ契約期限内ニ工事ヲ竣功シ若クハ物品ヲ完納スル能ハサルトキハ常應ニ於テ調査ノ上事實相違ナシト認ムルトキハ其期限ヲ猶豫シ又ハ

解約ヲ許可スルコトアルヘシ但本條ノ場合ニ在テハ違約償金ヲ徵收セス

第二十一條 契約締結後當廳ノ都合ニ依リ工事又ハ物品ノ數量ヲ變更増減スルコトアルモ請負者若クハ供給者之ヲ拒ムヲ得ス此場合ニ於テ其變更増加ニ屬スルモノハ原契約ノ工事又ハ物品ニ比準シ得ヘキモノハ總テ原契約ノ單價ニヨリ計算シ比準シ難キ廉アルモハ當該官廳ノ認ムル所ニ依リ更ニ相當ノ代價ヲ定ムルモノトス若シ請負者若クハ供給者之ニ應セサルトキハ其變更増加ニ屬スルモノヲ他人ニ請負ハシメ又ハ供給セシメ又ハ當該官廳ニ於テ施行スルコトアルヘシ前項變更増加ニ屬スルモノカ原契約ノ事業ト關聯シテ各別ニ施行スル能ハサルトキハ原契約ノ全部ヲ解除スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ違約償金ヲ徵收セス

第二十二條 工事ノ種類ニ依リ竣功以後ノ保險ヲ爲サシムルノ必要アルトキハ請書差出ト同時ニ第三號書式ニ依リ保險請書並ニ其保證金ヲ徵スルモノトス但保險契約保證金ハ工事竣功以後ニ差出スコトヲ得此場合ニ於テハ該保證金ヲ差出迄ハ契約保證金ヲ以テ之ニ代用スヘシ

第二十三條 第十條第十四條第十七條第十九條第二十一條ニ違背スルカ又ハ他ニ不都合ノ所爲アルトキハ何時ニテモ契約保證金ヲ取上ケ其契約ヲ解クコトアルヘシ

第二十四條 第十一條第十二條第二十三條ニ依リ契約ヲ解カレタル者ハ或年期間若クハ將來縣經濟ニ屬スル工事ヲ請負ヒ又ハ工用品ヲ供給シ若クハ其契約ノ保證人タルコトヲ許サ、ルコトアルヘシ

ルヘシ

第二十五條 本規則ニ依リ契約ヲ解キタルトキハ當該官廳ニ於テ工事出來形若クハ既納ノ物品ニ對シ相當ト認ムル代價ヲ下渡スノ外既ニ準備セシ材料若クハ他ノ準備ニ關スル費用等ハ一切之ヲ下渡サ、ルモノトス  
本條ニ依リ認定セル代價ニ就テハ契約ヲ解カレタル者異議ヲ申立ツルコトヲ得ス  
離形第一號

入 札

何國何郡市何町村納メ粗架(何千何百束)何々  
何國何郡市何町村(道路)(堤防)(新築)(修繕)  
長何百間(何々橋架管)何々

一金何百何拾圓何拾錢 請 負 金 高

右者明治三十二年七月告示第九十三號工事請負及工用品供給者心得拜諾御定メノ日限以内ニ於テ仕様帳又ハ物品數量書見本之通り前書ノ金額ヲ以テ請負工事竣功(物品完納)可仕因テ入札保證金相添入札仕候也

何府縣何郡市何町村大字何番地

土 木 土木及工費

明治年月日

某官廳御中

何

某印

(注意)一紙ノ入札ニ數口ヲ列記スル場合ニハ口毎ニ入札保證金額ヲ區別スヘシ

入札ノ封皮ニハ何工事又ハ何物品ノ入札タルコトヲ明記スヘシ

郵便入札ノ場合ニハ二重封ト爲スヘシ

雛形第二號

印紙

請書

何國何郡市何町村何番地

何町村納メ粗梁杭木(何千何百束)何々  
何地石竹木(何百何十束)何々

何國何郡市何町村(道路)(堤防)(新築)(修繕)

長何百間(何橋架替)何々

一金何百何拾圓何拾錢

右者今般別紙仕様帳寫(物質數量書寫見本)ノ通り前書ノ金額ヲ以テ請負被命候ニ付明治三十三年七月靜岡縣告示第九十三號工事請負及工用品供給者心得堅ク相守リ何月何日ヨリ着手シ何月何日迄ニ無相違竣功(納付)可仕候萬一右ニ違背候トキハ該心得ノ條項ニ依リ御處分相成聊異議

無之因テ契約保證金何圓相添保證人連署請書差出候也

何府縣何郡市何町村大字何番地

請負人 何

某印

明治年月日

靜岡縣何郡市何町村大字何番地

保證人 何

某印

靜岡縣何郡市何町村大字何番地

保證人 何

某印

某官廳御中

雛形第三號

請書

一何々工事

右ハ今般何國何郡何町村大字何字地内何々工事請負被命候ニ付テハ前記工事ニ限リ請負工事竣功受渡ヲ終リタル日ヨリ向フ何十日間(又ハ何月何年間)ニ於テ破損シタルトキハ御指定ノ日限ニ從ヒ舊形ニ修築可仕若其日限内ニ竣功セサルトキハ明治三十二年七月靜岡縣告示第九十三號工事請負及工用品供給者心得第十二條ニ依リ御處分相成候ハ勿論本請書ニ記載之廉ニ違背シタ

土木 土木及工致

ルトキ違約償金トシテ契約保證金御取上ケ相成候モ聊異議無之因テ(保險契約保證金何間相添)  
(保險契約保證金何間ハ工事竣功受渡ヲ終リタル日ヨリ五日以内ニ差出可申就テハ右差出候迄  
ハ請負ノ契約保證金ヲ以テ御代用相成度)保證人違署請書差出候也

何府縣何國何郡市何町村大字何番地  
請負人 何 之 誰 印

靜岡縣何國何郡市何町村大字何番地  
保證人 何 之 誰 印

靜岡縣何國何郡市何町村大字何番地  
保證人 何 之 誰 印

某官廳御中

訓令甲第十六號

(明治三十三年六月二十二日)

郡役所 警察署 縣立學校

其廳舎校舎ノ建築修繕工事ニシテ豫算ヲ以テ令達シタルモノハ適宜施行シ一年兩度(四月)出來形  
帳ヲ添へ報告スヘシ  
但摸樣替ニ屬スルモノ及小破修繕ニシテ金高總拾圓以上ノモノハ其都度伺出ツヘシ

土第五六〇號

(明治二十六年四月二十七日)

各郡長宛内務部長通牒

市町村土木工事請負ノ件ニ付左ノ通決定相成候旨内務書記官ヨリ通牒ニ付御心得爲此段及通牒候  
也

市町村ニ於テ舊來ノ慣行ニ依リ府縣ノ土木工事ノ請負ヲ爲スハ其市町村ノ地元工事ニシテ市町  
村ノ公益上堅牢ヲ主トスルカ爲メ必要ナル場合ニ限ルヘク且豫メ其市町村會ノ決議ヲ經若シ工  
費ニ不足ヲ生スルコトアルトキハ其市町村ノ負擔タルヘキ旨ヲ議決セシメ置キ又工事ノ監督ハ  
仕様書ニ違ハサル様嚴重執行スルヲ要ス但地元住民一個ノ請負ハ別段ナリトス

無號

(明治十九年六月八日)

民業ニ係ル土木工事ニシテ其設計並測量ノ爲メ本廳吏員ノ出張ヲ請フトキハ該出張旅費及諸費ハ  
今後起工者ノ負擔ト定ム

但本文旅費及諸費ハ本廳ニ於テ定ムル概算金ニ據リ起工者ヨリ前納スルモノトス(明治二十一年十  
月及二十二年一月)  
十二日ヲ以テ修正)

二第四八一八號

(明治三十一年五月三十日)

内務部

土木管理區規程左ノ通定メ本年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

土木管理區規程

第一條 本縣直轄ノ土木工事ヲ施シ及公共團體若クハ個人ノ土木事業監視ノ爲メ土木管理區ヲ置ク其區域左ノ如シ

第一土木管理區

賀茂郡 田方郡 駿東郡 富士郡應原郡ノ内富士川沿川町村

第二土木管理區

庵原郡富士川沿川町村ヲ除ク 安倍郡 静岡市

第三土木管理區

志太郡 榛原郡 小笠郡

第四土木管理區

周智郡 磐田郡 濱名郡 引佐郡

第二條 各土木管理區ニ屬若クハ技手一名縣吏員若干名ヲ派遣シ屬若クハ技手ヲ以テ主幹トス主幹ハ部下ノ吏員ヲ指揮シ區内ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 事業廣濶ノ區域ニ涉ルモノ又ハ測量設計施工ニシテ重要ト認ムルモノハ特ニ擔任者ヲ定

メ臨時出張セシムルコトアルヘシ

第四條 主幹ハ橋梁ノ架替及道路橋梁修繕ニシテ翌年度ニ於テ施行ヲ要スルモノハ其設計書ヲ調製シ毎年六月三十日迄ニ提出スヘシ

第五條 主幹ハ第二課ヨリ通牒豫算金額ヲ目途トシ毎年度ニ於テ施行スヘキ工事ノ設計書ヲ調製シ十月十五日限り提出スヘシ

第六條 臨時施行ヲ要スルモノ又ハ既定工事ノ變更ヲ要スルモノアルトキハ其書類圖面等ヲ調製シ其事由ヲ詳細申告シ指揮ヲ請クヘシ

第七條 工事ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外第二課ヨリ回付シタル設計ニ據リ之ヲ施行シ指揮ヲ得スシテ變更若クハ設計外ノ工事ヲ爲スヲ得ス但左ノ場合ニ於テハ其區ノ豫算内ニテ支辨シ得ラル、モノニ限り臨時決行ノ後其事由及設計書若クハ材料明細書ヲ添ヘ報告スルコトヲ得

一 出水其他ノ災害ニ際シ危険切迫指揮ヲ請クルニ違ナキ場合ニ在テハ一ヶ所ノ工費百圓未満ノモノ

二 道路橋梁ノ小破修繕ニシテ急施ヲ要シ一ヶ所ノ工費拾圓未満ノモノ

三 道路堤防ノ雇工夫ニ使用セシムヘキ工用材料購入ニシテ一回五圓未満ノモノ

第八條 主幹ハ工事ノ有無ニ拘ハラヌ毎月一回以上區内ヲ巡視シテ其狀況ヲ五日以内ニ報告スヘ

シ但至急報告ヲ要スト認ムル事項アルトキハ直チニ之ヲ報告スヘシ

第九條 主幹ハ毎月十五日及末日ニ於ケル工事ノ功程ヲ調査シ五日以内ニ報告スヘシ

第十條 雜費拂ニ屬スルモノニシテ一廉金額拾圓以上ハ指揮ヲ請ケ拾圓未満ハ決行ノ後其種目金額及使用ノ事由ヲ明記シ報告スルコトヲ得

第十一條 工費ノ流用又ハ追加ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細申告シ指揮ヲ請クヘシ

第十二條 工費其他ノ支拂ニ關スル書類ニハ主幹之ニ檢印シ回付スヘシ但工費及工用品ニ對スル代金ノ請求書ニハ尙ホ主任者ノ證明ヲ要ス

第十三條 不用品ニ屬スル工用材料及器械備品等ニシテ他ニ轉用ノ目的ナキカ又ハ轉用ノ目的アルモ運搬費ト新ニ購入スヘキ代價ト相償ハサルモノハ其種類員數拂下見積價格及所在地等ヲ調査シテ申告シ指揮ヲ請クヘシ

第十四條 工事ノ出來形ハ監查規程ノ定ムル所ニ據リ主幹ニ於テ其權内ノモノハ直チニ檢査ヲ了シ權外ノモノハ報告前下檢査ヲナスヘシ但工用品ハ各主任者ニ於テ檢査スルコトヲ得

第十五條 請負人ヨリ請負契約ノ變更ヲ出願スルモノアルトキハ主幹ハ意見ヲ付シ申告シ指揮ヲ請クヘシ

第十六條 請負人ニ對シ處分ヲ要スルモノアルトキハ其顛末ヲ詳細申告シ指揮ヲ請クヘシ

第十七條 各管理區ニ於テハ右ノ帳簿ヲ備ヘ常ニ整理シ置クヘシ

日誌	工夫名簿	工事關係書類	規則書類
雜件書類	簿冊目錄	工夫使役表	材料受拂日計表
支拂簿	豫算整理簿	器械備品臺帳	設計書綴込
出來形精算帳			

右ノ外事務整理上必要ト認ムルトキハ便宜帳簿表式等ヲ定メ報告スルコトヲ得

第十八條 工事ノ着手ハ其時々之ヲ報告スヘシ

第十九條 當該年度ノ決算ヲ了シタルトキハ精算書ヲ調製シ翌年度五月十五日迄ニ報告スヘシ

第二十條 出水其他災害ノ場合ニ於テハ其狀況ヲ速ニ報告スヘシ但水量八尺以上ニ至ルカ道路橋梁堤防等ニ危險切迫又ハ著シキ被害アルトキハ先ツ電信若クハ特使ヲ以テ其大要ヲ報告シ繼テ詳細ヲ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ工事又ハ工用品ノ損害高ハ速ニ之カ調査ヲ遂ケ報告スヘシ

第二十一條 主幹ハ前各條規定外ノ事件ニシテ第二課ヨリ回付スルモノハ實地檢分ノ上其書類ノ調査ヲ遂ク之ニ意見ヲ付シ特ニ期日ヲ指定スルモノ、外ハ三十日以内ニ提出スヘシ

第二十二條 土木管理區ノ職員ハ事務ニ差支ヲ生セサル限リニ於テ日曜日祝日祭日及年始三日

未三日間ハ休暇スルコトヲ得

### 第二章 河川堤防

●縣令第十三號 (明治二十年二月十二日)

富士安倍大井天龍ノ四川ニ係ル堤防建築修繕費ハ明治二十年度ヨリ地方稅ヲ以テ支辨シ水防ニ屬スル費用ハ該川關係町村ノ負擔ト定ム

●訓示 (明治二十年二月)

各 郡

本年本縣令第十三號ヲ以テ富士安倍大井天龍四川水防費ハ關係町村ノ負擔ト相定メ候ニ付テハ修繕ト水防トノ區分及施行方左ノ通心得ヘシ

- 一 出水退水ニ際シ堤塘ノ壞崩水刻ノ流亡等ヲ防禦スルカ爲メニ要スル諸色人足及堤塘丈夫築等一切ノ費用ハ水防ニ屬シ水量常ニ復スルカ又ハ常ニ復セサルモ水ノ衝突止マルノ後再度ノ出水ニ備フル爲メノ假修繕又ハ蓄形ニ修築スルモノハ建築修繕ニ屬ス
- 一 堤防ノ建築修繕ハ一切地方稅ヲ以テ支辨シ從來ノ高役人足扶持米人足麩朶細俵等ノ負擔ハ全ク免除ニ屬スルヲ以テ關係町村ハ須ク力ヲ水防ニ專ニシ一ハ地方稅ノ輕減ヲ期シ一ハ各

自家屋田園等ノ流亡ヲ保護セサルヘカラス因テハ其利害ノ厚薄ニヨリ相當ノ費金又ハ現品人夫ヲ課出シ急遽水防ノ際ニ差支サル様常ニ備ヘ置キ且平時ニ於テモ堤塘丈夫築其他堤防保護上ノ事業ヲ計畫シ以テ出水ノ豫防ニ備フルヲ要ス

- 一 聯合町村中ニハ水防總代又ハ水防委員等ノ名稱アルモノ若干名ヲ公撰セシメ一聯合内ヲ通觀シ水防ニ從事セシムルヲ要ス
- 一 聯合町村會ハ遅クモ本年三月十日迄ニ開會スルヲ要ス

●甲第二十三號 (明治十五年二月八日)

近來河々於テバラカリト唱ヘ木材ヲ放流スル者有之趣相聞ヘ候處右ハ通松ノ妨害ノミナラス自然堤防破損ノ患モ有之義ニ付不相成候條自今必ス糞組トナシ他ノ妨害ヲ爲サル様可致此旨布達候事

但通松並堤防ナキ箇所及毎年十二月ヨリ三月迄ノ四ヶ月間ハ此限リニアラス(十五年甲第六十號甲第百三十九號ヲ以テ改正)

●縣令第四十四號 (明治二十七年七月十一日)

河川(川成川欠並チ包含ス)ニ於テ官ノ許可ヲ受ケスシテ左ノ事項ヲ施行スルヲ得ス犯スモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
但明治二十年六月縣令第五十六號第一條第二類第二項ハ此限リニアラス

- 一 杭木ヲ打連テ若クハ柵ノ類ヲ設クルコト
- 一 砂礫ヲ盛立若クハ土手ノ類ヲ設クルコト
- 一 竹木(グミノ類ヲ包含ス)栽植スルコト
- 一 梓類其他ノモノヲ建設スルコト

●縣令第十三號 (明治三十五年三月七日)

耕地宅地其他地種地目ノ何タルヲ問ハス公共ノ水利ニ關係アル土地ニ於テ他ノ障害ヲ顧ミス盛土  
 所下其他地盤ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋以外ノ工作物ヲ建設シテ溢水ヲ防止シ又ハ湛水ヲ排除シ若  
 クハ其原因トナルヘキ行為ヲ爲スコトヲ得ス

但特別ノ事情アルモノハ出願許可ヲ受クヘシ

●告示第二百二十號 (明治三十三年六月八日)

河川法第四條ニ依リ富士川付屬物左之通認定ス

(付屬物客ス)

●丙第一號 (明治二十七年七月二十六日)

河川出水ノ際堤塘若クハ水剝ノ流亡等ヲ防禦スルノ目的ヲ以テスル一時ノ水防及田地灌溉ノ用ニ  
 供スル一時ノ用水堰入ニシテ從來慣行アル工事施行ノ如キハ明治二十七年七月縣令第四十四號ニ依

ルノ旨趣ニ無之義ト心得ヘシ但慣行アル場所ト雖モ其位置又ハ構造ヲ變更スル場合ニ於テ尙從前  
 ノ手續ニ依ルヘシ

●丙第二號 (明治二十六年四月二日)

郡役所 町村役場

官有堤塘河岸寄洲等使用ノ許可ヲ受ケタルモノハ總テ使用人ヲシテ其使用地ノ四隣境界ヘ標杭ヲ  
 建設シ使用反別目的ノ年期及氏名ヲ揭示セシムヘシ

●訓令甲第十九號 (明治三十五年七月十四日)

郡役所 市役所 町村役場

軌道條例ニ依リ特許シタル諸會社營業ニ關スル事項土木工費總計表水害表道路延長幅員及勾配ニ  
 關スル事項橋梁ニ關スル事項別紙表式ノ通相定候條來期ヨリ右ニ依リ調製報告スヘシ  
 但明治二十五年八月甲第二十二號訓令同年十二月甲第二十五號訓令及同二十八年六月甲第十六號訓令  
 ハ廢止ス

發送期日 町村長ハ翌年一月十五日限リ郡役所ヘ差出市長ハ同日限リ  
 縣廳ヘ差出市郡長ハ同月三十一日限リ縣廳ヘ差出スヘシ

軌道條例ニ依リ特許シタル諸會社營業ニ關スル事項(明治何年) 廳 名

(表式省略)



備考

- 一 社長名ノ欄ニハ社長、事務取締役、頭取等總テ社務ヲ主管スルモノ、姓名ヲ掲クヘシ
- 一 建設費ハ左記ノ内譯ヲ備考ニ附記スヘシ又同費中へ消却セシ金額アラハ其金額ヲ明記スヘシ

線路豫測費	〇〇〇〇	軌道費	〇〇〇〇	建築用具費	〇〇〇〇
工事監督費		停車場費		營業用電線架設費	
用地費		車輛費		馬匹購入費	
土工費		器械場費		電信電話架設費	
橋梁費		諸建物費		何々	
暗渠費		運送費		合計	
隧道費					

- 一 事故死傷ハ一事件毎ニ記入シ其概況ヲ備考ニ記載スヘシ
- 一 個人ニシテ特許ヲ得タルモノモ本表ニ準シ記載スヘシ

發送期日 町村長ハ翌年度十一月三十日限郡役所へ差出シ市長ハ同日縣廳へ差出シ  
郡長ハ翌年度一月三十一日限縣廳へ差出スヘシ

土木工費總計表 (明治何年度決算)

廳名

(表式省略)

備考

- 一 郡事業、市事業、水利組合事業、協議費事業、私人事業ハ町村事業ノ例ニ倣ヒ各別表ニ調製スルコト
- 一 本表ハ郡市管内ニ於テ一ケ年度間ニ施行シタル土木工費其他土木ニ關スル經費ノ決算額ヲ各類ニ區分シテ記載スルモノトス
- 一 郡市町村稅等精算報告書アルモノハ其ノ報告書ニ記載シタル土木ニ關スル諸費ト本表ノ金額ト共ニ符合スルモノトス但シ其符合セサルモノアルトキハ其金額及理由ヲ備考ニ於テ説明スヘシ
- 一 改修工事又ハ災害工事等ニシテ其工事數年ニ渡ルモノハ當該年度ニ於テ支出シタル實費ヲ掲クヘシ
- 一 精算報告書ニ土木費トシテ記載セス別款ヲ以テ整理スルモノト雖モ繼年改良工事費其他特種ノ工事ニシテ土木事業ニ關係アル諸費ハ悉皆本表ニ掲記スヘキモノトス
- 一 實際其年度内ニ補助金、寄付金等無キ場合ハ勿論總テ登錄スヘキ事實無キトキハ其欄ヲ除キテ製表スヘシ
- 一 寄附ノ欄ニハ金員ノ寄附ヲ許可シタルモノ其他諸物件ノ寄附ヲ許可シタルモノ、貸錢代金

ヲ見積リテ掲載スルモノトス但シ町村又ハ私人等ノ經營シタル物件ヲ市町村經濟等へ寄附シタルモノニシテ當該年度ノ收支決算ニ關セサルモノハ其物件ノ大小長短及其見積費額等ヲ備考ニ詳記スヘシ

一 町村事業中ニハ町村組合ノ事業ハ勿論存続水利土功會又ハ水利土功ニ關スル町村聯合會ニ於テ經營シタル分ヲモ合記スヘシ

一 水利組合事業ノ欄ニハ明治二十三年六月法律第四十六號ニ依レル水利組合ニ於テ施行シタルモノヲ記入スヘシ

一 協議費事業ノ欄ニハ市町村會(存続水利土功會及町村聯合會ヲ含ム)又ハ區會ノ決議ニ依ラサル舊慣ノ協議費ヲ以テ施行シタルモノヲ記入スヘシ

一 私人事業ノ欄ニハ法律ノ結果私人ノ義務トシテ施行スヘキ工事或ハ一會社一個人ニ於テ公共的ノ性質ヲ有スル事業ヲ特ニ許可ヲ受ケ施行シタルモノ即チ河川ノ新築、改築、浚渫又ハ道路ノ新築、改築、橋梁ノ新架、架換又ハ港灣ノ改良、築堤、浚渫其他水路開鑿等ニ係ルモノヲ掲ケ單ニ一會社一個人ノ利益ヲ目的トシテ精米、製糸等ノ工業用ニ供スル爲メ疏水工事ヲ行ヒタルノ類ハ記載スヘキモノニ非ラスト雖モ公衆運搬用ノ船舶ヲ通シ又ハ灌溉用水ヲ兼ヌルモノハ其疏水路ニ係ル工費ノミヲ本表ニ掲出スヘキモノトス但私人事業トシテ本

表ニ記入シタルモノハ一工事毎ニ名稱所在地、大小、工費等ヲ區別シテ備考ニ記載スヘシ

一 災害土木費トハ水害、潮害又ハ風、雪、震災等ニ起因スル工事ニシテ報告例中年報某川流域水害表ニ掲ケタル事項ノ善後工事ニ屬スル經費ヲ謂フ

一 災害土木費ニ對シ國庫ヨリ補助金ヲ受ケタルトキハ總工費豫算額及總補助額ヲ備考ニ記載スヘシ但災害工事ニシテ翌年度又ハ翌々年度等ニ亘ルヘキ見込アルモノハ各年度ノ使用豫算額ヲ併記スヘシ

一 工事完了ノ結果國庫補助金ニ殘金ヲ生シ一般歳入ニ編入シタル場合ニハ其金額ヲ備考ニ記載スヘシ

一 新築、改築工事ノ部ニハ河川ニ在テハ新ニ河川ヲ開鑿シ堤防ヲ築造シ又ハ現在ノ位置ヲ變更スルモノ、道路ニ在テハ新規ニ道路ヲ開設スルモノ又ハ在來道路ノ一部ニ就キ屈曲ヲ直線トシ或ハ道路ヲ擴張スルノ類ヲ掲クルモノトス

一 除却工事ノ部ニハ不用ノ堤防、道路、橋梁、暗渠ヲ除却スルノ類ヲ掲クルモノニシテ新築改築費中ニ加ヘス別欄ヲ設ケテ記載スルモノトス

一 新築、改築工費ト修繕工費ト區分シ難キ場合アル時ハ主ナル一方ニ記入シ備考ニ於テ説明スヘシ

- 一 通常土木費雜支出部ニハ土木委員費、定雇人夫費、工事ニ專屬セサル諸器具機械用紙、文具費、臨時調査費、臨時測量費、浚渫費、異種類ノ工事ヲ列記シタル廣告料、保存用諸式代、材料置場借上料、量水標費、標柱費、漆杭費、事務所費、看守費等其他工事費中ニ併算スヘカラサル諸費ヲ掲記スルモノトス
- 一 災害土木費雜支出部ニハ水防費、臨時災害出張旅費、(土木ニ關スル職員ノ諸費ノミニ限ル)臨時渡船費、假橋設置費、異種類ノ工事ヲ列記シタル廣告料等其他工事費中ニ併算スヘカラサル諸費ヲ記載スルモノトス

- 一 河川ノ改修、疏水ノ新開、港灣ノ改良、用悪水路ノ新設、上水、下水ノ新開又ハ改良等ノ爲メ道路橋梁ニ對シ經費ノ幾部分ヲ支出シタル場合ニハ各本費ノ方ニ掲ケ道路橋梁ノ方ニハ加ヘサルモノトス但シ本文ノ場合ニテハ左ノ通り備考ニ記載スヘシ

某川經費 ヲ以テ施行セシ道路橋梁費	縣道何々線 道路費	0,000
里道何々線 橋梁費	道路費	

某疏水經費 ヲ以テ施行セシ道路橋梁費	縣道何々線 道路費	0,000
里道何々線 橋梁費	道路費	

他ハ此例ニ倣フ

- 一 工事ニ附帶スル雜費ハ出來得ル限り之ヲ區別シテ其所屬ノ工費ニ併算シ其止ヲ得サルモノ、ミテ各工事ノ末項「區別シ能ハサル諸費」ヘ記入スヘシ
- 一 工事ニ著手セスト雖モ測量費、材料購入費等ノ支出アリシトキハ其ノ目的ニ從ヒ表中ニ記入スヘキモノトス
- 一 一流域ニ屬スル河川池沼湖等ハ必ス同一欄ニ列記シ別箇所ニ掲出スヘカラス
- 一 各河川ノ右側ニハ幹、支、派川ノ區別ハ勿論支川ノ支川ニハ小支ト記シ小支ノ支川ニハ小々支ト記シ其他ノ細流ニハ河川ノ支派等便宜河川ノ脈絡ヲ明ナラシムル様記載スヘシ
- 一 單流ニ非ラサル河川ニシテ幹支派川ノ内一川ノミニ經費ヲ支出セシ場合ニハ必ス幹何川、何川支派何川ト明記スヘシ
- 一 池沼湖等ニシテ河川ノ源ヲナシ又ハ河川ノ一部ヲ成スモノ並ニ其池沼湖等ニ注入スル他ノ諸川ハ悉ク一川ノ流域ニ屬スヘキモノトス
- 一 河川ノ幹支派川ニシテ他府縣ヘ流出シ又ハ他府縣ヨリ流入スルモノハ河川名ノ側ニ「※」印ヲ附シ對岸ノ他府縣ニ屬スルモノハ「×」ヲ附スヘシ
- 一 管内ニ同名稱ノ河川アルトキハ其河川名ノ下ニ各流末地名ヲ詳記シテ所在ヲ明ニスヘシ
- 一 河川ノ項ニハ新川開鑿工、築堤工、水製工、護岸工、根圍工、締切工、砂防工、閘門工、

隧道工其他浚渫景水、測量等ニ係ル一切ノ經費（土地買上代、諸機械費、工場費、用材貯蓄場費、水防費、監督費、監守費等ヲ含ム）ヲ掲記スルモノトス但シ砂防工事費ハ他ノ諸工費ト區別シテ記載スヘシ

一 疏水ノ項ニハ堰堤工、閘門工、隧道工、護岸工其他景水、測量等ニ係ル一切ノ經費（土地買上代、諸機械費、工場費、監督費、監守費等ヲ含ム）ヲ掲記スルモノトス

一 道路ノ項ニハ新道開鑿工、道路改築復築工ハ勿論路面工、法留工、棧道工、濕拔溝渠工、保壁工其他並木植附及手入、測量等ニ係ル一切ノ經費（土地買上代、砂利置場、標柱費、除雪費、撤水費、監督費、看守費等ハ含ム）ヲ記載スルモノトス

一 縣道ハ其工費ヲ各路線ニ區別シテ記入スヘシ

一 里道ハ重要道路ト認ムルモノ、ミ線路別ニ掲出シ其他ハ各線ノ工費ヲ合計シテ記載スヘシ

一 橋梁ノ項ニハ橋臺工、橋脚工、架構工等ニ係ル一切ノ經費（土地買上代、用材置場費、監督費、看守費等ヲ含ム）ヲ掲記スルモノトス但長六尺未満ノ橋梁及土厚三尺以上ノ土橋ニ係ルモノハ之ニ關セス

一 港灣ノ項ニハ棧橋工、防波堤工、繫船壁工、海岸堤防工、埋立工其他浚渫、浮標、碇標、測量等ニ係ル一切ノ經費（土地買上代、諸機械費、用材置場費、監督費、看守費等ヲ含ム）

ヲ掲記スルモノトス

一 海岸ノ項ニハ海岸堤防工、防波堤工、護岸工、埋立工、海岸防砂工等ニシテ港灣ト稱セサル海岸ニ施行セシ一切ノ經費ヲ記入ス可シ

一 用悪水ノ項ニハ溜池及用悪水路等ニ係ル農業土木工事費ヲ記入スルモノニシテ樋管工、堰堤工、護岸工、築堤工、導水橋工、隧道工等ニ係ル一切ノ經費（土地買上代、浚渫費、監督費、看守費等ヲ含ム）ヲ掲クルモノトス

一 水道ノ項ニハ衛生土木工事費ヲ記入スルモノニシテ引入所諸工、水路護岸工、貯水池沈澱池其他ノ諸池築造工、水管敷設工、導水橋工、機械室工、瓣室工等ニ係ル一切ノ經費（土地買上代、工場費、用材置場費、監督費、看守費等ヲ含ム）ヲ掲クルモノトス

一 下水ノ項ニハ衛生土木工事費ヲ記入スルモノニシテ溝渠開鑿工、暗渠敷設工、人孔設置工等ニ係ル一切ノ經費（用材置場費、諸機械費、浚渫費、監督費、看守費等ヲ含ム）ヲ掲クルモノトス

一 農業土木工事費ト衛生土木工事費トヲ區別シ能ハサル場合ニハ其主タルモノニ合記シ備考ニ於テ説明ス可シ

發送期日 町村長ハ翌年一月三十一日限り郡役所へ差出市長ハ同日限り縣廳へ差出  
郡長ハ同年二月二十日限り縣廳へ差出スヘシ

某川流域(又ハ何流水、何池沼湖) 水害(又ハ海嘯、噴火ノ被) 表(明治何年) 名

備考

- 一 本表ハ一ケ年間ニ於ケル管内各地水害ノ状況ヲ調査シ各河川流域毎ニ製表スルモノトス但シ流域ニ屬セサル疏水池沼湖等ニ於ケル水害又ハ海嘯、噴火ノ被害又ハ風、雪、震災又ハ降雨ノ爲メ溝渠汎溢山岳崩潰シ其他湛水等ノ爲メ被害アリシトキモ亦本表ノ式ニ倣ヒ各別表ニ調製スヘシ
- 一 流域トハ某河川ノ左右ニ於ケル山地平地ニ降下スル雨水ノ同川ニ流入スル全區域ヲ謂フ
- 一 單川ニ非ラサル河川ノ水害表ニハ幹川ハ勿論支派川、小支派川、疏水、池沼湖等其流域内ニ屬スル一切ノ水害高テ合算表記スルモノトス但シ支派川等ニ大水害アリシ場合ハ之ヲ摘出シテ別表ニ製シ河川名ノ下ニ「河川支派再掲」ト記スヘシ
- 一 ノ河川ニ出水アリテ他ノ河川流域内ニ波及シタル場合ニハ他川流域ノ分ヲモ合算シテ製表シ二河川以上同時ニ出水シタル場合ニハ各流域内ノ分ノミヲ區別シテ別表ニ調製スルモノトス
- 一 一流域内何レカノ一川ノミニ水害アリシ場合又ハ單川ナルトキハ其一川ノミノ事實ヲ掲記

シ表題名ヲ左ノ如ク記スヘシ

小支派川モ亦此例ニ倣フ

幹川ノミノ被害ナレハ「本川流域内幹某川水害表」

支川ノミノ被害ナレハ「某川流域内支某川水害表」

派川ノミノ被害ナレハ「某川流域内派某川水害表」

單川ノミノ被害ナレハ「某川水害表」

- 一 河川堤防ノ項ニハ疏水用悪水、水道等ヲ開鑿セシ爲メ築造シタルモノヲ除キ本堤控堤等河川ニ專屬スル諸堤ノミヲ記入スヘシ
- 一 護岸工ヲ施サ、ル河岸ノ崩潰、缺損ノ項ニハ沿岸崩潰缺損ノ爲メ新ニ護岸工ヲ施スノ必要ヲ生シタルモノ、ミヲ掲記スルモノトス
- 一 護岸、水制ハ調査上ノ便宜ニ依リ内譯ヲ梓何箇所、蛇籠何箇所、聖牛何箇所等ト各種類ニ區別スルヲ妨ケス但シ護岸ノ分ニハ間數ヲモ併記スルモノトス
- 一 護岸、水制等ニシテ私設鐵道敷設上ノ必要ニ依リ施行シタルモノ、被害ハ表中鐵道欄ヘ掲記ス可シ
- 一 開門樋管ノ類ハ單ニ河川ニ屬スル逆水留樋管等ヲ河川ノ項ニ掲ケ疏水用悪水、水道、下水

- 等ノ引入口又ハ排出口ニ設置シタルモノハ其所屬ニ從ヒ掲記スヘシ
- 一 河川、疏水等ノ埋没セシ爲メ生シタル損失ハ例ヘハ河口若クハ合流口等ヲ土砂ノ爲メ壅塞セラレ浚渫工事ヲ行ハサレハ上流ニ湛水スルノ恐レアリ又ハ埋没ノ箇所ヲ直ニ浚渫セサルハ船舶ノ通航ヲ杜絶スルノ類ニシテ最モ急要ナル浚渫費ノミヲ調査スルモノトス但シ排水又ハ航路開通ノ爲メ施行スルモノト雖モ單ニ復舊スルニ止マリ漸々停留セシ河底ノ土砂ヲモ併セテ浚渫スルカ如キ費用ヲハ混同スヘカラス
- 一 疏水欄ニハ運川、堀川、壕渠等人工ヲ以テ開鑿セシ水路ニ係ルモノヲ掲記スヘシ
- 一 道路ノ欄道路決潰、埋没及道路毀損ノ項ニハ隧道、溝渠等ノ損害ヲ除キ重複セシメサルヲ要ス
- 一 道路ノ欄軌道ニ關スルモノハ明治二十三年八月法律第七十一號軌道條例ニ依リ敷設セシモノ及同條例發布以前内務省ノ認可ヲ得テ敷設シタルモノ、被害ヲ掲記スルモノトス
- 一 軌道敷損傷ノ欄ヘハ軌道専用ノ爲メ築造セシ道路ノミノ損失ヲ掲クヘシ
- 一 橋梁ノ欄ニハ長六尺以上ノモノ及土厚三尺以下ノ土橋ノミヲ掲載スヘシ
- 一 下水欄下水ノ項ニハ上口平均幅五尺以上ノモノ、鐵管土管等ナレハ内徑三尺以上ノモノヲ掲クヘシ

- 一 下水ニシテ道路ノ濕拔溝ヲ兼テ濕拔溝ニシテ下水ヲ兼ヌルモノハ道路ノ部ニ掲出シ下水欄ニハ記載セサルモノトス
- 一 鐵道ノ項ニハ明治三十三年三月法律第六十四號私設鐵道法ニ依リ敷設シタルモノ及同法發布以前私設鐵道條例ニ依リ敷設シタルモノ、被害ヲ掲クヘシ
- 一 河川以下鐵道ニ至ル迄ノ通計内譯中郡市區町村以下ニ於テ維持スルモノハ出來得ル限り之ヲ郡費ノ分ト市區町村稅ノ分ト、水利組合費ノ分ト、協議費ノ分ト、私人ノ分トニ區別シ掲載スヘシ
- 一 死亡、負傷トモ水害當時ノ事實ヲ掲ケ減水後數日ヲ經テ負傷者ノ死亡セシモノハ死亡トシテ記載スヘカラス
- 一 死亡、負傷ノ欄ニハ住家非住家ノ流失崩潰、山岳丘陵ノ潰崩、堤防ノ破壊、橋梁ノ流失其他水防中ニ係ル出來事等避クヘカラサル事故ニ原因セシ死傷者ノミヲ掲ケ出水ノ際捕魚採藻又ハ他人ノ流失物ヲ惡意ニ拾得セントシ誤テ死傷セシモノ、類ハ掲記セサルモノトス
- 一 建物住家浸水ノ項トハ一世帯即チ竈數ヲ謂フ
- 一 建物非住家浸水ノ項ニハ倉庫、工場、機械場、神社、佛堂、學校等其他家屋ノ体裁ヲ具ヘタルモノニシテ常住セサル建物ヘ浸水セシ棟數ヲ掲クヘシ但シ停車場及構内建物ハ鐵道ノ

項ニ掲クルモノトス

- 一 田畑宅地等ノ被害面積ニシテ一反ニ滿タサルモノアリシ時ハ其端數ヲ步位ニ止メテ掲出スヘシ
- 一 田畑ノ項浸水地所ニ係ル損失價額中ニハ其年ノ生毛損耗高ヲ除キ重複セシメサルヲ要ス
- 一 田畑生毛ノ流失、埋没、腐敗ノ項ニハ未タ取入レサル諸作物ノ損耗高ノミヲ掲クヘシ但シ米麥ノ外地方ノ特産物ハ可成各別ニ調査記入スヘシ
- 一 鹽田、海産場又ハ山葵澤等ノ損害ハ雜種地ノ項ニ記載スヘシ
- 一 噴火、風、雪、震災ノ諸表ニハ建物、田、畑、宅地、森林山野地ノ欄ニ於ケル浸水ノ文字ヲ削リ被害ノ戶數棟數反別ノミヲ掲クヘシ
- 一 其他ノ諸損害ノ欄ニハ家具、機械、貨幣、紙幣及兌換銀行券、鑛物、木材其他既製未製ノ諸商品等ノ流損ニ係ルモノニシテ他ノ各項ニ該當セサルモノ悉皆ヲ掲出スヘシ
- 一 總計中第一類トハ堤防破壊又ハ堤上超流ノ爲メ生シタル損失ヲ謂ヒ第二類トハ堤防ノ設ケアレトモ築流シ堤等ニシテ逆水浸入ノ爲メ生シタル損失ヲ謂ヒ第三類トハ堤外地ニ於ケル損失ヲ謂ヒ第四類トハ全ク洪水防禦ノ設備無キ地ニ於ケル損失ヲ謂ヒ流域外トハ洪水區域中他川流域ニ屬スル部分ヲ謂フ但シ水害ニ非ラサル其他ノ災害表ニハ右ノ區別ヲ要セス

- 一 被害町村數及汎濫面積ノ欄中流域内外ノ區別ハ水害ニ非ラサル他ノ災害表ニハ之ヲ要セス
- 一 河川以下鐵道ニ至ル損失價額中土木工事ニ關スルモノハ總テ其再築見積價額ヲ記入スヘシ
- 一 損失價額ハ圓ヲ以テ單位トシ圓以下四捨五入計算スヘシ
- 一 提要ノ欄記載方左ノ如シ

- 一 一支派川及池沼湖等ヲ有スル河川ニシテ二川以上水害アリシトキハ其支派川名、池沼湖名等ヲ掲記スヘシ但シ管内ニ同名稱ノ河川アルトキハ各名稱ノ下ニ所在地名ヲ詳記スヘシ
- 一 降雨、霽雨、起風、收風ノ日時並ニ風ノ方向、出水ノ初期、最高水位ノ日時及高（平水位以上）並其場所名、平水ニ復セシ日時堤防缺壞若シハ堤上超流ノ日時並ニ箇所名、汎濫ノ廣袤其他洪水防禦ノ爲ニ土地ヲ使用シ土砂、竹木其他ノ材料、馬車其他ノ運搬具及器具ヲ使用シ又ハ夫役ヲ供セシメ障害物破毀等ノ景况等參考上必要ノ件ヲ水害毎ニ記載スヘシ但シ海嘯、噴火ノ被害及風、雪、震災表等ニハ災害ノ日時及其方面ニ於ケル全体ノ觀察ヲ略述シ若同地方ニ二回以上ノ災害アリシ場合ニハ其情況及損失額トモ各別ニ記載スヘシ

一 本表ハ縣費負擔ノ箇所ニ對スル分ハ取調ヲ要セサルモノトス

發送期日 町村長ハ翌年二月末日限リ郡役所へ差出市長ハ同日限リ縣廳へ差出郡長ハ同年三月三十一日限リ縣廳ニ差出スヘシ市長ハ明治三十四年差出シナ初期トシ自後六年目毎ニ差出スコト

通路延長幅員及勾配 (明治何年十二月三十一日調)

廳名

(表式省察)

備考

- 一 縣道ハ各路線毎ニ區別記載シ里道ハ管内各線ヲ合算記入スヘシ但シ重要里道ハ路線毎ニ記載スルヲ妨ケス
- 一 重要里道ヲ路線毎ニ記載スル場合ニハ平均幅員及坂路ノ平均勾配ヲモ記入スヘシ
- 一 延長ニハ橋梁渡船場等ヲ算入スルモノトス但シ海峽ニ係ル渡船場ハ之ヲ除キ其兩端地名及海里數ヲ備考ニ掲クヘシ
- 一 平均幅員ハ濕拔溝敷並木敷ヲ除キタル純粹ノ道敷平均幅ヲ掲クヘシ
- 一 間未滿ノ小數ハ分ヲ以テ記スヘシ

町村長ハ翌年二月末日限郡役所へ差出市長ハ同日限り縣廳へ差出郡長ハ同年三月三十一日限り縣廳へ差出スヘシ本表ハ明治三十六年差出初期トシ爾後六年毎ニ差出スコト

發送期日 (明治何年十二月三十一日調)

廳名

(表式省察)

備考

- 一 長六尺未滿ノモノ及土厚三尺以上ノモノハ算入スヘカラス

一 長ハ張板アルモノハ板張ノ長、石橋ハ敷石、土橋ハ枕木ノ中心ヨリ中心迄ノ長ヲ算スヘシ

◎縣令第四十七號 (明治三十一年八月九日)

大井川筋改修工用材運搬ノ瀛車鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三章 道路橋梁渡船

◎廳中達第三八號

(明治三十四年八月五日)

內務部

縣費支辨道路常用工夫設置規程別紙之通定ム

縣費支辨道路常用工夫設置規程

- 第一條 縣費支辨ニ屬スル道路ヲ四區ニ分チ是ニ工夫頭及常用工夫ヲ置キ其維持修繕ニ從事セシム
- 工夫頭及常工夫ノ受持區域及定員ハ別表ニ據ル
- 第二條 工夫頭及常用工夫ハ土木管理區主幹ノ監督ヲ受クルモノトス
- 第三條 工夫頭ハ常ニ受持區域ヲ巡視シ常用工夫ノ勤怠ヲ監査スルモノトス



第四條 常用工夫ハ其受持區域内ニ於テ左ノ業務ニ従事スルモノトス

- 一 車轍其他凸凹搔均シ並ニ埋足
  - 二 崩落土石ノ取除
  - 三 耳石及土羽ノ繕ヒ
  - 四 下水溝浚渫及暗渠障害物ノ取除
  - 五 路面ニ突出セル大石ノ取除
  - 六 道路橋梁面ノ塵芥雜草ノ掃除
- 右之外特ニ命セラレタル事項

第五條 常用工夫前條ニ掲ケタル以外ノ破損ヲ發見シタル時若クハ交通ヲ妨クルノ虞アリト認メタルトキハ直チニ監督員ニ申告ス可シ

第六條 常用工夫ハ降雨ノ際下水暗渠ノ排水及橋梁ノ保護等ニ注意シ霖雨後ノ道路ニハ殊ニ注意スヘシ

第七條 常用工夫ハ豫テ砂利置場ニ備置キタル砂利ヲ隨時使用ス可シ

第八條 常用工夫ハ業務ノ稍閑ナル時期ニ於テ砂利其ノ他必要ノ材料ヲ蒐集スヘシ

第九條 常用工夫ハ毎日施行シタル箇所間數其ノ他必要ノ事項ヲ詳細ニ日誌ニ記載シ工夫頭及監

督員ノ捺印ヲ受クヘシ

工夫頭ハ常用工夫ノ勤怠其ノ他必要ノ事項ヲ日誌ニ記載シ監督員ノ捺印ヲ受ク可シ

第十條 常用工夫ノ就業時間ヲ定ムル事左ノ如シ

二月ヨリ四月迄	九時 間
五月ヨリ七月迄	十一時 間
八月ヨリ十月迄	九時 間
十一月ヨリ一月迄	八時 間

大祭日日曜日及年末二日年始三日間ハ休暇トス

但急施ヲ要スル修繕アル時ハ前項ニ拘ハラズ就業時間外又ハ休暇日ト雖モ就業スルモノトス

第十一條 疾病其ノ他ノ事由ニ依リ就業シ難キ時ハ工夫頭ハ監督員ニ常用工夫ハ工夫頭ヲ經テ監督員ニ其旨ヲ届出ヘシ

第十二條 工夫ニハ小車鶴嘴、鍬、鋤鍬等ヲ貸與ス其貸與品ハ鄭重ニ取扱ヒ且業務以外ニ是ヲ使用ス可カラス若シ故意過失ニ依リ亡失又ハ毀損シタルトキハ現品ヲ辨償シ又ハ修繕セシム

第十三條 工夫頭ハ日給金五拾錢以内常用工夫ニハ日給金參拾參錢以内ヲ支給ス日給ハ就業日數ニ應シ之ヲ支給ス

但規定ノ休暇日ハ之ヲ就業日數ニ算入スト雖モ疾病其他ノ事故ニ依リ休暇日ノ前後トモ就業セサルトキハ支給ノ限リニアラス(三十四年十月三十一日陸中(送第四四號ニテ但書追加)

附 則

第十四條 本規程ハ明治三十四年九月一日ヨリ施行ス

(常用工夫受持區域及定員配置表ハ略ス)

●號外 (明治十六年七月三十一日)

沿道郡町村

東海道往還並木保護法別冊ノ通相定候條此旨相違候事

- 第一 東海道往還並木及ヒ並木敷ヲ保護スルハ其地元町村ノ宜シク盡スヘキ義務トシ其實ニ當ラシム
- 第二 並木植繼ノ木種ハ土地適當ノモノヲ以テスヘシト雖モ尋常松木ヲ以テ之ニ充ツル者トス
- 第三 並木植繼ハ之ヲ其地元町村ニ受負ハシメ而シテ其受負年限ハ植繼ノ月ヨリ滿三ケ年トス
- 第四 毎年植繼ノ季節ニ至レハ掛員其ケ所及ヒ木數ヲ定メ之ヲ其町村ニ指示シ苗木代植付手間料等ノ見積書ヲ出サシメ調査ノ上更ニ積リ書ヲ以テ植繼ヲ命ス而シテ其費額ノ半額ヲ交付スヘシ
- 第五 植付了レハ直ニ之ヲ届出シメ検査ノ上其費金ノ殘額ヲ交付スルモノトス

但積リ書ニ相違アルトキハ無代價ヲ以テ植直シヲナサシメ又ハ費額ノ幾分ヲ減スルコトアルヘシ

- 第六 植付ヲ命スルニ方リ苗木代植付手間ノ外ニ其十分二以下ノ金額ヲ保護料トシテ下渡シ便宜方法ヲ設ケ周密之ヲ保護セシム故ニ若シ此年限中ニ於テ苗木枯死シ若シクハ亡失スル如キアレハ其保護ノ周到ナラサルモノトシ無代價ヲ以テ元ノ數ニ植足ヲナサシムルモノトス
- 第七 枝打或ハ草刈等手入ノ爲メ費用ヲ要スルコトアルトキハ實地検査ノ上其費金ヲ下付スルコトアルヘシ

●號外 (明治十五年一月十一日)

各 郡

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿ノ道路等憲兵巡行ノ節ハ單騎獨歩ト雖モ制服着用ノ節ニ限リ其實錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡松及開路願人共ハ無洩可相違此旨相違候事

●號外 (明治十五年三月二十日)

各 郡

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送並郵便物遞送集配(特ニ配建人タルヲ配建スルトキ)ノ時ニ限リ實錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡松及開路願人共ハ無洩可相違此

旨相違候事

●乙第二十八號

(明治十六年六月二十八日)

各 郡

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送并郵便物遞送集配特ニ配送人タルヲ證スレ服ヲ符シ配送スル時ノ時ニ限リ貸錢請求不相成旨客年三月二十日本縣號外ヲ以テ相違候處自今郵便局ヨリ左ノ如キ印鑑相渡置候筈ニ付右所持ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成候條此旨免許人共ヘ遺漏ナク達シ置クヘシ此旨相違候事

二寸五分

此印ハ驛遞局ヨリ各郵便局ヘ渡シアル局印

第 號

何 國

○ 何地郵便局脚夫

何 ノ 誰

○ 明治十六年月日

何 何 何 何  
地 國 郵 便  
局 地 國

●號外

(明治十五年十二月十二日)

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電信配達人配達特ニ配達人タルヲ證スル服ヲ着シ配送スルトキノ時ニ限リ貸錢

旨相違候事

●乙第九號

(明治二十四年五月十九日)

各 郡

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等制服ヲ着シタル電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治二十一年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

二寸五分

第 號

何 國

○ 何地郵便電信(電信)局集配人

何 ノ 誰

○ 明治年月日

何 何 何 何  
地 國 郵 便  
局 地 國

●訓令乙第五十一號

(明治二十一年十二月二十八日)

請求不相成候條兼テ免許人共ヘ遺漏無ク達シ置ク可シ此旨相違候事

郡 役 所

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等制服ヲ着シタル電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治十五年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

印 鑑 離 形

郡 役 所

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等制服ヲ着シタル電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治十五年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治二十一年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治二十一年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治二十一年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治二十一年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治二十一年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治二十一年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治二十一年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治二十一年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治二十一年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治二十一年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治二十一年十二月二十日中相違候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラヌ貸錢請求不相成ニ付更ニ免許人共ヘ示達スヘシ

月訓令乙第五十一號ヲ以テ相違置候處左ノ雛形ノ印鑑携帶ノ者モ同様貸錢請求不相成ニ付此旨更ニ免許人ヘ示達スヘシ

印鑑雛形

二寸五分

第 何 號  
何 國  
何 地 電 信 取 扱 所 配 達 人  
何 誰

何 何 何 何  
取 扱 所 信 地 國

●甲第二十七號 (明治十九年三月十二日)

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及開鑿ノ道路等本縣ニ於テハ自今府縣自他ノ差別ナク警察巡查ハ制服着用出張及囚人警護ノ節ハ其囚人主車駕等ニ係ル貸錢請求不相成候條此旨布達候事 (二十年縣令第八十號ヲ以テ改正)

但看守押丁ハ囚人警護ノ節ニ限り本文ニ準ス

●縣令第四十三號 (明治三十三年四月二十七日)

人民私費ヲ以テ開設シタル道路橋梁渡津ニ於テ陸海軍各種ノ召集ニ應スヘキ者若クハ召集發令ノ

達書ヲ送達スヘキ使丁ニ對シ賃錢請求相成テス

但二十四年縣令第四十六號ハ廢止ス

●縣令第二十七號 (明治二十八年三月三十一日)

道路橋梁渡津等ニ於テ明治十五年第四十三號布告發令第十二條第十三條ニ係ル徵發物件 (輸送ノ器具及輸送人ヲ包含ス) ニ對シ賃錢請求スルヲ得ス

●號外 (明治十三年四月十六日)

各 郡

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津又ハ新道自今軍隊々伍ヲ組ミ行進ノ節ハ其賃錢請求不相成旨內務省ヨリ達有之候條兼テ許可有之架橋渡船願人共ニ無漏可相違此旨相違候事

●乙第十號 (明治二十七年六月十六日)

郡役所 市役所

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等本年勅令第十五號消防組規則ニ依リ設置シタル消防組員ニシテ水火災警防演習等ニ際シ一定ノ服裝ヲナシタルトキニ限り其賃錢請求不相成候ニ付其旨免許人ヘ示達スヘシ

●訓令甲第十二號 (明治二十一年四月二十四日)

自今道路橋梁ノ修繕ヲ施行スルトキハ其地方稅補助ニ係ル分ト町村費若クハ篤志金ヲ以テスルトニ拘ラス總テ着手ニ先チ其旨所轄警察署又ハ分署若クハ巡查派出所駐在所へ通知スヘシ

●丙第四十八號 (明治十八年六月六日)

郡 町 村

郵便物ノ儀ハ専ラ速達ヲ要シ晝夜ノ別ナク時間ヲ期シ遞送ノ處該線路内道路修繕等ニ際シ往來止或ハ車馬止ノ箇處等有之爲メ迂路ヲ遞送シ多少ノ遲達ヲ來シ候テハ公衆ノ不便不悞候ニ付車馬又ハ人夫ノ通行シ得ラル、限リハ該遞送ニ限リ特ニ通行差許候條此旨相達候事

●土第一一號、土第一二號 (明治二十三年七月二十五日)

郡市長 町村長

道路橋梁修築等ニ際シ衆庶ノ往來車馬ノ通行ヲ止ムル儀ハ公衆ノ不便ヲ感スル勢ナカラサルニ付工事上大ナル支障アルカ又ハ通行ニ危險ノ虞アルモノヲ除ク外ハ可成交通ノ便ヲ謀リ通行止メヲ爲サ、ル様注意スヘシ

●甲第十四號 (明治三十一年四月十五日)

郡役所 市役所 町村役場

交通ノ現況ヲ詳悉スルハ東京防禦總督ニ於テ其防禦計畫ヲ策定スル爲メ最モ必要ナル趣ニ付自今

左記諸項ノ件ハ其都度無遲滯東京防禦總督部(東京市麹町區代官町)へ直接報告スヘシ  
道敷幅二間以上ノ道路

破損若クハ山腹崩壞其他ノ故障ニヨリ人馬車輛ノ通過シ難キニ至レハ其地点土質路幅(敷幅以下做之)及故障ノ概略ト修築ニ要スル豫定日數又完成シタル時ハ其期日

新築若クハ改築ノ爲メ起工スルトキハ其地点新舊路幅及工事ニ要スル豫定日數又完成シタルトキハ其期日

前二項ノ場合ニ於テ全部完成セサルモ其一部國道若クハ縣道ニ接続スレハ其都度

橋而平積一坪ニ付二百貫目以上ノ重量ヲ滿面ニ積載スルモノニシテ其幅員(左右欄干ノ内徑)一間半以上ノ橋梁

報告ノ要領ハ道路ニ準ス但一坪ニ於ル負擔量及其構造即チ鐵橋、石橋、木橋、土橋、若クハ舩橋ヲ區別シ尙橋梁ノ全長ヲ附記スヘシ

幅(濕拔ヲ除ク)二間以上及内高十五尺以上ノ隧道

報告ノ要領ハ道路ニ準ス但隧道ノ幅員内高及内部ノ構造即チ岩石煉瓦、木材等ヲ種別シ尙隧道ノ全長ヲ附記スヘシ

●土第二號 (明治二十三年十月二十七日)

本年法律第七十一號軌道條例ニ關シ出願者アルトキハ右願書ハ郡市役所町村役場ヲ經由セシメ其里道ニ關スルモノハ市町村會ノ意見ヲ附シ市ニ關セサルモノハ尙ホ郡長ニ於テモ意見ヲ付シ差出スヘキ義ト心得ヘシ

●土第一二八四號 (明治二十五年九月二十一日)

各郡長宛内務部長通牒

明治二十三年十月二十七日土第二號ヲ以テ軌道條例ニ關スル件達相成居候處國縣道ニ布設スヘキモノニシテ其間ニ介在スル里道ヲ單ニ橫斷スル場合ハ故ラニ町村會ヘ諮問スルヲ要セサル儀ニ候條其旨町村役場ヘモ通達相成度命ニ依リ此段申進候也

●土第一二八四號 (明治二十五年九月二十一日)

静岡市長宛静岡縣内務部長通牒

明治二十三年十月二十七日土第二號ヲ以テ軌道條例ニ關スル件達相成居候處國縣道ニ布設スヘキモノニシテ其間ニ介在スル里道ヲ單ニ橫斷スル場合ハ故ラニ市會ヘ諮問スルヲ要セサル儀ニ候條命ニ依リ此段申進候也

●縣令第七十九號 (明治二十一年十二月二十日)

明治十八年<sup>十一月</sup> 本縣甲第九十六號布達ヲ廢シ渡船取締規則左ノ通相定ム

第一條 渡船(桶筏越共)ヲ爲サントスル者ハ(橋梁ニ係ル一時間<sup>般ノモノハ除ク</sup>)所轄郡役所ヘ出願許可ヲ受ケ廢業スルトキハ其旨全所ヘ届出ヘシ

第二條 渡船人ハ左ノ事項ヲ示シタル標札ヲ所轄郡役所ニ請ヒ渡船場兩岸ニ掲ケ夜中ハ標燈ヲ掲ケヘシ

- 一 本縣渡船取締規則
  - 一 渡船賃(人車馬荷物平水増水夜中等ノ別)
  - 一 乗客人員(平水増水等ノ別)
  - 一 搭載總量目(乗客荷物船頭等共及平水増水ノ別)
  - 一 渡船時限
  - 一 渡止水量
  - 一 乗組船頭人員(平水増水夜中等ノ別)
- 右ノ外要件

第三條 渡船人ハ堅牢ナル水量標ヲ渡船場兩岸ニ設立スヘシ

第四條 國道ニ係ル渡船時限ハ其渡止ハ午後十時以後渡初ハ午前三時以前トシ且ツ兩岸ニ渡船ヲ禁留スヘシ(明治二十三年縣令第一七號ヲ以テ本條中更正)

第五條 渡船時限外ト雖モ越立ヲ請フモノアルトキハ速ニ之レニ應スヘキ爲メ常ニ相當ノ準備ヲ  
 ナシ其越立ヲ請フヘキ箇所又ハ渡船人ノ氏名等渡船場兩岸ニ揭示スヘシ

第六條 乗客ハ一人タリトモ速ニ越立ヲ爲スヘシ

第七條 揭示外ノ賃錢ヲ受ケ其他乗客人員搭載總量目渡止水量ヲ越ヘ又ハ船頭ヲ減シテ越立ヲナ  
 スヘカラス

第八條 町村名若クハ數名聯合ヲ以テ渡船ノ許可ヲ受ケ交番渡船ヲ爲スノ契約アルモノハ當日ノ  
 渡船人ヲシテ其實ニ任ス

第九條 揭示ニ係ル費用ハ渡船人ヨリ辨償スヘシ

第十條 此規則第一條第二條第三條第四條第五條第七條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘  
 留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

同則第六條ニ違背シ故ナク通行ヲ妨ケタル者及第七條中揭示外ノ賃錢ヲ受ケタル者ハ刑法ノ處  
 分ニ從フ(明治二十一年縣令第八  
 十四號ヲ以テ追加更正)

### 第四章 里程

●丙第二十七號

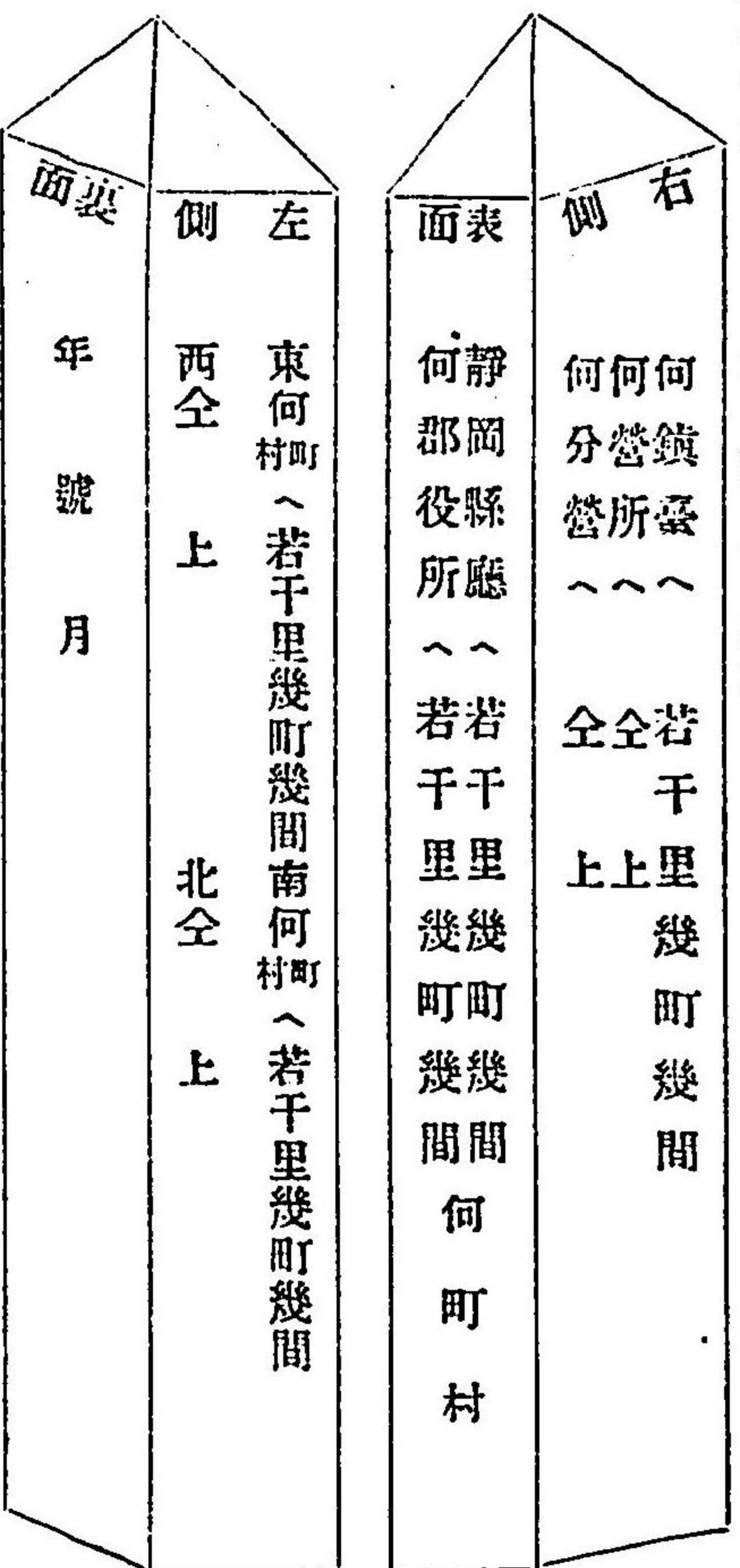
(明治十八年四月六日)

郡 町 村

里程標柱ノ儀ハ衆庶ノ便利ヲ得ル儀ニ付左ノ書式ニ據リ縣廳并所轄郡役所四隣町村且伊豆國ハ東  
 京鎮臺及佐倉營所高崎分營駿遠兩國ハ名古屋鎮臺及金澤營所豊橋分營ヘノ里程ヲ記載セシ標柱ヲ  
 各町村中央ヘ建設スヘシ此旨相達候事

但東海道筋各宿ハ里程標柱ノ傍ラヘ建設スヘシ且數町村連接一市街同標ノ場所ハ其中央ヘ一ヶ  
 所建設スルモ妨ケナシ

標柱書式 木質并ニ寸尺適宜



土 木 里 程

●訓令甲第十二號 (明治二十二年三月十一日)

郡役所 戸長役場

今般市町村區域更定候處里程標柱ハ當分舊町村既設ノ標柱ヲ其儘保存シ置クハ妨ケナシト雖モ新設改築改書セントスルモノハ市町村名ノ下ヘ大字ヲ記載スヘシ

●無號 (明治二十年三月二十一日)

郡役所 戸長役場

縣下各町村ヨリ本廳及ヒ所轄郡役所ヘ達スル里程別冊ノ通リニ付此旨心得ヘシ(別冊ハ略ス)(四年甲第三十八號三十五年甲第十三號三十二年甲第四十號二十九年甲第二號第十九號三十二年甲第二十三號三十二年甲第二十二號ノ各號ヲ以テ表中修正)

●無號 (明治二十一年三月三十日)

郡役所 戸長役場

今般各町村ヨリ經廳并ニ所轄郡衙ヘノ里程相違候ニ付テハ自今町村分離合併又ハ道路變更等ニ依リ伸縮有之節ハ其都度郡役所經由届出ツヘシ

### 第五章 地理

●縣令第七十四號 (明治二十九年十月十六日)

官有土地水面使用規程左之通相定ム

#### 官有土地水面使用規程

第一條 官有土地 市町村ニ於テ修理保存費ヲ負 水面 地ヲ河川湖海池川ヲ使用 官廳私有土地水面ニ係ル セントスルモノハ左ノ事項ヲ具ヘタル願書ニ圖面ヲ添ヘ地元市役所又ハ町村役場 使用セントスル土地水面ノ數 市町村ニ關係スルモノハ其内 又ハ役場ヘ差出シ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ  
但使用セントスル土地水面ニ土木工事ヲ施サントスルモノハ明治二十九年十月縣令第七十三號土木施行規則ニ依リ別ニ出願ヲ要スト雖トモ豫メ其設計ノ概略ヲ掲タル書面並其略圖ヲ添付スヘシ

一 願書ニ記載スヘキ事項概テ左ノ如シ

一 出願土地水面所在ノ郡市町村大字名、字名、並其土地水面ノ地番、河川ニ關係アルモノハ河川名、地目、反別、(河川湖海等ニ係ルモノハ使用面積)

期限一ケ年以上ノモノハ 一反步當リ

年額 一ケ年ノ料金

一 使用料金 同一ケ年未滿ノモノハ其月數ニ對スル額 同一ケ月料金  
同一ケ月未滿ノモノハ其日數ニ對スル額 同一日ノ料金



一 使用期限

一 使用目的

二 圖面ニ記載スヘキ事項概テ左ノ如シ

一 出願土地水面ノ字名、番地、河川ニ關係アルモノハ河川名、地目、反別、又ハ面積、

區域歩詰ヲ要ス

一 隣地(河川湖海等ニ係ルモノハ水面ニ接續スル陸地)ノ字名、地番、地目、反別、地價

一 近傍ノ景況(河川湖海等ニ係リ堤防アル場合ニハ其堤防ニ對スル距離位置等)

第二條 地元又ハ關係市町村長前條ノ願書ヲ受付ケタルトキハ其市町村ノ故障ノ有無ヲ審査シ關係市町村アルトキハ其市町村長ノ意見ヲ聽キ支障有無共願書ニ與書シ關係市町村長ニ於テ支障ノ意見アルトキハ其ノ意見書ヲ添付シ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外市ニ在リテハ縣廳ヘ町村ニ在リテハ所轄郡役所ヲ經由シテ縣廳ヘ進達スヘシ

土地水面所轄外ノ郡市役所ニ於テ前項ノ願書ヲ受付タルトキハ土地水面所轄ノ郡市役所ニ回付シ縣廳ヘ進達スヘシ

第三條 前條ニ依リ願書ヲ受付ケタル市町村長ヨリ意見ヲ聽キタルトキハ關係市町村長其照會ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日以内ニ支障ノ有無共回答スヘシ

願書ヲ受付ケタル市町村長ニ於テ其市町村ノ故障ノ有無ヲ審査スルモ亦前項期限ニ依ル

第四條 前條期限内ニハ關係市町村長ヨリ回答ヲ爲サルトキハ願書ヲ受付ケタル市町村長ハ其旨ヲ副申シ速ニ願書ヲ進達スヘシ

第五條 土地水面使用ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ區別ニ從ヒ受書ヲ調整シ圖面ヲ添ヘ指令到達ノ日ヨリ十四日以内ニ差出スヘシ

一 官屬公有土地水面使用ノ許可ヲ得タル者ハ第一號書式ノ受書差出スヘシ但堤塘、道路、並木敷使用ノ許可ヲ得タル者ハ第二號書式ノ受書差出スヘシ

二 官屬私有土地水面借用ノ許可ヲ得タル者ハ第三號書式ノ受書差出スヘシ

前項第一ノ但書及第二ニ記載セル土地水面ニ付テハ時宜ニ依リ契約書ヲ徵スルコトアルヘシ其差出期限ハ前項ニ同シ

本條期限内ニ受書又ハ契約書ヲ差出サ、ルトキハ許可ノ効ヲ失フモノトス

第六條 受書差出シタルトキ又ハ契約締結シタルトキハ其土地水面ノ引渡シ方ヲ所轄郡市役所ニ請求スヘシ

第七條 料金上納方ハ明治二十四年三縣令第十九號官有地諸收入金徵收規程ニ依ルヘシ

第八條 官有土地水面ノ使用人ハ其土地水面ニ損害ヲ加フヘカラサルハ勿論其區域内ニアル官有

物件ノ保存上障害アルヘキ所為ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 官有土地水面ノ使用人ハ縣廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其使用セル土地水面ノ原形ヲ變シ若クハ當初ノ目的以外ニ轉用スルコトヲ得ス

第十條 官有土地水面ノ使用人ハ縣廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其土地水面ノ使用權借用權ヲ擔保貸付ニ供シ又ハ他ニ移スコトヲ得ス

第十一條 官有土地水面ノ使用人ハ其使用期限満期ニ至リタルトキハ縣廳ヘ届出返還スヘシ

第十二條 官有土地水面ノ使用人ハ其土地水面返還ノ場合ニ於テハ左ノ期限内ニ該區域内ニ現存スル私有物ヲ除却シ當初ノ目的ニ依リ開墾シタルモノ及特ニ現狀ノ儘返還ヲ許シタルモノヲ除クノ外總ヘテ原形ニ復シ縣廳ヘ届出ヘシ

但急速私有物ヲ除却シ又ハ原形ニ復セシムルノ必要アルトキハ本條ノ期限ヲ短縮スルコトアルヘシ

一 行政廳ヨリ返還ヲ命シタルトキハ違書到達ノ日ヨリ起算シ三十日以内

二 使用人又ハ借受人ノ申出ニ依リ期限内ニ於テ返還ヲ許可セシトキハ其指令到達ノ日ヨリ起算シ三十日以内

三 期限満期ノモノハ期限内

地元又ハ關係市町村長本條ノ届書ヲ受領シタルトキハ實際届出ノ如ク履行セシヤ否ヲ調査シ其旨與書スヘシ

第十三條 期限満期後引續キ官有土地水面ヲ使用セントスルモノハ本規程第一條ノ手續ニ依リ期限内更ニ出願スヘシ

第十四條 明治二十年ハ縣令第六十八號街路取締規則ニ據リ國道及國道並木敷ノ使用ヲ所轄警察署ニ出願スルモノハ此規程ニ據ルノ限リニアラス

第一號書式

證券  
印紙

御 受 書

(命令書ノ全文ヲ掲クヘシ)

右御命令ノ條項遵守可仕候依テ保證人連署御受書差上候也

何國何市何町何大字何

何番地

年 月 日

何國何市何町何大字何

何番地

某 印

静岡縣知事宛

何番地  
保證人 何 某印

第二號書式

證券  
印紙

御受書

何國何市郡何村大字何

字何

何番地先  
何官有地先

(國道)(國道並木敷)ノ内

一何反別何程

區域ハ別紙圖面ノ通

一ヶ年使用料金何程

但壹反歩ニ付  
但金何程

使用目的何々

使用期限明治何年何月ヨリ至何年何月迄

右使用ノ儀奉願候處明治何年何月何日何第何號ヲ以テ御許可相成候ニ付テハ明治何年縣令第何

號官有土地水面使用規程ノ條項ハ勿論左ノ事項遵守可仕候依テ保證人連署御受書差上候也

何國何市郡何村大字何

何番地

年月日

何國何市郡何村大字何

何番地

何國何市郡何村大字何

某團

静岡縣知事宛

第一 使用地ノ保存修繕並ニ之ヲ要スル費用ハ總テ負擔可仕候

第二 使用期限中ト雖トモ法律命令ノ御施行ニ依リ又ハ公益上其他費應ニ於テ必要ト認メラル

、場合ニハ何時ニテモ明治何年縣令第何號官有土地水面使用規程(以下單ニ官有土地水面使用規程ト記ス)若クハ本

書ニ掲載ノ事項ヲ増減變更セラレ又ハ使用地ノ全部若クハ幾部ノ返還ヲ命セラル、モ異議無之候

第三 官有土地水面使用規程若クハ本書ニ掲載ノ事項ニ違背シタルトキハ之ヨリ生シタル損害

ヲ賠償可仕ハ勿論使用地ノ返還ヲ命セラル、モ異議無之候

第四 第二項第三項ノ御處分ニ依リ使用地ヲ返還シ又ハ權利上ニ變更ヲ來タシ爲メニ損失アル

モ補償等一切請求仕間敷候

第五 使用年期中ト雖トモ縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ施行セラルヘキ土木工事若クハ水害防禦等ノ爲メ必要アル場合ニハ御係吏員又ハ右關係人ハ何時ニテモ使用地ノ區域内ニ立入り若クハ一時私有物ノ除却ヲ命セラル、モ異議無キハ勿論之レカ爲メ損失アルモ補償等一切請求候仕間敷

第六 官有土地水而使用規程第十二條ノ期限内ニ萬一私有物ヲ除却セサルトキハ貴廳ニ於テ之ヲ執行セラル、モ異議無之且其費用ハ御指揮次第遲滞ナク御指示ノ者ヘ拂渡可申候

第七 使用人ニ於テ第三項ノ賠償ヲ爲サス又ハ料金ノ上納ヲ忘リ若クハ前項ノ拂渡ヲ爲サルトキハ保證人ニ於テ辨償可仕候

右之通り

第三號書式



御 受 書

何國何市郡何町何大字何

字何

何番官有地

一何反別何程

一夕年借用料金何程

借用目的何々

借用期限明治何年何月ヨリ全何年何月迄

滿何夕年期

右借用ノ義奉願候處明治何年何月何日何第何號ヲ以テ御許可相成候ニ付テハ明治何年縣令第何號官有土地水而使用規程ノ條項ハ勿論左ノ事項遵守可仕候依テ保證人連署御受書差上候也

區域ハ別紙圖面ノ通

但發反歩ニ付  
金何程

何國何市郡何町何大字何

何番地

借用人何

某印

何國何市郡何町何大字何

何番地

保證人何

某印

静岡縣知事宛

第一 借用地ノ保存修繕並ニ之ニ要スル費用ハ總テ負擔可仕候

第二 借用期限中ト雖トモ法律命令ノ御施行ニ依リ又ハ公益上其他貴廳ニ於テ必要ト認メラルル場合ニハ何時ニテモ明治何年縣令第何號官有土地水面使用規程(以下單ニ官有土地水面使用規程ト記ス)若クハ本書ニ掲載ノ事項ヲ増減變更セラレ又ハ借用地ノ全部若クハ幾部ノ返還ヲ命セラレ、モ異議無之候

第三 官有土地水面使用規程若クハ本書ニ掲載ノ事項ニ違背シタルトキハ之ヨリ生シタル損害ヲ賠償可仕ハ勿論借用地ノ返還ヲ命セラレ、モ異議無之候

第四 第二項第三項ノ御處分ニ依リ借用地ヲ返還シ又ハ權利上ニ變更ヲ來タシ爲メニ損失アルモ補償等一切請求仕間敷候

第五 官有土地水面使用規程第十二條ノ期限内ニ萬一私有物ヲ除却セス又ハ原形ニ復セサルトキハ貴廳ニ於テ之ヲ執行セラルルモ異議無之且其費用ハ御指揮次第遲滞ナク御指示ノ者ハ拂渡可申候

第六 借用人ニ於テ第三項ノ賠償ヲ爲サス又ハ料金ノ上納ヲ怠リ若クハ前項ノ拂渡ヲ爲ササルトキハ保證人ニ於テ賠償可仕候  
右之通リ

●訓令甲第二十一號 (明治二十五年八月八日)

郡 役 所

其郡限り處分スヘキ土地工事願ニ關聯スル官有土地水面使用願ハ工事願處分以前其工事ニ對スル許否ノ意見ヲ副申當廳ニ進達スヘシ

●甲第四十一號 (明治二十四年十二月二十七日)

郡役所 市役所 町村役場

官地拂下貸下及水面埋立并使用等出願者アリタルトキハ願書ニ願地市町村名字番地目反別料金年季使用目的等ヲ詳記セシメ市町村長ニ於テ該地支障ノ如何ヲ調査シ其事由ヲ具シ當廳ヘ町村ハ郡役所ヲ經由スシテ差出スヘシ

但本文ノ願書ニハ願地ハ勿論接續地ノ實況ヲ詳記セル地圖ヲ添付セシムヘシ

郡役所 市役所 町村役場

●甲第六號 (明治二十六年三月十日)

市町村費負擔ニ係ル官有堤塘道路並木敷ノ使用及全上ノ堤塘道路並木敷用悪水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ處分及其收益ニ關スル件左之通相定ム  
但明治十九年十二達第三十六號達ヲ廢止ス

第一條 市町村費負擔ニ係ル官有堤塘道路並木敷ノ使用ヲ出願スルモノアルトキハ其費用ヲ負擔スル市町村長ハ其市町村會決議之上郡役所(明治二十年八月縣令第六十八號街路規程附則第一條ニ關係アルモノハ所轄警察署若クハ分署)ヲ經由シ左ノ各項ノ要件ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ(明治二十六年甲第四十號ヲ以テ括弧中更正)

但使用年限中其目的方法ヲ變更シ若クハ他人ニ使用ヲ移サントフ出願スルモノアルトキハ亦本條ノ例ニ依ル

- 一 出願人ノ住所姓名
- 一 出願地ノ位置反別(坪數)並其圖面(四圍境界ノ間數及ヒ隣地地目番號記入ヲ要ス)
- 一 使用ノ目的並其方法
- 一 支障ノ有無
- 一 期限並一ケ年料金

第二條 前條ノ土地及用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其他副産物ノ處分ヲ要スルトキハ左ノ要件ヲ具シ同條ノ手續ヲ經テ處分スヘシ

但本條樹木ニシテ難捌危險又ハ出水防禦ノ爲メ特ニ急施ヲ要スルモノハ市町村長限リ處分シ其狀ヲ具シ報告スルコトヲ得

- 一 處分ヲ要スル竹木又ハ副産物ノ種類及數量(樹木ハ一本毎ノ長目通、竹ハ三寸以上ハ本數三寸、細木、薪ノモノ及草等ハ三尺以上ノ束數記載ヲ要ス)

- 一 處分ヲ要スル事由
- 一 副産物ノ年期賣拂ヲ要スルモノハ第一條要件中第一第二第四第五

第三條 土地使用及副産物拂受ノ繼年期ヲ出願スルモノアルトキハ第一條又ハ第二條ノ手續ヲ經テ處分スヘシ

第四條 市町村長ニ於テ前各條ノ認可ヲ受ケ土地使用及副産物ノ年期賣拂ヲ許可スルトキハ左ノ事項其他必用ト認ムル條件ヲ具シタル證書ヲ出願人ヨリ徴シ置クヘシ

- 一 許可ヲ得スシテ目的以外ニ其土地ヲ使用シ又ハ漫リニ原形ヲ變シ若クハ立竹木ニ傷害ヲ及ボシタルトキハ其損害ヲ補償セシムルコト
- 一 許可ヲ得スシテ免許權ヲ他人ニ移スコトヲ得サルコト
- 一 公共事業ニ關シ其土地ヲ必要トスルトキ又ハ前兩項ニ掲クル所爲アルトキ若クハ料金ノ納入ヲ怠ルトキハ何時ニテモ無償ニテ返付セシムルコト
- 一 前項ノ場合又ハ滿期ノ場合ニ於テ願人其所有物ヲ取拂ハサルトキハ市町村費ヲ以テ之ヲ取拂ヒ其費用ヲ願人ヨリ追徴スルコト

第五條 許可年期中本人ノ出願若クハ前條第三項其他ノ事故ニヨリ市町村長ニ於テ解約ノ處分ヲナシタルトキハ其時々當廳ヘ報告スヘシ

第六條 前各條ノ處分ニヨリ生ズル所ノ使用料其他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル市町村ヘ收入スヘシ

但竹木其他副産物(年期費拂ノモノヲ除ク)ノ收入ハ其時々當廳ヘ報告スヘシ

第七條 公共事業ニ共スル爲メ使用許可シタル土地ニ付テハ料金ヲ徵收セサルモノトス

第八條 費用ノ主擔定ラサルカ又ハ年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路並木敷用悪水路土居敷等ニ關スル事項ハ縣廳ニ於テ處分シ其收益ニ屬スルモノハ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル市町村ヘ配付スルモノトス

●地第一二八號 (明治二十六年十二月二十二日)

各郡長宛内務部長通牒

市町村費負擔官有堤塘道路並木敷及用悪水路土居敷等ニ屬スル竹木其他副産物ノ處分ニヨリ生ズル所ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル市町村ヘ收入ノ義本年<sup>三</sup>甲第六號ヲ以テ規定相成居候處右竹木等拂下ヲ爲スニハ市制町村制第八十七號ニ依リ取扱フヘキ旨其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條其旨御所轄内各町村ヘ御示達相成度此段及通牒候也

●地第一二八號 (明治二十六年十二月二十六日)

市長宛内務部長通牒

(前同文ニ付省ク)

●訓令甲第二十二號 (明治三十三年八月十日)

郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

郵便電信局ヨリ地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ヘ郵便柱兩新設移轉ノ照會ヲ受ケタルトキハ縣費負擔ノモノニ在テハ所轄警察官署限リ市町村負擔ノモノニ在テハ市役所町村役場限リ處分スヘシ但市町村費負擔ノ道路並木敷ニ在テハ警察官署ニ協議ヲ遂クヘシ

前項承認濟ノモノハ市町村字名地目地番及圖面ヲ添付シ其事山ヲ當廳ニ報告スヘシ

●甲第二十四號 (明治三十二年十一月二十八日)

郡役所 市役所 町村役場

地盤ノ市町村有又ハ一個人ノ所有ニ屬スル市町村費負擔堤塘道路用悪水路土居敷ノ使用及之ニ生ズル雜産物ノ處分ハ其修築及保存ノ費用ヲ負擔スル市町村ニ於テ管理スヘシ

但内務省直轄又ハ流域二府縣以上ニ跨ル河川ノ堤塘使用ハ當廳ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ

●地第五六九號 (明治二十八年六月十八日)

各郡市長宛内務部長通牒

直接公用ニ供シアル官有土地水面上空中ヘ電燈線電話線若クハ橋梁掛樋ノ類ヲ架設スルモノハ其

土地水面ノ使用トシテ取扱方曾テ中進候向モ有之候處右ハ自今使用山願ニ及ハス唯其工事ノ設計ヲ詳悉シ該事業施設ノ義出願セシメ候ハ、差支無之候間右ニ御取扱相成度命ニ依リ此段及通牒候也

●地第一〇一三號

(明治二十九年八月七日)

各郡長引佐周賀宛内務部長通牒

國道ニ屬スル並木敷使用料ノ義自今壹坪ニ付一ケ年金五錢以上ニアラサレハ詮議不相成積リ決定相成候間今後出願ノ分ニシテ右料金ニ達セサルモノハ直ニ訂正セシメラレ度此段及通牒候也

●甲第二十九號

(明治三十一年十一月十一日)

郡役所 市役所 町村役場

官有財産管理規則第十三條及官有地特別處分規則第三條ニ依リ土地ノ無代下付ヲ出願スルモノハ自今其地ノ直接公用廢止ト共ニ一紙ニ記載シ差出スヘシ

●縣令第十九號

(明治二十四年三月二十九日)

官有地諸收入金徵收規程左ノ通改正シ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

但明治十九年九縣令第十八號官地竹木諸產物拂下代及借地料土石堀採料徵收規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

官有地諸收入金徵收規程

第一條 官有地ヨリ生スル諸收入金ハ此規程ニ依リ徵收ス

第二條 諸貸付料賣拂代ノ徵收期ハ左ノ各項ニ依ル

第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付土石及ヒ諸產物賣拂契約ニ屬スル料金及ヒ代金ハ甲年四月ヨリ乙年三月マテテ一期トシ甲年四月中ニ徵收ス但四月以後新ニ貸付又ハ賣拂契約ヲ設定シタルモノハ初期分ニ限り契約設定ノ日ヨリ三十日以内ニ徵收ス(三十二年十二月縣令第六十九號ヲ以テ加除修正)

第二項 (全上削除)

第三項 月又ハ日ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ニ屬スル料金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件使用前ニ徵收ス

第四項 隨時ノ賣拂契約ニ屬スル代金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件交付前ニ徵收ス

第三條 有期設定ニ屬スル諸貸付料及ヒ諸賣拂代ノ徵收額算定方ハ左ノ各項ニ據ル

第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及ヒ土石賣拂契約ノ四月ニ起リ若シクハ三月ニ滿期トナルモノハ全年分ヲ算定シ五月以後ニ起リ若シクハ二月以前ニ滿期トナルモノハ月割ヲ以テ算定ス  
第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物ノ賣拂契約ハ初期終期ヲ問ハス總テ全年分ヲ算定ス  
第三項 月ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ハ初月終月ヲ問ハス總テ全月分ヲ算定ス



第四條 有期設定ニ屬スル諸貸付及ヒ諸賣拂契約ヲ該期限中解除シタルトキ其料金及ヒ代金免除方ハ左ノ各項ニ據ル

第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及ヒ土石賣拂契約ヲ官ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

第二項 年ヲ以テ設定シタル諸産物ノ賣拂契約ヲ官廳又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ該期ニ物件ヲ採取セシヤ否ヤヲ調査シ採取前ナレハ其年度ヨリ代金ヲ免除シ採取後ナレハ物件ノ年額數量ヨリ採取數量ヲ控除シタル殘數量ニ應シテ免除シ對手人ノ契約違反又ハ季節物ノ賣拂ニシテ解除ノ當時既ニ季節經過シタルトキハ其翌年度ヨリ免除ス(三十一年縣令第六十九號ヲ以テ修正)

第三項 月ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ヲ官廳ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

第四項 日ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ヲ官廳又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其日ヨリ免除ス

●郡第二十一號 (明治二十六年十二月九日)

郡 役 所

免租地ノ典廢願民有地ノ買上又ハ上地及ヒ土地收用市町村ノ字名改稱又ハ區域變更ニ係ル簿書及

官有道路堤塘等直接公用廢止上申書自今左ノ手續ニ依リ處理スヘシ(明治二十八年十一月郡第五號ヲ以テ本文中ヘ追加)

但明治二十五年八月郡第十五號ハ廢止ス

- 一 左ニ掲クル簿書ヲ受理シタルトキハ收稅署ヘ送付シ土地臺帳ノ對照ヲ受ケタル上委任外ノモノハ本廳ヘ差出シ委任ニ屬スルモノハ既定ノ手續ニ依リ處分シ其都度稅務署ヘ通知スヘシ(三十二年二月郡第三號ヲ以テ改正削除)

官有道路堤塘等直接公用廢止上申書(二十八年郡第五號ヲ以テ追加)

免租地ノ典廢願

民有地ノ買上又ハ上地及ヒ土地收用ニ關スル一筆限簿書

市町村ノ字名改稱又ハ區域變更ニ係ル簿書官有道路堤塘等直接共用廢止上申書(明治二十八年郡第五號ヲ以テ追加)

二 前項ノ指令原議書ハ租稅調定ニ關スル證憑書類トシテ翌年二月十五日限收稅署ヘ送付スヘシ

三 委任ニ屬スル土木工事潰地ノ賣買ニ係ルモノハ登記濟ノ旨ヲ收稅署ヘ通知スヘシ

●告示第五十五號 (明治二十七年七月十三日)

明治二十二年七月七法律第十九號土地收用法第七條ニ依リ土地立入ノ認可ヲ受ケントスルモノハ左ノ

事項ヲ具シ出願スヘシ

- 一 工事起業者ノ住所氏名
- 二 工事ノ種別(某所ヨリ某所ニ至ル何道路又ハ河川等改良若クハ新設工事ノ別)
- 三 立入ヲ要スル郡市町村大字名
- 四 地圖(舊線路並ニ新設見込線及ヒ郡市町村大字ノ區域並ニ近傍ノ景況ヲ記入スヘシ)
- 五 立入ヲ要スル期限

●告示第五十二號 (明治二十五年十一月十一日)

縣下皇宮地附屬地ニシテ社寺土地ニ係ル分該社寺ヨリ委託出願スルモノハ御料局静岡支廳所轄出張所ヲ經由シ可差出旨御料局静岡支廳長ヨリ通知相成タリ

### 第六章 雜

●丙第九十一號 (明治十八年十一月六日)

郡 町 村

假定縣道以下ノ道路ニアル官有ノ並木及ヒ堤上木等倒木取片付並ニ電線出畑水利ニ障害ノ爲メ伐採スル人足賃評價人備貸新聞紙廣告料等ノ儀ハ該道路堤塘負擔ノ町村費ヲ以テ支辨致スヘク此旨

相違候事

●訓士第二十六號 (明治二十年二月二十二日)

各 郡 長

明治十九年十二月二十日付訓文第七號ヲ以テ及訓示候郡區長ニ於テ便宜施行シテ後府縣知事ニ報告スルヲ得ル事項ノ第九地方稅支辨ニ係ル道路堤防急破修繕ノ儀ハ地方稅負擔ニ係ル道路堤防ニシテ洪水等ノ爲メ破壊シ道路橋梁ニ在テハ通行杜絶シ堤防ニ在テハ引續キ出水ノ兆アリテ縣廳ニ之ヲ報告シ主務官ノ派出ヲ待テ施行スルトキハ公衆ノ休戚ニ關スルカ如キ緊急ノ場合ニ限り一時假リニ繕ヲ加フルノ義ニシテ引續キ出水ノ兆アルモ著シキ被害ノ虞ナキモノ若クハ主務官ノ出張シタル場合ノ如キハ固ヨリ該項ノ限外タリ但工事施行ノ節ハ仕様目論見帳ヲ製シ工事受負者ヲ定メテ之ニ下付シ土木工事受負規則ニヨリ受書ヲ徴シ直ニ該目論見帳寫ヲ以テ報告シ竣工ノ上ハ出來形精算帳ヲ差出ス儀ト心得ヘシ

右訓示ス

●甲第十七號 (明治三十二年七月六日)

郡役所 市役所 町村役場

當廳ニ差出スヘキ諸願届ノ内左ノ事件ハ自今所屬土木管理區當廳出張員ヘ送付スヘシ

- 一 堤塘道路並木敷水路使用願  
但郡長限リ處分スヘキ土木工事願ニ關聯スル官有土地水面使用願並繼續ニシテ異動ナキモノヲ除ク(三十五年訓令甲第二十號ヲ以テ但書改正)
- 一 土木工事願及之ニ對スル出來形届  
但縣費補助ニ係ル費路改良工事ヲ除ク
- 一 第二類河川汐除堤防補助費請求書

### 第七編 學 事

#### 第一章 御影並勅語謄本

●甲第二十七號 (明治二十三年十二月二十七日)

郡役所 市役所 町村役場

明治二十三年十月三十日教育ニ關シ下シ賜ヒタル

勅語ノ謄本及文部大臣ノ訓示ヲ交付シ併セテ勅語奉讀心得ヲ示ス其所轄内凡ソ教育ノ職ニ在ル者ヲシテ研磨黨陶督テ

聖意ノ貫徹ヲ期セシムヘシ

(勅語奉讀心得ハ二十五年甲第六號ヲ以テ廢止ス)

●訓令甲第二號 (明治三十四年一月二十四日)

郡役所 市役所 町村役場 公立學校 幼稚園(縣立學校ヲ除ク)

御影並勅語謄本奉置等ニ關スル規程左ノ通相定ム

御影並勅語謄本奉置等ニ關スル規程

第一條 學校ニ於テ

天皇陛下

皇后陛下ノ御影ヲ奉置スルニハ校内森嚴ナル場所ヲ擇フヘシ

第二條 御影奉置所ハ御影ヲ尊重ニ守護シ得ヘキ設備ヲナスヘシ

御影ハ唐櫃ノ類ニ奉藏シ牀面ヲ離ル、コト四尺以上ノ高ニ安置スヘシ

第三條 御影奉置所ニ就キテハ其ノ位置ヲ示シタル校内ノ平面圖並奉置所外面及内部ノ繪圖ヲ具

シ管理者ニ於テ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ但シ町村ニ在リテハ郡長ヲ經由スヘシ

前項奉置所内部ノ繪圖ハ奉置ノ狀況ヲモ顯ハスモノタルヘシ

第四條 御影ヲ奉置セル學校ニ在リテハ男職員宿直ヲナスヘシ但シ校地内若クハ校地ニ隣接シテ

教員住宅ノ設ケアルモノハ此限ニアラス

特別ノ事情アルトキハ期限ヲ定メ學校長ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受ケ前項ニ依ラサルコトヲ得

第五條 非常變災ニ際シ御影ヲ奉遷スヘキ場所ハ豫メ之ヲ定メ管理者ニ於テ監督官廳ニ届出ツヘ

シ其ノ變更ノ場合ニ於ケル亦同シ

第六條 市町村立尋常小學校幼稚園ニシテ設備完整シ他ノ模範トナスニ足ルヘキモノニハ郡市長

ノ稟請ニ依リ御影ノ複寫ヲ認可スルコトアルヘシ

前項ニ依リ複寫ヲ認可シタル幼稚園ニ就キテハ第一條乃至第五條ヲ準用ス

第七條 教育ニ關スル勅語謄本ノ奉置ニ關シテハ第一條第二條ノ規定ヲ準用ス

第八條 學校及幼稚園廢止等ノ節ハ其ノ奉置セル御影並勅語謄本ヲ管理者ニ於テ遲滞ナク縣廳ニ

差出スヘシ但シ町村ニ在リテハ郡役所ヲ經由スヘシ

附 則

第九條 現ニ御影ヲ奉置セル學校ニ在リテハ第三條ニ準シ平面圖並繪圖ヲ具シ明治三十四年四月

三十日限り縣知事ニ開申スヘシ

第十條 従前ノ規定ニシテ本規程ト重複若シクハ抵觸スルモノハ之ヲ廢止ス

第二章 小學校

第一 設 置

◎縣令第九十七號 (明治三十三年十二月十日)

小學校幼稚園盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校設置廢止等ニ關スル規則左ノ通相定ム

小學校幼稚園盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校設置

廢止等ニ關スル規則

第一條 小學校令第十五條ニ依リ市町村立高等小學校設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項並圖面ヲ具シ稟申スヘシ

一 設置區域内學齡兒童數(男女別)及最近四箇年間ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ終リタル曆年別兒童數(男女別)

二 學級編制豫定

三 市町村又ハ學校組合ノ收入支出豫算明細書  
區ノ負擔ヲ以テ設置スル場合ハ區ノ豫算明細書ヲ添付スルヲ要ス

四 位 置

市町村、字、地番、地目、反別及所有假借ノ別ヲ記スヘシ

五 校地圖面 (縮尺二百分ノ一)

校地ト体操場トハ點線ヲ以テ劃シ且地番毎ニ區劃ヲ明カニシ其ノ分筆ヲ要スルモノアルトキハ全地番ヲ記シ朱線ヲ以テ區別スヘシ

六 學校近傍ノ見取圖

學校ノ位置ヲ示シ其ノ高低、地質(高燥、卑濕、埋地、岩石地等ヲ區別ス)ヲ記シ其ノ附近ノ狀況ハ少クトモ一町以内ニアル人家、丘陵、森林、田畑、道路、河川等ノ區別及寄席劇

場等ノ有無ヲ記スヘシ

七 町村、町村學校組合ノ圖面

通學ノ便否ニ關スル狀況、學校ノ所在ヲ見得ルモノタルヘシ且通學最遠距離ヲ標記スヘシ  
校舍及附屬建物ハ前第五號圖面ニ其ノ配置ヲ示シ且左ノ例ニ依ルヘシ

一 既設ノ建物ヲ充用スル場合ニ於テハ其ノ圖面(縮尺二百分ノ一)ヲ添付スヘシ

二 新築ノ場合ニ於テハ前項稟申ト同時ニ明治三十三年靜岡縣令第九十六號第十四條ノ手續ヲナスヘシ

前項第一號圖面ニハ各部ノ名稱(通常教室、特別教室、教員室、出入口、昇降口、窓、便所、廊下、階段等)及其坪數ヲ記シ且牀ノ高、窓ノ高、天井ノ高、等ヲ付記スヘシ

第二條 市町村立高等小學校ノ設置其ノ組合立ニ係ルトキハ第一條第一項第一號ヲ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科ト一校ニ併置スルトキハ其ノ第四號乃至第七號ヲ具スルヲ要セス但シ併置ノ場合ニ於テ第一條第二項第一號ニ該當スルトキハ其ノ圖面中教室ハ尋常小學校ノ爲ニ使用スル部分ト高等小學校ノ爲ニ使用スル部分トヲ區別記載スヘシ

第三條 特別ノ事情ニ依リ市町村立高等小學校分教場ヲ設置スル必要アルトキハ其ノ事由ヲ具シ第一條ノ手續ヲナスヘシ但シ設備上ノ都合ニ依リ一時ノ假用ニ止マルモノハ管理者ニ於テ縣知

事ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 市町村立高等小學校ノ位置ヲ變更セントスルトキハ新ニ選フヘキ位置ニ係ル第一條第四號ノ要件ニ第五號第六號及第七號ノ圖面ヲ添付シ其事由ヲ具シ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ校地及体操場増減ノ場合ニ於テハ第四號ノ要件ト第五號ノ圖面ニ在來ノ部分ト増減ノ部分トヲ區別記載シ同様ノ手續ヲナスヘシ

第五條 郡長ニ於テ小學校令第十四條第四項ニ依ル町村學校組合ヲ設クル場合ニ於テ縣知事ノ指揮ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ稟申スヘシ

一 設置區域内町村別戸數、人口、學齡兒童數(男女別)及最近四箇年間ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ終リタル曆年別兒童數(男女別)

二 組合格約

第六條 小學校令第十五條ニ依リ市町村立高等小學校廢止ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由並兒童處分ノ方法ヲ具シ稟申スヘシ

第七條 小學校令第十六條ニ依リ私立小學校設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項並圖面ヲ具シ稟申スヘシ

一名 稱

二位 置

三 教 科

四 校地校舍ノ圖面

五 學級編制豫定

六 經費及維持方法

七 教員數及給料額ノ豫定

八 設立者ノ履歷

尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科ト一校ニ併置スル場合ニハ前項圖面中教室ハ尋常小學校ノ爲ニ使用スル部分ト高等小學校ノ爲ニ使用スル部分トヲ區別記載スヘシ

既設尋常小學校ニ於テ高等小學校ノ教科ヲ併置スルトキハ第二號及第八號ハ之ヲ具スルヲ要セス

第一項第二號乃至第四號ノ變更ハ縣知事ノ認可ヲ受ケ第一號ノ變更ハ縣知事ニ開申スヘシ

第八條 高等小學校修業年限ニ關シテハ市町村又ハ設立者ニ於テ第一條又ハ第七條ノ稟申ト同時

ニ小學校令第二十三條第二項ノ手續ヲナスヘシ

第九條 幼稚園盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校設置ニ關シテハ左ノ例ニ依リ市町村立ニ

就キテハ第一條第一項及第四條ヲ私立ニ就キテハ第七條第一項第三項ヲ準用ス

一 第一條準用ノ場合ニハ其ノ事項中第一號第二號ヲ除キ名稱學則生徒定員校舍及附屬建物ノ圖面ヲ要シ第七條準用ノ場合ニハ第三號第五號ヲ除キ學則、生徒定員ヲ要シ各種學校ニ就キテハ第一條第七條準用ノ場合トモ尙設置ノ目的ヲ加フ但シ圖面記載方ハ第一條第三項ノ例ニ依ル

二 前號設置ノ目的學則校舍及附屬建物ノ變更ハ縣知事ノ認可ヲ受ケ名稱ノ變更ハ縣知事ニ開申スルモノトス

三 幼稚園ニ就キテハ校地校舍ハ其ノ敷地建物、學則ハ其ノ規則、生徒ハ幼兒、教員ハ保姆ト同視ス

第十條 幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ヲ小學校ニ附設スルトキハ其ノ市町村立ニ在テハ第二條後段私立ニ在テハ第七條第二項ヲ準用シ其ノ組合ヲ設ケ設置スルトキハ第五條第一號中學齡兒童以下ヲ除キ同條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 本規則ニ依リ縣知事ニ差出スヘキ書面ハ町村ニ在リテハ總テ郡長ヲ經由スヘシ其ノ設置廢止ニ就キテハ郡長ハ其ノ意見ヲ副申スヘシ

附 則

第十二條 明治二十五年(二月)縣令第十九號ハ之ヲ廢止ス

●訓令甲第三十五號 (明治三十三年十二月十日)

郡役所 市役所 町村役場

尋常小學校設置等ニ關スル稟申并報告手續左之通相定ム

尋常小學校設置等ニ關スル稟申并報告手續

第一條 小學校令第九條第二項ニ依リ尋常小學校ノ校數位置ニ關シ郡長ニ於テ縣知事ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項并圖面ヲ具シ稟申スヘシ

一 町村、町村學校組合ノ意見書寫

二 校數位置

町村字地番地目段別及所有假借ノ別ヲ記入スヘシ又變更ノ場合ニ於テハ在來ノ分ヲモ記スヘシ

三 町村、町村學校組合ノ學齡兒童數(男女別)最近年末調

四 同上就學ノ期間ニ在ル兒童數(男女別)現在調

五 各小學校ノ學級變制豫定

六 町村、町村學校組合ノ圖面

通學ノ便否ニ關スル情況學校ノ位置ヲ見得ルモノタルヘク且通學最近距離ヲ標記スルヲ要ス

七 學校附近ノ見取圖

方位ヲ示シ校地体操場ノ區域ヲ明ニシ其高低地質(高燥卑濕地埋地砂地岩石地等ヲ區別ス)ヲ記シ且少クトモ凡一町以内ニアル人家丘陵森林田畑道路河川等ノ區別及寄席劇場等ノ有無ヲ標記スルヲ要ス

八 校地体操場ノ實測圖

縮尺二百分ノ一トシ校地ト体操場トハ點線ヲ以テ劃シ且地番毎ノ區別ヲ明ニシ分筆ヲ要スルモノアルトキハ全地番ヲ記シ朱線ヲ以テ區別スルヲ要ス

校地体操場ノ増減ニ止ルモノニ付テハ前項ノ手續中第三號第四號第六號第七號ノ事項並ニ圖面ヲ省略シ第八號ノ圖面ハ其在來ノ部分ニ限り全區域ノ輪廓ノミニ止メ現在校地ノ配置体操場ノ區域ヲ示スヘシ但必要アルトキハ第七號ノ圖面ヲ具スヘシ

第二條 特別ノ事情ニ依リ分教場ヲ設置スル必要アルトキハ其事由ヲ詳具シ第一條ノ手續ニ準據スヘシ但設備上ノ都合ニ依リ一時ノ假用ニ止マルモノハ管理者ニ於テ期限ヲ定メ郡長ヲ經由シテ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 校地体操場ヲ撰定スルニ當リ衛生上ノ利害明カナラサルトキハ學校醫ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第四條 小學校令第十條ニ依リ町村學校組合ノ設置若クハ兒童教育事務委託ニ關シ郡長ニ於テ縣知事ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項並圖面ヲ具シ稟申スヘシ

- 一 關係町村、町村學校組合及其區ノ意見書寫
- 二 事 由

三 關係町村名(町村學校組合設置ノ場合ニ限ル)

四 兒童教育事務ヲ委託セシムヘキ町村、町村學校組合若クハ其ノ部分ノ名及其使用スヘキ小學校名(兒童教育事務委託ノ場合ニ限ル)

五 關係町村又ハ委託セシムヘキ部分ノ學齡兒童數(男女別)最近ノ年末調

六 全上就學期間ニアル兒童數(男女別)現在調

七 町村、町村學校組合ノ圖面

通學ノ便否ニ關スル情況學校ノ位置ヲ見得ルモノタルヘク且通學最近距離ヲ標記スルヲ要ス

町村學校組合ヲ解カシメ又ハ兒童教育事務委託ヲ止メシムルカ爲メ認可ヲ受ケントスルトキハ



其事理並ニ爾後ノ處理方ヲ具シ稟申スヘシ

第五條 小學校令第十一條第二項又ハ第五十二條ニ依リ處分センカ爲メ郡長ニ於テ縣知事ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項並圖面ヲ具シ稟申スヘシ

但シ其ノ之ヲ止メントスル場合ニ於テハ第三號乃至第五號ヲ具スルヲ要セス

一 町村、町村學校組合及其區ノ意見書寫

二 事 由

三 各小學校ノ費用ヲ負擔セシムヘキ區(大字名)又ハ兒童教育事務ヲ委託セシムヘキ區(全上及其使用セシムヘキ小學校名

四 區又ハ町村資力調

五 町村圖面

朱書ノ点線ヲ以テ其區ヲ劃シ通學ノ便否ニ關スル情況學校ノ位置ヲ見得ルモノタルヘク且ツ通學最遠距離ヲ標記スルヲ要ス

第六條 郡長ニ於テ小學校令第十二條ニ該當スルモノアリト認ムルトキハ其事由ヲ詳具シ稟申スヘシ

第七條 郡長ニ於テ小學校令第五十三條ニ依リ縣知事ノ指揮ヲ受ケムトスルトキハ其事由並費用

ノ負擔ニ關スル調査ヲ具シ郡參事會ノ意見書寫ヲ添ヘ稟申スヘシ

第八條 郡長ニ於テ小學校令第九條第二項第十條第十一條第二項第十三條及第五十二條ニ依ル處分ヲ了シタルトキハ其ノ年月日ヲ具シ遲滯ナク縣知事ニ報告スヘシ

市町村町村學校組合ニ於テ尋常小學ノ名稱ヲ附シ又ハ變更シタルトキハ管理者ニ於テ遲滯ナク郡長ヲ經由シ縣知事ニ報告スヘシ

### 第二 設 備

◎縣令第九十六號

(明治三十三年十二月十日)

明治三十三年三月三縣令第十八號小學校設備規則左ノ通改正ス

#### 小學校設備規則

##### 第一章 校 地

第一條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル而積ヲ有シ開豁乾燥ニシテ衛生ニ適シ且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ

道德上嫌忌スヘキ場所喧鬧ニシテ教授ニ妨ケアル場所及危險ナル場所ヨリ成ルヘク遠ク隔離スルヲ要ス

第二條 校地内ニハ善良ナル飲料水ヲ供給スルノ備ヲナシ又下水渠ヲ設クヘシ  
下水渠ハ成ルヘク不滲透物ヲ以テ之ヲ造ルヘシ

第三條 校地ノ周圍ニハ樹木ヲ植エ且墻柵等ヲ設クヘシ  
樹木ヲ植ウルトキハ採光通風ヲ妨クス又校地ヲ陰鬱ナラシメサル様注意スヘシ  
樹木ハ成ルヘク樟櫟等ノ類ヲ撰フヘシ

第二章 体操場

第四條 体操場ヲ分テ屋外体操場及屋内体操場トス

第五條 屋外体操場ハ方形若クハ之ニ類スル形状ニシテ日當リ好キ平坦ノ場所ヲ以テ之ニ充テ其ノ面積ハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 尋常小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪以上ノ割合トス
- 二 高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪半以上ノ割合トス
- 三 尋常高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪以上高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪半以上ノ割合トス

合トス但シ兒童百人以上ニシテ高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童百人未滿ナルトキハ百五十坪ノ外全校兒童中百人ヲ超ユル兒童一人ニ付一坪以上ノ割合ヲ以テ増スモノトス

四 特別ノ事情アルトキハ第二號及第三號ノ規定中一坪半ヲ一坪マテニ減スルコトヲ得

第六條 屋外体操場ハ校地内ニ之ヲ設クヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ校地外ニ之ヲ設クルコトヲ得此場合ニ於テハ成ルヘク校舎ニ接近セシムルヲ要ス

第七條 屋内体操場ヲ設クルトキハ風雨ニ堪フヘキ設備ヲ爲シ且採光換氣ニ注意スヘシ

第三章 校舎

第八條 校舎ノ建築ハ授業上、管理上、衛生上ノ便利ヲ圖リ質朴堅牢ナランコトヲ要ス  
校舎ハ平屋造ト爲スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ二階造ト爲スコトヲ得

第九條 校舎ニハ各學級ニ應スル通常教室並ニ教員室ヲ設クヘシ  
前項ノ外唱歌、裁縫等ヲ課スル學校ニ於テハ便宜特別教室ヲ設ク又必要ナル場合ニ於テハ校堂兒童控所、宿直室、湯所、小使室、物置等ヲ設クヘシ

第十條 教室ノ構造ハ左ノ各項ニ準據スヘシ  
多級小學校ノ教室ハ幅三間以上四間以下長四間以上五間以下、單級小學校ノ教室ハ幅及長各々四間以上五間以下ヲ常例トシ其大ハ兒童一人ニ付三尺平方ノ割合ヨリ小ナルコトヲ得ス

天井ハ牀面ヲ距ルコト九尺以上トスヘシ  
 牀ノ高ハ二尺以上トシ牀下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ  
 採光窓ハ南方、西南方、東南方又ハ西方ニ設ク且兒童座席ノ左方ニ在ルヲ常例トス  
 採光窓ノ總面積ハ牀面積ノ六分ノ一以上トシ其ノ下線ノ位置ハ牀上凡二尺五寸ニ定メ其上線ハ牀上八尺五寸以上ニシテ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但シ採光窓ノ上ハ欄間ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得  
 採光窓ニハ日光ノ直射ヲ遮蔽センカ爲メ窓覆ヲ設クヘシ  
 窓及欄間ハ完全ナル構造ヲ爲シ得ル場合ノ外ハ引違ト爲スヘシ  
 窓ハ兒童座席ノ前面及ヒ前面壁ヨリ三尺以内ニ設クヘカラス  
 教室内ノ壁ハ灰色、淡黄色、其他ノ中性色ト爲スヘシ  
 土地ノ情况ニヨリ成ルヘク煖房ノ裝置ヲ爲シ又ハ煖房器ヲ備フヘシ  
 各教室ニハ二個ノ出入口ヲ設クヘシ  
 第十一條 廊下ハ片廊下ト爲シ其ノ幅六尺以上ナルコトヲ要ス  
 二階建ノ校舍ニ在リテハ二個以上ノ階段ヲ設クルヲ常例トス  
 階段ハ幅四尺五寸以上蹴上ケ五寸乃至六寸踏面八寸乃至一尺トナシ成ルヘク曲折構造トナシ中

間ニ踊場ヲ設ケ且手欄ヲ附スヘシ  
 第十二條 昇降口ハ常風ノ方向ヲ避ケ通例男女各一ヶ所ヲ設クルモノトス但シ各教室毎ニ之ヲ設クルモ妨ナシ  
 前項本文ノ場合ニ於テハ其而積兒童百人ニ付凡五坪ノ割合トスヘシ  
 第十三條 便所ハ別棟トシ夏期常風ノ方向及空氣ノ流通ニ注意シ井戸ヲ去ルコト四間以上ノ位置ニ之ヲ設クヘシ  
 便所ノ周圍ニハ塀牆ヲ設ケ又ハ樹木ヲ植エ臭氣ノ發散ヲ防クヲ要ス  
 便所ハ男女ヲ區別シ男見百人ニ付大便所二以上小便所四以上、女見百人ニ付五以上ノ割合ヲ以テ之ヲ設クルヲ常例トス  
 男兒小便所ハ一人毎ニ區劃ヲ設クヘシ  
 糞壺、尿溝、注壁等ハ不透透物ヲ以テ之ヲ造ルヘシ  
 第十四條 小學校ノ校舍ヲ新築、改築又ハ増築セントスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ其ノ市町村、町村學校組合ニ於テ私立小學校ニ在リテハ其ノ設立者ニ於テ左ニ掲クル事項ヲ具シ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ  
 一 敷地平面圖(縮尺三百分ノ一)

校舎ノ配置、方位、坪數ヲ記入シ且隣接地ノ情况(丘陵森林及建物ノ類)ヲ附記スヘシ  
体操場ハ點線ヲ以テ之ヲ區別シ且其坪數ヲ示スヘシ

増築、改築ノトキハ舊建物ヲ朱書シ新建物ヲ墨書スヘシ

二 建物平面圖(縮尺二百分ノ一)

各部ノ名稱(通常教室、教員室、出入口、昇降口、窓、便所、廊下、階段等)及各其ノ坪數ヲ記入スヘシ

三 建物斷面圖(縮尺二十分ノ一)

建物ノ木組、教室ノ牀ノ高、窓下、窓ノ高、天井ノ高廊下ノ幅等ヲ見得ヘキモノタルヲ要ス且其ノ寸尺ヲ記入スヘシ

二階造ノ構造ナルトキハ階段ノ蹴上ケ、踏面ヲ見得ヘキ圖面(寸尺ヲ記入)ヲ添付スヘシ  
便所ハ其ノ構造ヲ示スニ足ルヘキ平面圖及斷面圖(縮尺百分ノ一)ヲ添付スヘシ

四 設計ノ大要

左記ノ事項ニ分テ之ヲ記載スヘシ

イ 建築ノ種類

ロ 屋根ノ葺方

ハ 廊下ノ構造

ニ 窓、欄間ノ構造

ホ 牀下風抜ノ裝置

五 建築費豫算額

六 就學期間ニ在ル兒童數(男女別)

七 現在各學年學級別兒童數(男女別)

工事落成シタルトキハ遲滞ナク監督官廳ニ報告スヘシ

第四章 校具

第十五條 尋常小學校ニ於テハ教科用圖書、地圖、度量衡、黑板、机、腰掛、時計、寒暖計其ノ他必要ナル器具、參考用圖書及小學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ外歴史、地理及理科ノ教授用具、体操器械、中學校、高等女學校及實業學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

第十六條 兒童用机及腰掛ノ寸法ハ別表ノ標準ニ依リ兒童ノ身長ニ適應セシメンコトヲ要ス

尋常小學校ニアリテハ別表第一號乃至第三號ノ三種高等小學校ニアリテハ第三號乃至第五號ノ三種ヲ備フルヲ通例トス

第五章 教員住宅

第十七條 單級小學校ニ於テハ成ルヘク教員ノ住宅ヲ設クヘシ

土地ノ情況ニ依リ多級小學校ニ於テモ亦前項ニ依ルヘシ

第十八條 教員住宅ヲ校地内ニ設クルトキハ塀牆等ヲ以テ校舍及体操場ト區劃ヲ爲スヘシ

教員住宅ヲ校地外ニ設クルトキハ成ルヘキ學校附近ノ場所ヲ選フヘシ

第六章 附 則

第十九條 現在ノ校舍、校具ニシテ本令ノ規定ニ適合セサルモノハ市町村立小學校ニ在リテハ市

町村、町村學校組合ニ於テ私立小學校ニ在リテハ其ノ設立者ニ於テ修正期限ヲ定メ明治三十四

年三月迄ニ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ但シ郡長ハ本文申請ニ就キ意見ヲ副申スヘシ

第二十條 本則ノ規定ハ補習科ノ設備ニ關シ之ヲ適用セス

項目番號	身長				
	一號	二號	三號	四號	五號
機ノ高	一五五〇	一七〇〇	一八五〇	二〇〇〇	二一五〇
機ノ幅	三〇〇〇	全	全	全	全
身長	一〇〇以上 一一〇未滿 (三三〇以上) (三三〇未滿)	一一〇以上 一二〇未滿 (三六〇以上) (三六〇未滿)	一二〇以上 一三〇未滿 (三九〇以上) (三九〇未滿)	一三〇以上 一四〇未滿 (四二〇以上) (四二〇未滿)	一四〇以上 一五〇未滿 (四五〇以上) (四五〇未滿)

機	腰掛	腰掛	腰掛	腰掛	倚用		靠
					男兒	女兒	
機ノ幅	八六〇	九八〇	九八〇	一〇一〇	一一〇〇	一一四〇	一一二〇
機ノ高	八六〇	九八〇	九八〇	一〇一〇	一一〇〇	一一四〇	一一二〇
腰掛ノ幅	八三〇	九〇〇	九八〇	一〇六〇	一一〇〇	一一四〇	一一二〇
腰掛ノ高	八三〇	九〇〇	九八〇	一〇六〇	一一〇〇	一一四〇	一一二〇
腰掛ノ長	二六〇乃至 三三〇	全	全	全	全	全	全
倚用男兒	五〇〇	五八〇	六三〇	六六〇	六六〇	六六〇	六六〇
倚用女兒	四〇〇	四八〇	五三〇	五三〇	五三〇	五三〇	五三〇
靠	一〇〇〇	一〇八〇	一一六〇	一二四〇	一二八〇	一三二〇	一三二〇

本表中身長欄ハ「センチメートル」其括弧内ノ數及机ノ高以下ハ曲尺ノ寸ヲ以テ一位トス

訓令甲第三十三號 (明治三十四年十二月二十日)

郡 役 所

町村、町村學校組合ニ於テ小學校々舎建築ニ關シ認可ヲ稟申スルトキハ其ノ工費支辨方法ヲ取調ヘ之ニ關スル意見ヲ副申スヘシ

第三 教科及編制

縣令第五號 (明治三十四年一月二十九日)

小學校ノ教科及編制ニ關スル細則左ノ通り相定ム

小學校ノ教科及編制ニ關スル細則

第一章 學期教授ノ時刻及休業日等

第一條 小學校ノ學期ヲ別ツコト左ノ如シ

第一學期 四月一日ヨリ七月三十一日ニ至ル

第二學期 八月一日ヨリ十一月三十日ニ至ル

第三學期 十二月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第二條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ左ノ範圍内ニ於テ學校長之ヲ定ムヘシ

一 四月一日ヨリ四月三十日ニ至ル、 午前九時 午後三時

二 五月一日ヨリ七月十一日ニ至ル、 午前八時 午後二時

三 七月十二日ヨリ九月十日ニ至ル、 午前八時 正午三時

四 九月十一日ヨリ十月三十日ニ至ル、 午前八時 午後三時

五 十一月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル、 午前九時 午後三時

前項第三號午前八時トアルハ高等小學校ニ在リテハ午前七時トナスコトヲ得

補習科(正教科ノ時間内ニ於テ教授スルモノヲ除ク)及半日小學校ノ毎日教授終始ノ時刻ハ學校

長ニ於テ之ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 毎時ノ教授時間ハ尋常小學校ニ在リテハ四十分乃至四十五分高等小學校ニ在リテハ四十分乃至五十分トス但シ一時間ニ二教科目ヲ配當スルトキハ一教科目ノ教授時間ハ二十分乃至二十五分トス

每教授時間ノ終リニ尋常小學校ニ在リテハ十五分乃至二十分高等小學校ニ在リテハ十分乃至十五分ノ休憩時間ヲ置クヘシ但シ晝飯時ノ休憩時間ハ一時間トスヘシ

第四條 小學校令施行規則第二十七條第一項第三號乃至第六號ノ休業日數ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 夏季休業八月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

二 冬季休業十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

三 學年末休業三月二十六日ヨリ同月三十一日ニ至ル

學校所在地ノ官國幣社縣社及特ニ由緒アル郷社村社ノ祭日ハ管理者又ハ設立者ニ於テ縣知事ノ許可ヲ受ケ其ノ學校ノ休業日トナスコトヲ得

第五條 土地ノ情況ニ依リ必要アルトキハ十日以内ニ於テ夏季休業ノ日數ヲ減シ前條第二號ノ外冬季ニ於テ休業ヲナスコトヲ得此場合ニ於テハ管理者又ハ設立者ニ於テ其ノ日限ヲ定メ事由ヲ具シ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 特別ノ必要アリテ臨時ニ休業セムトスルトキハ管理者又ハ設立者ニ於テ其ノ日限ヲ定メ  
事由ヲ具シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ四日以上ニ及フ休業ハ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 運動會又ハ儀式執行等ノ爲メ授業ヲ休止セントスルトキハ學校長ニ於テ監督官廳ノ認可  
ヲ受クヘシ

第八條 修業旅行又ハ運動會等ノ爲メ生徒ヲ學校所在地外ニ引率セムトスルトキハ學校長ニ於テ  
其ノ目的地、出發歸着ノ日時、監督及費用支辨方法、學年男女別人數等ヲ具シ監督官廳ノ認可  
ヲ受クヘシ

第九條 小學校令第二十七條第三項ニ依リ郡長ニ於テ臨時小學校ノ閉鎖ヲ命シ若クハ其ノ届出ヲ  
受ケタルトキハ遲滞ナク縣知事ニ報告スヘシ

第十條 小學校令施行規則第二十條ニ依リ學校長ニ於テ夏季冬季休業日ノ前後教授時數ヲ減セム  
トスルトキハ十日前ニ其ノ日限及各教科目ノ每週教授時數ヲ定メ監督官廳ニ届出ツヘシ

第十一條 小學校令施行規則第十七條第一項但書及第二項第十八條第二項及第三項ニ依リ學校長  
ニ於テ每週教授時數ヲ定メタルトキハ監督官廳ニ届出ツヘシ

第十二條 小學校令施行規則第十九條ニ依リ每週教授時數ヲ増減セムカ爲メ管理者又ハ設立者ニ  
於テ縣知事ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ各教科目ノ每週教授時數事由及其ノ期限ヲ具シ稟申ス

ヘシ

第二章 教科

第十三條 小學校令第二十三條ニ依リ小學校ノ教科目ヲ加除シ又ハ隨意科目トナサンカ爲メ管理  
者又ハ設立者ニ於テ縣知事ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ稟申スヘシ

第十四條 小學校令第二十二條ニ依リ某教科目ヲ兒童ニ課セサルトキハ學校長ニ於テ其ノ事由、  
學年氏名ヲ具シ監督官廳ニ届出ツヘシ

第十五條 小學校令施行規則第四條第三項ニ依リ求積又ハ日用簿記ヲ授クルトキ及同條第四項ニ  
依リ珠算ヲ併セ用フルトキハ學校長ニ於テ其ノ每週教授時數ヲ定メ監督官廳ニ届出ツヘシ

第十六條 小學校令施行規則第十條第四項ニ依リ水泳ヲ授クルトキハ學校長ニ於テ其ノ方法ヲ具  
シ毎朝監督官廳ニ届出ツヘシ

第十七條 小學校令施行規則第十三條第三項ニ依リ水産ヲ加フルトキハ學校長ニ於テ其ノ每週教  
授時數ヲ定メ監督官廳ニ届出ツヘシ

第三章 成績考查等

第十八條 兒童平素ノ成績ハ教授ノ際常ニ之ヲ考查スルノ外毎教科目一學期二回以上特ニ之ヲ考  
査シ兒童成績考查簿ニ記入スヘシ但シ其ノ考查方法ハ學校長之ヲ定ムヘシ

兒童成績考查簿ノ様式左ノ如シ

科目		明治何學年度			修身	國語	算術	體操	操行	項目				
		第一學期	第二學期	第三學期							學年間			
一回	二回	一回	二回	一回	二回	一回	二回	一回	二回	一回				
三月	四月	五月	六月	七月	計	八月	九月	十月	十一月	計				
十二月	一月	二月	三月	計	總計									
										及	操行	名氏童兒	要	摘
										記入スル爲メ便宜	本欄ハ操行及賞罰等ニ關スル事項ヲ	第何學年 何之誰 生年月	爲メ便宜區劃スルコトヲ得	(本欄ニハ兒童ノ就學、身分等ニ關スル事項ヲ記入スル爲メ便宜區劃スルコトヲ得)

出席日數	缺席病氣	日數事故	賞	罰
			區劃スルコトヲ得	

備考 學年末ニ於テ欄外上部ニ「修業」「學習」「卒業」又ハ「不合格」ト朱記スヘシ

第十九條 各教科目ノ成績ヲ表ハスニハ甲、乙、丙、丁、戊ノ評語ヲ用ヒ學年相當ノモノヲ丙トシ較々勝レルヲ乙トシ優等ナルヲ甲トス又學年相當ヨリ較々劣レルヲ丁トシ其ノ以外ヲ戊トス

第二十條 教員ハ學期末ニ於テ兒童成績考查簿ニ記錄セル評語ヲ通覽シ尙教授ノ際常ニ考查スル所ニ考ヘ出席日數ヲ參酌シ其ノ學期ノ成績ヲ定ムヘシ

教員ハ學年末ニ於テ各學期ノ成績ヲ通覽シ其ノ學年ノ成績ヲ定ムヘシ

第二十一條 學校長ハ學年末ニ於テ學年ノ成績ニ依リ兒童ノ修業、學習又ハ卒業ヲ認定スヘシ

第二十二條 兒童ノ操行ハ常ニ之ヲ觀察シ每學期末ニ於テ之ヲ評語シ上中下ノ評語ヲ以テ記錄スヘシ

第四章 卒業證書修業證書及學習證書

第二十三條 小學校ニ於テ授與スル卒業證書、修業證書及學習證書ハ左ノ書式ニ依ルヘシ

一 卒業證書書式

用紙ハ鳥ノ子又ハ奉書ノ類其ノ大ハ大卒書四ツ切大ニ準スヘシ



卒業證書

族籍 誰男女弟姉等 氏名

生年月

校印

尋常小學校(高等小學校)(修業年限)ノ教科ヲ卒業セシ

コトヲ證ス

年月日

静岡縣何市何尋常(高等)(尋常)小學校長氏名 團

第 號

二修業證書書式

用紙等 適用

修業證書

氏名

生年月

校印

尋常(高等)小學校第何(第何)學年ノ課程ヲ修業

セシコトヲ證ス

年月日

静岡縣何市何尋常(高等)(尋常)小學校長氏名 團

三學習證書書式

用紙等 適用

學習證書

氏名

生年月

校印

尋常高等小學校(第何學年)ノ課程ヲ修業

於テ何箇年ノ課業ヲ學習セシコトヲ證ス

年月日

静岡縣何市何尋常(高等)(尋常)小學校長氏名 團

第五章 學級編制

第二十四條 小學校令施行規則第四十一條ニ依リ管理者又ハ設立者ニ於テ學級ノ編制又ハ變更ヲ

縣知事ニ届出シトルトキハ左ノ書類ヲ具スヘシ

一 學級編制表

何尋常(高等)(尋常高等)小學校學級編制表

學級別	學年		第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
第一學級											

學事 小學校



修	身		
何	々		
何	々		
計			

備考 學期毎ニ時數ヲ異ニスルトキハ欄内ニ附記スヘシ

第二十九條 小學校令施行規則第五十條ニ依リ補習科ノ教場ヲ校舍外ニ設ケタルトキハ其ノ位置并教室ノ圖面ヲ具シ管理者又ハ設立者ニ於テ縣知事ニ届出ツヘシ

第三十條 小學校令施行規則第五十一條第一項第二項ニ依リ補習科ノ教授ヲ擔任セシメタル教員又ハ代用教員ノ氏名ハ學校長ニ於テ監督官廳ニ報告スヘシ同條第三項ニ依ラムトスルトキハ管理理者又ハ設立者ニ於テ其ノ事情ヲ具シ方法ヲ定メ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 小學校令施行規則第四十條ニ依リ正教科ノ兒童ト補習科ノ兒童トヲ合シテ學級ヲ編制セムカ爲メ縣知事ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ第二十四條ニ準シタル學級編制表并教室配置圖ヲ添ヘ稟申スヘシ其ノ變更ノ場合亦同シ

第七章 半日小學校

第三十二條 小學校令施行規則第四十條ニ依リ半日小學校ヲ設ケムカ爲メ縣知事ノ認可ヲ受ケム

トスルトキハ其事由ヲ具シ第二十四條ニ準シタル學級編制表(各部別)并教室配置圖ヲ添ヘ稟申スヘシ但シ同時ニ小學校令施行規則第十七條第三項ニ依リ各教科目ノ每週教授時數ヲ定メ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第八章 附 則

第三十三條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第三十四條 明治十五年<sup>十二</sup>月<sup>甲</sup>第五百五十二號布達明治十九年<sup>十</sup>月<sup>縣令</sup>第二十三號及明治二十五年<sup>二</sup>月<sup>縣令</sup>第十三號同第十四號同第二十九號ハ之ヲ廢止ス

第三十五條 明治二十八年<sup>三</sup>月<sup>縣令</sup>第十八號中補習科ニ關スル部年分ハ其効力ヲ失フ

◎三五三九七號 (明治三十四年十月二十四日)

各郡長 內務部長通牒

本年縣令第五號小學校ノ教科及編制ニ關スル細則第七條及第八條ニ依リ認可ヲ申請シタルモノアリタルトキハ左ノ例ニ依リ御取扱可有之依命此段及通牒候也

一 第七條ニ依ルモノハ當日ノ授業休止ニ限ル事

二 第八條ニ依ルモノハ即日歸着シ得ル地ニ限り翌日ノ授業ノ妨クトナラサル運動又ハ旅行ノ程度ヲ超エサルモノタルヘク尙尋常小學校生徒ニ在リテハ各自ノ出金ヲ要セサルモノタル

ヘキ事但シ特別ノ事情アルトキハ此限ニアラスト唯モ女生徒ハ宿泊ヲ要スル旅行ヲナサシメサル事

三 前兩項ノ場合ニ於テ一部ノ生徒ノ爲ニ他ノ生徒ノ授業ヲ休止スルヲ得サル事  
 退テ學校ノ名ニ於テセサル生徒ノ團隊ニシテ妄リニ運動會又ハ旅行等ヲナスモノ、如キモ充分御取締有之度此段申添候也

●三第五三九七號ノ一 (明治三十四年十月二十四日)

静岡市長 師範學校長 内務部長通牒

別紙ノ通各郡長ヘ及通牒候處貴市小學校(附屬小學校)生徒ニ對シテモ同様ノ義ト御了知有之度爲御心得此段及通牒候也

(別紙前同文ニ付寄ス)

●訓令甲第十九號 (明治三十三年六月二十九日)

郡役所 市役所 町村役場 市町村立小學校

尋常小學校及幼稚園ニ於テハ夏季ニ在リテハ午前八時其他ノ時季ニ在リテハ午前九時ヨリ早ク始業スヘカラス

●訓令甲第十二號 (明治三十四年四月十六日)

郡役所 市役所 町村役場 師範學校 市町村立小學校

小學校令施行規則第十條第十七條及第十八條ニ依リ小學校兒童ニ授クヘキ躰操ノ課程ハ別表ニ準據スヘシ

別表

等 高	科 常 尋				毎週 時數	全 回数	遊 戯	普 通 體 操	兵 式 體 操
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年					
第二學年	四	四	四	四	六 以上	六 以上	每回三十分若ハ一時	每回三十分 躰操準備	
第一學年	三	三	三	三	六 以上	六 以上	每回三十分若ハ一時	每回三十分 躰操準備	
第二學年	三	三	三	三	六 以上	六 以上	每回三十分若ハ一時	每回三十分 躰操準備	
第一學年	三	三	三	三	六 以上	六 以上	每回三十分若ハ一時	每回三十分 躰操準備	
全	全	全	全	全	全	全	徒手躰操(第一演習) 啞鈴初歩	全	全
全	全	全	全	全	全	全	徒手躰操(第一演習) 啞鈴初歩	全	全
全	全	全	全	全	全	全	徒手躰操(第一演習) 啞鈴初歩	全	全
全	全	全	全	全	全	全	徒手躰操(第一演習) 啞鈴初歩	全	全

科		同			女	
第三學年	第四學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	
三	三	三	三	三	三	
全	全	全	全	全	全	
全 復習、球竿初步	全 復習、球竿初步	全 復習、球竿初步	全 復習	全 復習、球竿初步	全 復習、球竿初步	全 復習、球竿初步
全 柔軟体操、分隊教練	全 小隊教練、器械体操初步	全 復習、球竿初步	全 復習	全 復習、球竿初步	全 復習、球竿初步	全 復習、球竿初步

備考

- 一 兵式体操ニ於テハ兒童ヲシテ銃ヲ執ラシムルヲ要セス
- 一 二學年ノ高等小學校ニ在リテハ本表高等科第二學年マテテ課シ三學年ノ高等小學校ニ在リテハ本表高等科第三學年マテテ課スヘシ
- 一 戶外運動又ハ水泳ヲ授クルトキハ本表時間ノ内外ニ於テ之ヲ課スヘシ

◎縣令第十四號

(明治三十三年二月二十三日)

明治二十七年縣令第十七號明治二十八年縣令第十八號及明治二十九年縣令第十號中本縣小學校修身、讀書、地理、理科、圖書、教科用圖書ヲ更定スルコト別表ノ如シ

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス(三十四年縣令第六十六號ニ依リ更正)

尋常小學校

讀書科

修正小學讀本尋常科

八冊 定價金八拾五錢

明治三十四年一月十三日修訂八版發行

編輯者 金港堂書籍株式會社

發行者 金港堂書籍株式會社

高等小學校

讀書科

修正小學讀本高等科

八冊 定價金壹圓七拾錢

明治三十四年一月二十一日修訂八版發行

編輯者 金港堂書籍株式會社

發行者 金港堂書籍株式會社

圖書科

小學毛筆畫乙種

八冊 定價金六拾八錢

明治三十二年四月二十二日發行

著者 橋本雅邦

發行者 小林義則

小學毛筆書乙種

一冊 定價金拾四錢 明治三十二年十一月二十日發行

著者 橋本雅邦 發行者 小林義則

小學習書帖 八冊 定價金六拾錢 明治三十二年十二月三日訂正三版發行

編纂者 國光社 發行者 川崎又次郎

●縣令第九號 (明治三十四年二月八日)

明治三十三年二月縣令第十四號ヲ以テ採定公布セシ小學校教科用圖書中讀書科生徒用正修小學讀本ハ修訂ヲ加ヘ更ニ文部大臣ノ檢定ヲ經タルニ付小學校令第二十五條ニ依リ左ノ通仍採定ノ効力ヲ繼續セシム但シ明治三十四年四月ヨリハ各學年共本書ヲ使用スヘキモノトス

尋常小學校讀書科兒童用

訂修小學讀本尋常科 全八冊 定價 卷一金七錢 卷二金八錢 卷三金拾錢 卷四金拾壹錢 卷五金拾貳錢 卷六金拾參錢 卷七金拾肆錢 卷八金拾伍錢 明治三十四年一月十三日修訂八版發行

明治三十四年一月十八日檢定

編輯者 金港堂書籍株式會社 發行者 金港堂書籍株式會社

高等小學校讀書科兒童用

訂修小學讀本高等科 全八冊 定價 卷一金拾七錢 卷二金拾八錢 卷三金拾九錢 卷四金貳拾錢 卷五金貳拾壹錢 卷六金貳拾貳錢 卷七金貳拾參錢 卷八金貳拾肆錢 明治三十四年一月二十一日修訂八版發行

明治三十四年一月二十五日檢定

編輯者 金港堂書籍株式會社 發行者 金港堂書籍株式會社

●縣令第四十三號 (明治三十五年六月二十日)

明治三十三年二月縣令第十四號ヲ以テ採定公布セシ小學校教科用圖書中國書科生徒用小學毛筆書乙種ハ修正ヲ加ヘ更ニ文部大臣ノ檢定ヲ經タルニ付小學校令第二十五條ニ依リ左ノ通仍採定ノ効力ヲ繼續セシム

高等小學校圖書科兒童用

小學毛筆書(乙種) 全八冊 定價 卷一、二、三、四各金八錢 卷五、六、七、八各金九錢 明治三十四年一月十五日訂正再版發行

明治三十四年一月二十二日文部省檢定

著作兼揮毫者 橋本雅邦 發行者 小林義則

●縣令第六十六號 (明治三十四年十二月二十八日)

小學校修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科及英語ノ教科用圖書左ノ通定メ明治三十五年四月一日ヨリ施行シ各學年共一時ニ之ヲ使用セシム

明治二十二年三月縣令第二十五號(農業ニ關スル分ヲ除ク)明治二十八年三月縣令第十八號及明治三十三年二月縣令第十四號(讀書及圖書ニ關スル分ヲ除ク)ヲ以テ定メタル教科用圖書ハ本令施行ノ日ヨリ其効力ヲ失フ



- 一 小新修身ハ女兒ニ之ヲ使用スルモノトス但シ女兒ノミヲ以テ學級ヲ編制セザル場合ニハ本文ニ依ラサルコトヲ得
  - 一 實國語習字帖 高等小學校用 ハ男兒ニ之ヲ使用スルモノトス
  - 一 高等日本歴史大要 乙種 ハ修業年限二箇年ノ小學校ニ之ヲ使用スルモノトス
  - 一 小學理科 別冊 ハ修業年限三箇年ノ小學校第三學年ニ之ヲ使用スルモノトス
- 三第七八八號 (明治三十五年二月二十五日)

各郡市長 內務部長通牒

本縣小學校教科用圖書中教員用ヲ採定セサル分モ其ノ教員用ノ圖書アルモノハ可成的之ヲ使用シ其ノ檢定濟ノモノニ依ルヘク又各教科書ノ配當ハ別表ニ依準スヘク御部內小學校長ニ御示達相成度依命此段及通牒候也

●三第七八八號ノ一 (明治三十五年二月二十五日)

師範學校長 內務部長通牒

別紙ノ通各郡市長へ通牒ニ付附屬小學校へ御示相成度此段及通牒候也

追テ兒童用教科書ニ關スル訓令甲第五號ハ附屬小學校ニ於テモ同様準用セラルヘキ議ニ有之候間爲念此段申添候也

尋常小學校教科書配當表

教科目	圖書名	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		備考
		修身	算術	修身	算術	修身	算術	修身	算術	
國語	小學讀本	卷一ノ二	卷三ノ四	卷五ノ六	卷七ノ八					
	習字帖	卷一ノ二	卷三ノ四	卷五ノ六	卷七ノ八					
算術	小學算術	卷一	卷上	卷中	卷下					
	修身	甲篇卷一	全卷二	全卷三	全卷四					奇數ノ學年度ニ於テ使用
修身	全	乙篇卷一	全卷二	全卷三	全卷四					偶數ノ學年度ニ於テ使用

備考 小學校令施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ教授スルトキハ相當ノ配當ヲナスヘシ

高等小學校教科書配當表

教科目	圖書名	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		備考
		修身	算術	修身	算術	修身	算術	修身	算術	
國語	小學讀本	卷一ノ二	卷三ノ四	卷五ノ六	卷七ノ八					
	習字帖	卷一ノ二	卷三ノ四	卷五ノ六	卷七ノ八					
算術	小學算術	卷一	卷上	卷中	卷下					
	修身	甲篇卷一	全卷二	全卷三	全卷四					奇數ノ學年度ニ於テ使用
修身	全	乙篇卷一	全卷二	全卷三	全卷四					偶數ノ學年度ニ於テ使用



國語	算術	日本歴史		地理		理科				
		小女子用	全女子用	小學算術	日本歴史大要	小學内國地理	小學外國地理	小學地誌補習	小學理科	全別輯
小學讀本	小學算術	日本歴史大要	日本歴史大要	小學内國地理	小學外國地理	小學地誌補習	小學理科	全別輯		
卷一ノ二	卷一	甲種卷一	乙種卷一	卷一	卷一	一	卷一	一		
卷三ノ四	卷二	全卷二	全卷二	卷二	卷二	一	卷二	二		
卷五ノ六	卷三	卷三	一	卷三	全	一	卷三	三		
卷七ノ八	卷四	一	全	卷四	一	全	卷四	四		
男兒用	女兒用	修業年限三ヶ年又ハ四ヶ年ノ學校	修業年限二ヶ年ノ學校ニ限ル	修業年限三ヶ年又ハ四ヶ年ノ學校	修業年限四ヶ年ノ學校	修業年限四ヶ年ノ學校ニ限ル	修業年限三ヶ年ノ學校ニ於テハ卷三ヲ用ヒス別輯ヲ用フ			

備考  
一 英語科ハ便宜配當スヘシ

二 小學校令施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ教授スルトキハ相當ノ配當ヲナスヘシ

●訓令甲第五號 (明治三十五年二月二十四日)

郡役所 市役所 町村役場 市町村立小學校

一 明治三十四年<sup>十二月</sup>縣令第六十六號ニ依リ採定公布シタル小學校教科用圖書ノ内<sup>尋常</sup>單級修身訓ハ明治三十五年度ニ在リテハ總テ甲篇ヲ明治三十六年度ニ在リテハ總テ乙篇ヲ使用シ以後之ニ準スヘシ

一 明治二十七年<sup>四月</sup>訓令甲第十三號ハ廢止ス

一 兒童用算術書ハ土地ノ情況ニ依リ當分生徒ニ持タシメサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ學校長ニ於テ事由ヲ具シテ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

●甲第十二號 (明治二十八年五月八日)

郡役所 市役所 町村役場 小學校

小學校ニ於テ唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タル小學校教科用圖書中ニ在ルモノ又ハ文部省ノ撰定ニ係ルモノ及本官ニ於テ採定シタルモノ、外ハ用フヘカラス但他ノ地方長官ニ於テ一旦文部大臣ノ許可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス

### 第四 職員

●縣令第六十八號 (明治三十五年十月七日)

明治三十三年<sup>九</sup>月<sup>九</sup>縣令第七十六號市町村立小學校准教員進退ニ關スル規則左ノ通改正ス

市町村立小學校准教員進退ニ關スル規則

第一條 市町村立小學校准教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職ヲ命ス

一 傷疾若ハ疾病ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘザルトキ

二 學校編制ノ都合ニ依リ其人ヲ要セザルトキ

三 本人ヨリ退職ヲ出願シタルトキ

郡市長ハ前項第一號及第二號ニ該當スル者アルトキハ其ノ事由ヲ具シテ之ヲ稟申スヘク第三號ニ該當スルモノアルトキハ其意見ヲ副申スヘシ

第二條 市町村立小學校准教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

一 當該學校ノ廢セラレタルトキ

二 陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルトキ

三 小學校令第四十九條第一項第一號及第二號ニ該當スヘキ罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキ

四 休職期間滿チタルトキ

前項第二號及第三號ニ該當シタル者アルトキハ郡市長ハ遲滞ナク之ヲ知事ニ報告スヘシ

第三條 市町村立小學校准教員ニシテ師範學校講習科ニ入りタル者ハ當然休職者トス

前項休職ノ期間ハ其ノ事故止ミタル後尙一箇月トス

第四條 休職者ハ職務ニ從事セサル外總テ在職者ト異ナルコトナシ但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第五條 第一條ノ事由ニ因ラスシテ退職ヲ命スル必要アリト認ムルトキハ郡市長ノ具申ニ依リ知事ハ特別ノ處分ヲナスコトアルヘシ

●訓令甲第二十六號 (明治三十三年九月十三日)

郡役所 市役所 町村役場

市町村立小學校教員任用解職其他進退ニ關スル申請及報告手續左之通相定ム

市町村立小學校教員任用解職其他進退ニ關スル申請及報告手續

第一條 市町村立小學校教員ノ任用ヲ申請スルトキハ第一號書式ノ申請書ニ左記ノ書類ヲ添付スヘシ

一 履歷書(第二號書式)但シ本縣内ノ轉任ニ係ルトキハ之ヲ要セス

- 二 市參事會町村長ノ俸給額意見書(第三號書式)但シ專科正教員又ハ補助准教員ヲ始メテ任用スル場合若クハ任用ノ爲ニ町村ノ支出額一旦定リタル支出額ヨリモ多キ場合ニ限ル
- 三 現任地郡市長ノ承諾書但シ他郡市小學校教員在職者ニ就キテ申請スル場合ニ限ル
- 第二條 市町村立小學校正教員ニシテ小學校令施行規則第二百二十二條ニ該當シ休職ヲ要スルトキハ郡市長ハ其事由ヲ具シ稟中スヘシ休職者復職ヲ要スルトキ亦同シ但シ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ休職ヲ要スルモノニ就キテハ醫師ノ診書ヲ添付スヘシ
- 第三條 市町村立小學校正教員ニシテ小學校令施行規則第二百二十三條ニ該當スルモノアルトキハ郡市長ヨリ其事故並年月日ヲ具シ報告スヘシ
- 第四條 市町村立小學校正教員ニシテ小學校令施行規則第二百二十六條第一號又ハ第三號ニ該當スル者アルトキハ郡市長ハ其ノ事由ヲ具シ稟中スヘク同條第二號ニ依リ退職ヲ願出タルモノニ就キテハ其ノ意見ヲ副申スヘシ但シ同條第一號及第二號前段ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書添付ヲ要ス
- 休職者復職シタル爲其ノ代員ヲ要セサルトキハ第二條ニ於ケル休職者復職ト同時ニ稟申スルヲ要ス
- 第五條 市町村立小學校教員ニシテ増俸ヲ要スルモノアルトキハ郡市長ハ第一號書式ニ依リ申請

- スヘシ但シ專科教員及補助准教員ニ就キテハ増俸ノ爲一旦定リタル市町村ノ支出額ヲ超過スル場合ニ限リ市參事會町村長ノ俸給額意見書(第三號書式)添付ヲ要ス
- 第六條 小學校教員ニ手當若クハ慰勞金給與ノ必要アリト認メタルトキハ市立小學校ニ就キテハ市長其ノ額ヲ稟中スヘク町村立小學校ニ就キテハ郡長管理者ノ意見ヲ徵シ稟中スヘシ(三十四年訓令甲第一號ヲ以テ修正)
- 第七條 小學校令施行規則第七十條ニ依リ郡市長ニ於テナスヘキ報告ハ左記事項ヲ具スルヲ要ス
  - 一 採用シタル場合ハ第四號書式ノ報告書並本人ノ履歷書(第二號書式)
  - 一 解職シタル場合ハ其氏名及年月日並其ノ事由
  - 一 懲戒シタル場合ハ其氏名事由及懲戒書寫
- 第八條 小學校教員死亡シタルトキハ其ノ市町村長ハ遲滯ナク其ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ報告スヘシ
- 第九條 第一條第二條第四條乃至第六條及第八條ハ市町村立盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ニ關シ之ヲ準用ス
- 第十條 第一條第四條第一項第五條本文第六條及第八條ハ市町村立小學校幼稚園長及保母ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

第十一條 本規則第七條ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(書式省察)

●訓令丙第二六八號

(明治三十三年十一月一日)

郡 役 所

町村小學校本科正教員又ハ之ニ代リ一時教授スル准教員ノ任用若ハ増俸ヲ申請スル場合ニ於テ之カ爲ニ其ノ町村町村學校組合及其ノ區ノ當該學校ノ教員定數ニ應スル俸給支出額カ明治三十年一月勅令第二號第一條本文ノ義務額若ハ第二條第二項本文ニ由リテ一旦定マリタル金額ヲ超過スヘキ時ハ左記ノ様式ニ由リ之ニ對スル其町村町村學校組合及其ノ區ノ具申書ヲ徴シ之ヲ添付スヘシ  
右訓令ス

小學校ノ教員定數ニ應スル俸給負擔ソ件ニ付具申

何町(村、學校組合)立何小學校ノ教員定數ニ應シ一人ニ付平均金何程支出ノ儀本町(村、學校組合、區)會ニ於テ決議候間此段具申候也

年 月 日

縣 知 事 宛

町(村、學校組合)長

●縣令第二十九號

(明治三十五年四月十一日)

尋常小學校ニ高等小學校ノ教科ヲ併置スルコトヲ認可シタルトキハ從來勤務ノ訓導准訓導ニシテ小學校本科又ハ專科正教員若クハ准教員免許狀ヲ有スルモノハ其尋常高等小學校訓導又ハ准訓導トシ尋常小學校本科正教員若クハ准教員免許狀ヲ有スルモノハ其尋常高等小學校尋常科訓導又ハ准訓導トシ別ニ辭令ヲ須非ス

●訓令甲第二十八號

(明治三十三年十月二十日)

郡役所 市役所

市町村立小學校及實業補習學校正教員休職若クハ退職ニ關シ當應ニ差出スヘキ傷痕又ハ疾病診斷書ハ別紙書式ニ據ラシムヘシ

診斷書式用法心得

- 一 校名氏名ヲ記入スルノ他尙ホ男女ノ別ヲ記スハ往々女子ニシテ敏、章等ノ漢字ヲ使用スルモノアルニ由ル
- 二 受持科ハ本科專科ノ別ヲ記シ且專科ニ在テハ其學科名ヲ併記スヘシ
- 三 年齢ハ受傷並ニ發病當時ノ年齢ヲモ記スヘシ
- 四 體質ヲ記スニハ有用ノ文字ノミヲ殘シ不用ノ文字ヲ消スヘシ例之體質強壯ナルトキハ中等

- 虛弱ノ四字ヲ消スカ如シ其他各項之ニ準ス
- 五 受傷ノ下「ニ於テ」ノ上ニハ其場處ヲ記入スヘシ
- 六 備考中ヘハ前掲ニ記セル他ニ尙ホ緊要ト認ムルコトアラハ記入スヘシ
- 七 主治醫ノ肩書ニ其資格ヲ付記スヘシ

疾病診斷書式

四 發病	三				二	一	
	經齡病曾 過病ノ患 名年發	有曾 無患	健既 否往	有遺 無傳	體 質	ノ男 別女	氏校 名名
明治 年 月 日					強壯、 中等、 虛弱、		
						科受 名持	年 齡
							當 年 年 月 日 月生

十 備考	九 轉歸	八 經過	七 治法	六 候學局覺自 的部并覺他 症理=	五 病名
	明治 年 月 日				
		全治、 半治、 不治、			

右之通リ診斷候也

明治年月日

宿所

主治醫 某

印

傷痕診斷書式

一	
男 女	氏校 名名
受持科	年 齡
	當 年 年 月 月生

學 事 小學校

二	體質	強壯、中等、虛弱、
三	受傷	明治年月日 ニ於テ
四	兇器	名精 銳、鈍、潔、不潔、
五	傷	種類 (切創、刺創、割創、捻、挫、等)
		位置
		大小
六	治法	性狀 (創縁、創面、創底、周圍、等)
		(概要)
七	經過	醜膿有無、發熱有無、肉芽良、不良
八	轉歸	明治年月日 全治、半治、不治、
九	治後異常	(麻痺、強直牽引、精神症狀、運動狀態等)
十	備考	

右之通り診断候也

明治年月日

宿所

主治醫 姓

名印

●訓令甲第十七號

(明治三十四年五月十日)

郡役所 市役所

本縣師範學校卒業生及小學校教員講習科修了生ニシテ義務年限中ノモノ、休職若クハ退職ニ關シ當應ニ差出スヘキ傷痕又ハ疾病診斷書ハ明治三十三年十月本縣訓令甲第二十八號ノ書式ニ據リ本縣恩給顧問醫ノ作成シタルモノタルヘシ

●三第四〇七六號

(明治三十四年七月九日)

各郡長

本縣師範學校卒業生及小學校教員講習科修了生ニシテ義務年限中ノモノ、休職若クハ退職ニ關シ當應ニ差出スヘキ傷痕又ハ疾病診斷書ハ本年五月本縣訓令甲第十七號ニ依リ本縣恩給顧問醫ノ作成シタルモノタルヲ要スレトモ其容躰ノ如何ニ因リ恩給顧問醫ノ診斷書ヲ得難キモノト認メタル場合ハ貴官ニ於テ適當ノ醫師ヲ指定シ事由詳細副申相成候様致度依命此段申進候也

●縣令第五十八號

(明治三十五年八月二十九日)

市町村立小學校教員ニシテ傷痕又ハ疾病ノ爲休職トナリタル者ハ其期間三ヶ月毎ニ其退職トナリ

タルモノニシテ本縣師範學校ヲ卒業シ若クハ小學校教員講習科ヲ修了シ義務年限中ノ者ハ其年限中六ヶ月毎ニ本縣恩給顧問醫ノ診斷書ヲ添ヘ其狀況ヲ届出ツヘシ但明治三十五年五月以前ニ於テ休職トナリタルモノ及全年二月以前ニ於テ退職トナリタルモノハ此際本文ノ手續ヲナスヘシ前項ノ診斷書ヲ得難キモノニシテ其事由ヲ具シ醫師ノ指定ヲ知事ニ請フトキハ其情狀ニ依リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

明治三十五年二月縣令第五號ハ本施行ノ日ヨリ廢止ス

●訓令甲第二十九號 (明治三十三年十月二十日)

郡役所 市役所 町村役場 市町村立小學校

市町村立小學校長及教員職務及服務ニ關スル細則左之通相定ム

市町村立小學校長及教員職務及服務ニ關スル細則

第一條 小學校令施行規則第三百三十四條ニ依リ學校長ノ行フヘキ職務ノ概目左ノ如シ

一 天皇陛下

皇后陛下ノ御影奉置ニ關スルコト但シ御影ヲ拜戴セシ學校及特ニ縣知事ノ認可ヲ受ケ複寫シタル御影ヲ奉藏セル學校ニ限ル

二 教育ニ關スル勅語ノ謄本奉置ニ關スルコト

- 三 所屬職員ノ品行勤怠及其ノ成績ヲ監査スルコト
- 四 各學級教科目ノ教授時間割ヲ定ムルコト
- 五 所屬教員ノ受持學級ヲ指定スルコト
- 六 所屬教員ノ調製シタル教案ヲ檢閲スルコト
- 七 職務ノ範圍内ニ於テ其ノ學校ニ施行スヘキ諸規則ヲ定ムルコト
- 八 學校名ヲ以テスル文書ノ往復ニ關スルコト
- 九 學校ノ印章及管鑰ヲ保管スルコト
- 十 職員出勤簿ヲ調製スルコト
- 十一 教育ニ關スル法律命令ヲ輯録保管スルコト
- 十二 學校沿革誌ヲ編纂スルコト
- 十三 校務日誌ヲ記錄スルコト
- 十四 必要ナル文書簿冊ヲ整理及保存スルコト
- 十五 校舍内外ノ衛生ニ關スルコト
- 十六 校舍ノ保存及取締ニ關スルコト
- 十七 校具ヲ保管シ及其ノ整否ヲ監査スルコト

第二條 前條第一號乃至第九號ノ事項ヲ除クノ外ハ所屬正教員又ハ准教員ニ分掌セシムルコトヲ得

第三條 高等小學校長ハ小學校令施行規則第八十九條ノ規定ニ準シ學籍簿ヲ編製スヘシ高等小學校長ハ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスヘシ

第四條 學校長其ノ職務ヲ行フニ妨ケアルトキ若クハ其ノ欠員ノ場合ニ於テハ上席ノ正教員又ハ准教員之ニ代リ處理スヘシ

第五條 小學校令施行規則第三百二十五條ニ依リ正教員ノ行フヘキ職務ノ概目左ノ如シ

- 一 兒童ノ教育ニ任シ其ノ學業及品行ヲ獎勵查察スルコト
  - 二 教授細目ニ基キ教案ヲ調製スルコト
  - 三 教室ノ整理及衛生ニ關スルコト
  - 四 受持學級兒童ノ出席簿ヲ整理スルコト
  - 五 教授用ノ器具器械圖書等ヲ整理スルコト
  - 六 前各號ノ外學校長ノ指揮ニ從ヒ校務ニ從事スルコト
- 第六條 學校長及教員ハ教授ノ準備其ノ他校務ニ關シ調査ヲ要スルモノアルトキハ規定ノ時間外ト雖職務ニ服スヘシ

第七條 學校長及教員ハ始業時刻十五分前ニ出校シ出勤簿ニ捺印シテ後其職ニ服スヘシ

第八條 教員傷疾疾病其他止ムヲ得サル事故ニ依リ出校シ難キトキハ事由ヲ具シ始業時刻前ニ其ノ小學校ニ届出ヘシ但傷疾疾病ノ爲缺勤七日ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ更ニ届出ヘシ爾後十五日毎ニ同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 教員忌服ヲ受クルトキハ監督官廳ニ届出ヘシ

町村立小學校教員ノ除服ハ郡長之ヲ命ス

第十條 教員父母ノ墓參(忌中若ハ年回)歸省(父母看護)轉地療養若ハ私事ノ故障ノ爲任地ヲ離レントスルトキハ其ノ日數及事由ヲ具シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ轉地療養ヲ出願スル者ニ在リテハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十一條 教員ニシテ學校參觀若ハ教育會等へ出席ノ爲任地ヲ離レントスルトキハ其校務ニ妨ケナキ場合ニ限り前條ニ準スルコトヲ得

第十二條 教員ニシテ教員檢定若クハ官立學校入學試驗受験ノ爲任地ヲ離レントスルトキハ市ニ在リテハ市長、町村ニ在リテハ郡長ニ届出ヘシ但シ文部省ニ於テ施行スル教員檢定若ハ官立學校入學試驗受験者ニシテ其ノ願書本縣ヲ經由セサルモノハ第十條ノ例ニ依ルヘシ

第十三條 教員其ノ學校休業中任地ヲ離レントスルトキハ日數及旅行先ヲ具シ監督官廳ニ届出ヘ



シ  
休職教員ニシテ任地ヲ離レントスルトキ亦同シ

第十四條 教員ニシテ轉任退職若ハ休職ヲ命セラレタルトキハ學校長兼任ノモノニ在リテハ其ノ校務ヲ後任學校長若ハ上席教員ニ其他ノ教員ニ在リテハ其ノ擔任事務及其ノ保管ニ係ル文書物品等ヲ學校長ノ指揮ニ從ヒ遲滞ナク引繼ノ手續ヲナスヘシ其ノ免職失職ノ場合ニ於ケル亦同シ

第十五條 教員轉任ヲ命セラレタルトキハ辭令書ヲ受タル日ヨリ一週間以内ニ赴任スヘシ傷痍疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ノ爲前項ノ期間ニ赴任シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ但傷痍疾病ノ場合ニ於テハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十六條 教員新任及轉任ノトキハ其ノ出發及着任ノ日ヲ監督官廳ニ届出ヘシ

第十七條 教員住所、族籍、氏名等ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク縣知事ニ届出ヘシ

第十八條 小學校令施行規則第三百三十八條ニ依リ縣知事ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ願書ハ郡市長ヲ經由スヘシ

郡市長ハ前項願書ニ對シ意見ヲ副申スヘシ

第十九條 學校長及教員ヨリ監督官廳ニ差出スヘキ書面ハ別段ノ規定アルモノ、外總テ當該學校及管理者ヲ經由スヘシ

第二十條 本細則中准教員ニ關スルモノハ代用教員ニ準用ス但シ縣知事ノ許可ヲ受ケ若ハ縣知事ニ届出ヘキ規定ニ關シテハ市ニ在リテハ市長町村ニ在リテハ郡長ニ其ノ手續ヲナスヘシ

第二十一條 本細則ハ市町村立盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ學校長教員及幼稚園長保姆ニ準用ス

附 則

第二十二條 明治十五年<sup>四</sup>月號外達校務受渡心得明治廿四年<sup>七</sup>月達學第二一七號及明治廿五年<sup>三</sup>月第九號ハ之ヲ廢止ス

明治二十一年<sup>五</sup>訓令甲第二十七號中公立小學校教員ニ關スル規定ハ其ノ効力ヲ失フ

●第三六五二號 (明治三十三年十二月一日)

各郡長宛内務部長通牒

小學校長及教員小學校令施行規則第三百三十七條但書ニ依リ當該學校所在ノ市町村外ニ居住スルコトヲ認可セラル、ニハ左ノ標準ニ據リ御取扱相成度依命此段及通牒候也

- 一 當該學校所在地ヨリ凡一里以内ニ限ルコト
- 一 職員中少クモ一名ハ當該學校所在町村ニ居住スルモノアル場合ニ限ルコト

●訓令甲第三十九號 (明治三十三年十二月二十五日)





●訓令甲第十號

(明治三十四年三月三十日)

市町村立小學校代用教員採用解職之場合ハ別紙雛形ニ準シ辭令ヲ交付スヘシ 郡役所 市役所

用紙中奉書四ツ切(三十五年一月訓令甲第一號ニテ雛形中加除修正)

何 某

某郡某尋常(尋常高等)(高等)小學校代用教員ヲ命ス

但小學校令施行規則第三十五條第二(三)項(第三十六條)ニ依リ勤務スル准教員ノ代用

年月日 某郡(市)役所

何 某

某郡某尋常高等小學校尋常科代用教員ヲ命ス

但小學校令施行規則第三十五條第二(三)項(第三十六條)ニ依リ勤務スル准教員ノ代用

年月日 某郡(市)役所

某校(某科)代用教員

何 某

給何級上(下)俸

年月日 某郡(市)役所

某校(某科)代用教員

何 某

依願解職

年月日 某郡(市)役所

備考

六級下俸ヲ受クルモノニシテ其額六圓未満ナルトキハ但金何圓給與ト腹書スルモノトス

●號外

(明治十四年七月二十二日)

町村立小學校教員

小學校教員心得別冊ノ通文部卿ヨリ頒布相成候ニ付テハ能ク其旨趣ヲ体シ教員ノ本分ヲ誤ラサル様可致因テ一部宛交付候條此旨相達候事

小學校教員心得

小學校教員ノ其否ハ普通教育ノ弛張ニ關シ普通教育ノ弛張ハ國家ノ隆替ニ係ル其任タル重且大ナリト謂フヘシ今夫小學校教員其人ヲ得テ普通教育ノ目的ヲ達シ人々ヲシテ身ヲ修メ業ニ就カシムルニアラスンハ何ニ由テカ尊王愛國ノ志氣ヲ振起シ風俗ヲシテ淳美ナラシメ民生ヲシテ富厚ナラシメ以テ國家ノ安寧福祉ヲ増進スルヲ得ンヤ小學校教員タル者深ク此意ヲ體スヘキナリ因テ其恪守實踐スヘキ要款ヲ左ニ揭示ス苟モ小學校教員ノ職ニ在ル者夙夜匪懈服膺シテ忽忘スルコト勿レ

明治十四年六月

文部卿 福岡孝悌

- 一 人ヲ導キテ善良ナラシムルハ多識ナラシムルニ比スレハ緊要ナリトス故ニ教員タル者ハ殊ニ道徳ノ教育ニ力ヲ用ヒ生徒ヲシテ 皇室ニ忠ニシテ國家ヲ愛シ父母ニ孝ニシテ長上ヲ敬シ朋友ニ信ニシテ卑幼ヲ慈シ及自己ヲ重ニスル等凡テ人倫ノ大道ニ通曉セシメ且常ニ己カ

- 一 身ヲ以テ之カ模範トナリ生徒ヲシテ徳性ニ薰染シ善行ニ感化セシメントコトヲ務ムヘシ
- 一 智心教育ノ目的ハ專ラ人々ヲシテ智識ヲ廣メ材能ヲ長シ以テ其本分ヲ盡スニ適當ナラシムルニ在リ豈徒ニ聲名ヲ博取シ奇功ヲ貪求セシメントカ爲メナランヤ故ニ教員タル者ハ宜ク此旨ヲ體認シ以テ生徒智心上ノ教育ニ從事スヘシ
- 一 身體教育ハ獨リ體操ノミニ依著スヘカラス宜ク常ニ校舎ヲ清潔ニシ光線温度ノ適宜及大氣ノ流通ニ留意シ又生徒ノ健康ヲ害スヘキ癮習ニ汚染スル等ヲ豫防シ以テ之ニ從事スヘシ
- 一 鄙吝ノ心志陋劣ノ思想ノ懷クヘカラサルハ人々皆然リト雖モ特ニ教員タル者ハ自己ノ心下ニ於テ最モ謹テ之ヲ除去セサルヘカラス蓋シ幼童ノ智徳ヲ養成シ身體ヲ教育スルノ重任ニ膺リ以テ世ノ福祉ヲ増進スルノ實効ヲ奏スルハ固ヨリ鄙吝陋劣ニシテ偷安貪利ヲ事トスル徒ノ敢テ能クスヘキ所ニアラサレハナリ
- 一 學校管理上ニ欠クヘカラサル快活ノ氣象ハ心神萎靡セル人ノ能ク具有スヘキ所ニアラス又生徒教授上ニ欠クヘカラサル許多ノ力ハ身體孱弱ナル者ノ能ク寧耐スヘキ所ニアラス是故ニ教員タル者ハ宜ク特ニ起居飲食等ノ常度ヲ守リ散鬱及運動等ノ良規ニ循テ其身心ノ健康ヲ保全シ以テ其職務ヲ盡スノ地ヲ做サントコトヲ務ムヘシ
- 一 教員タル者ハ唯小學校教則中ニ掲クル所ノ學科ニ通スルノミヲ以テ足レリトセス博ク教則

- 外ノ學科ニ涉ラントコトヲ要ス苟モ此ノ如クナラサレハ條々教授上ニ破綻ヲ生シテ生徒ノ信憑ヲ失ヒ遂ニ其身ヲ學校ノ上ニ置ク能ハサルニ至ルヤ必セリ
- 一 教員タル者ハ常ニ整然タル秩序ニ由リ學識ヲ廣メ以テ其心志ヲ練磨セシントコトヲ務ムヘシ否ラサレハ決シテ教授ノ實効ヲ奏スル根柢ヲ立ツル能ハス蓋シ我カ練磨セサルノ心志ヲ以テ能ク他人ノ心志ヲ練磨シ得ルモノハ未タ曾テ之アラサルナリ
- 一 師範學校等ニ於テ嘗テ學習セシ所ノ教育法ハ概テ其一樣子タルニ過キサルモノナリ故ニ教員タルモノハ徒ニ之ヲ踏襲スルヲ以テ足レリトセス宜ク常ニ自ラ其得失利害ヲ考究取捨シ以テ之ヲ活用セシントコトヲ務ムヘシ
- 一 人ノ心神及身體ノ組織作用ニ至テハ教員タル者最モ深ク意ヲ留メ購究ト經驗トニ由テ其原理實際ニ精通セシコトヲ要スヘシ否ラサレハ假令汝々汲々トシテ教育ニ從事スルモ遂ニ臆度妄作ノ弊ヲ免ル、コト能ハサルナリ
- 一 學校管理ノ事ハ之ヲ教授ノ事業ニ比スレハ更ニ困難ナリトス故ニ教員タルモノハ常ニ人情世態ヲ審ニシ通義公道ヲ辨シ且事ヲ處スルノ方法務ヲ理スルノ順序等ヲ諳練セサルヘカラス
- 一 校則ハ校内ノ秩序ヲ整肅ナラシムルニ止ラス兼テ生徒ノ德誼ヲ勸誘スルノ要具タリ故ニ教

員タル者ハ能ク此旨趣ヲ體認シ以テ之ヲ執行セサルヘカラス

一 熱練懇切黽勉ノ三者ハ亦教育上ニ缺クヘカラスルノ美事タリ故ニ教員タル者能ク此三者ヲ具備シテ其事ニ從フトキハ獨リ教授ノ實効ヲ奏スルヲ得ヘキノミナラス又生徒ヲシテ不知不識此等ノ美事ニ感化シ習慣自然ノ如クナラシムルニ至ルヘシ

一 學校ヲ統率スルハ殊ニ剛毅忍耐威重懇誠勉勵等ノ諸德ニ由ルヘシ蓋シ剛毅ニアラサレハ難ニ勝ル能ハス忍耐ニアラサレハ久ヲ持スル能ハス威重ニアラサレハ人ヲ服スル能ハス懇誠ニアラサレハ衆ヲ懷ル能ハス勉勵ニアラサレハ事ヲ成ス能ハス

一 生徒若シ黨派ヲ生シ爭論ヲ發スル等ノ事アラハ之ヲ處置スル極メテ穩當詳密ニシテ偏頗ノ弊ナク苛修ノ失ナカラント要ス故ニ教員タル者ハ常ニ寬厚ノ量ヲ養ヒ中正ノ見ヲ持シ就中政治及宗教上ニ涉リ執拗矯激ノ言論ヲナス等ノコトアルヘカラス

一 人トシテ善良ノ性行ヲ有スヘキハ言ヲ俟タスト雖モ教員タル者ニ至テハ最モ善良ノ性行ヲ有セサルヘカラス否ラサルトキハ獨リ幼童ノ德性ヲ涵養シ善行ヲ誘掖スルコト能ハサルノミナラス却テ其天賦ヲ戕賊スルニ至ルヘシ蓋シ幼童ノ中心タル至虛至冲ニシテ外物ノ爲ニ感染セラル、コト極テ銳敏ナレハナリ

一 教員タル者ノ品行ヲ尚クシ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムヘキハ亦其職業ニ對シテ盡スヘキノ務ト

謂フヘシ蓋シ品行ヲ尚クスルハ其職業ノ品位ヲ貴クスル所以ニシテ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムハ其職業ノ光澤ヲ増ス所以ナリ

### 第五 俸給旅費及加俸等

●縣令第四號 (明治三十四年一月二十四日)

市町村立小學校教員俸給旅費及諸給與規則左之通り相定ム

市町村立小學校教員俸給旅費及諸給與規則

#### 第一章 俸 給

第一條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依ル

職 名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
本科正教員	上七拾五圓六拾圓	上拾圓五拾圓	上拾圓四拾圓	上拾圓參拾圓	上拾圓貳拾圓	上拾圓壹拾圓	上拾圓拾圓	上拾圓九圓	上拾圓八圓	上拾圓七圓
專科正教員	上四拾圓參拾圓	上四拾圓貳拾圓	上四拾圓壹拾圓	上四拾圓拾圓	上四拾圓九圓	上四拾圓八圓	上四拾圓七圓	上四拾圓六圓	上四拾圓五圓	上四拾圓四圓
准教員	上貳拾圓拾圓	上貳拾圓九圓	上貳拾圓八圓	上貳拾圓七圓	上貳拾圓六圓	上貳拾圓五圓	上貳拾圓四圓	上貳拾圓三圓	上貳拾圓二圓	上貳拾圓一圓

第二條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ漸次百圓マテ増スコトアルヘシ

第三條 専科正教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ俸給額ヲ減スルコトアルヘシ

第四條 専科正教員ニシテ他ノ小學校ノ専科正教員ヲ兼ヌル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトアルヘシ

第五條 本科正教員ハ毎等級在職一年以上ニ至ラサレハ増俸セス但シ四級下俸以下ノ者ハ此ノ限ニアラス

一旦退職ノ者再任ノ場合ハ前在職最終ノ俸給ヨリ以上ノ俸給ヲ給セス但シ特別ノ事情アルモノハ此ノ限リニアラス

第六條 教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトナシ

第七條 退職者ニハ俸給ヲ給セス但シ縣知事ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ區ノ同意ヲ得テ其ノ一部若クハ全部ヲ給スルコトアルヘシ

第八條 教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九條 教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給ス

第十條 教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給ス

一 懲戒ニ因リ免職ニ處セラレタルトキ

二 免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失効ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第十一條 俸給支給日ハ毎月二十二日トス但シ日曜大祭日ニ當ルトキハ繰下トス

轉任、退職退職ノトキハ前項ノ定日ニ拘ラス其際俸給ヲ支給ス定日以後新任復職ノ場合亦同シ第十二條 俸給ハ新任、復職、増俸、減俸トモ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第十三條 轉任ノトキハ日割ヲ以テ發令ノ當日マテニ係ル俸給ヲ前任學校ニ於テ支給シ翌日以後ノ分ハ後任學校ニ於テ支給スルモノトス

第十四條 退職、退職及死亡ノトキハ其ノ際當月分ノ俸給全額ヲ給ス但シ第十五條第十六條ニ依リ減給ノ者本條ニ該當スルトキハ其ノ際減給ニ係ル當月分ノ俸給全額ヲ給ス

第十五條 疾病又ハ傷痕ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減ス但シ職務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹ルモノハ此限ニアラス

第十六條 私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト十五日ヲ踰ユルモノハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減シ三十日ヲ踰ユルモノハ之ヲ給セス但シ忌引ノ場合ハ此限リニアラス

第十七條 忌引若クハ三日以上ニ涉ル學校休業ノ場合ハ第十五條若クハ第十六條本文ノ場合ト連續スルモ減俸又ハ俸給ノ支給ヲ停止スヘキ欠勤日數中ニ算入セス又第十五條ノ場合ト第十六條本文ノ場合ト相續テ起ルトキハ之ヲ通算セス

第十八條 第十條第十三條第十五條第十六條ノ場合ニ際シ俸給ニ過渡アルトキハ其際之ヲ追徴ス  
 第十九條 俸給ヲ給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ切捨トス  
 日割計算ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第二章 旅 費

第二十條 旅費ハ職務ノ爲旅行スルトキ之ヲ給ス  
 第二十一條 教員ノ旅費額ハ左表ニ依ル

職 名	汽 車 賃 ニ付	汽 船 賃 一海里 ニ付	車 馬 賃 一里 ニ付	日 常 ニ付	宿 泊 料 一夜 ニ付
正 教 員	金 四 錢	金 四 錢	金 拾 五 錢	金 五 拾 錢	金 七 拾 錢
准 教 員	金 參 錢	金 參 錢	金 拾 錢	金 參 拾 錢	金 五 拾 錢

修學旅行、學事視察又ハ學術研究等ノ爲出張スル場合ニハ其ノ時々市長又ハ町村長ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受ケテ特ニ實費ヲ支給シ若クハ前表ニ依ラス減額支給スルコトヲ得

第二十二條 汽車賃ハ哩數、汽船賃ハ海里數、車馬賃ハ里數、日當ハ日數、宿泊料ハ夜數ニ應シ之ヲ給ス但シ汽船旅行ニハ宿泊料ヲ給セス

第二十三條 陸路六里未滿汽車十哩未滿汽船十海里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ給セス但シ公務ノ都合

ニ依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ給ス

第二十四條 汽車賃汽船賃及車馬賃ハ其ノ種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ通算シテ之ヲ給シ其ノ一位未滿ノ端數ハ切捨トス

第二十五條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算ス但シ汽車賃及汽船賃ハ會計年度ニ係ラス汽車汽船ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ區別シテ計算ス

第二十六條 轉任ノ者ニハ舊任地ヨリ轉任地ニ到ルマテ本職相當ノ車馬賃汽車賃若クハ汽船賃ノ二倍ヲ給シ新ニ任用スル爲召喚スルモノニハ現任地ヨリ新任地マテ本職相當ノ旅費ヲ給ス

第二十七條 旅行中休職、退職又ハ死亡ノ者ニハ舊任地マテ前職又ハ本職相當ノ旅費ヲ給ス但シ免職失職ノ場合ハ此限リニアラス

第二十八條 旅行中歸省其ノ他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルモ順路程ニ應シ旅費ヲ給ス

第二十九條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ日當ヲ給スル爲其ノ日數ヲ計算スルニハ汽車旅行一日二百哩詰、汽船旅行一日百海里詰、陸路旅行一日十二里詰トス但シ距離接近シテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其ノ路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ヲ十二時間トシ其ノ日數ヲ計算ス

第三章 諸給與



第二十條 教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額三箇月分ヲ其ノ遺族ニ給ス

第二十一條 教員ニシテ一週三十時ヲ超ニ教授ヲ擔任スルモノニハ手當ヲ給ス

第二十二條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スルコトアルヘシ

第二十三條 教員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ給スヘシ

第二十四條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ

第二十五條 教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ

第二十六條 第三十三條乃至第三十五條ニヨリ給スヘキ金額ハ管理者ニ於テ決定スヘシ

第四章 代用教員俸給旅費及諸給與

第三十七條 代用教員ノ俸給額及旅費額ハ准教員ノ俸給額及旅費額ニ據ル但シ六級下俸ニ限り參照マテ減スルコトヲ得

小學校令施行規則第三十五條第三項ニ依リ裁縫科ヲ教授セシムル爲メ採用スル女子ノ代用教員ノ俸給ニ限リ其ノ教授時數ニ應シ前項但書ノ額ヲ尙減スルコトヲ得(三十五年縣令第六十七號ヲ以テ本項追加)

第三十八條 代用教員ノ俸給旅費及其ノ他諸給與ノ支給方法ハ第十條第十一條第十二條第十四條

乃至第十九條第二十條第二十二條乃至第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ヲ準用ス但シ第三十一條第三十二條ニ依リ給スル金額ハ市立小學校ニ在テハ市長之ヲ決定シ町村立小學校ニ在テハ管理者ノ意見ヲ聞キ郡長之ヲ決定ス

代用教員ノ退職左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前項ニ依リ第十四條ヲ準用スル限ニアラス(三十五年縣令第六十七號ヲ以テ本項追加)

此ノ場合ニ於テハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給ス

一 正教員若クハ准教員ニ採用セラル、爲メナルトキ

二 他ノ市町村立小學校代用教員ニ採用セラル、爲メナルトキ

第五章 附 則

第三十九條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第四十條 本令施行ノ際現ニ在職スル教員ニ給與スル俸給ニ關シテハ左ノ例ニ依リ別ニ辭令ヲ用ヒサルモノトス

一 現ニ受クル所ノ俸給額第一條ノ等級中ノ金額ニ相當スルモノハ其ノ相當スル等級ノ俸給ヲ受クルモノトス

二 現ニ受クル所ノ俸給額第一條ノ等級中ノ金額ニ相當セサルモノハ現ニ受クル金額ニ最近キ

上位 等級ノ俸給ヲ受クルモノトス但シ其ノ給與金額ハ當分現ニ受クル所ニ依ル  
第四十一條 明治二十五年ニ縣令第二十五號明治三十年ニ縣令第二十五號明治三十一年ニ縣令第  
十八號第十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治二十五年ニ縣令第二十七號ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●縣令第六十四號 (明治三十三年六月十五日)

市町村立小學校教員加俸給與細則左ノ通相定ム

市町村立小學校教員加俸給與細則

第一條 加俸ノ支給増額減額ハ發令ノ翌月ヨリ計算ス(三十五年縣令第六十  
四號ヲ以テ改正前除)

第二條 加俸ハ病氣又ハ其他ノ事故ニ由リ欠勤スルモノ之ヲ減給スルコトナシ

第三條 加俸ハ年額ヲ月割計算トシ毎年九月三月ノ二期ニ於テ當月分マテノ金額ヲ支給ス但休職  
退職又ハ其他ノ事由ニ由リ加俸ヲ罷メラレタルトキハ當月分マテノ金額ヲ其際支給ス

第四條 郡市長ニ於テ市町村立小學校教員加俸令第三條第六條及第七條ニ該當スルモノアリト認  
ムルトキハ其事由及關係事項ヲ詳具シ知事ニ申告スヘシ

第五條 加俸ニ關スル辭令書式ハ左ノ如シ  
年功加俸辭令書式

年功加俸辭令書式

校名職名 氏 名

市町村立小學校教員加俸令第三條ニ由リ本縣市町村立小學校ニ於テ本科教員勤務中年功加俸年  
額金何圓ヲ支給ス

年 月 日

縣 名

特別加俸辭令書式(三十五年縣令第六  
十四號ヲ以テ改正)

校名職名

氏 名

市町村立小學校教員加俸令第七條前(後)段ニ由リ肩書ノ單級(多級)學校ニ於テ本科正教員勤務  
中特別加俸年額金何圓ヲ支給ス

年 月 日

縣 名

加俸令第六條ニ由ル辭令書式

校名職名

氏 名

市町村立小學校教員加俸令第六條ニ由リ自今年功加俸支給セス

年月日

縣

名

◎縣令第六十八號

(明治三十三年六月二十二日)

明治三十三年三月法律第六十三號市町村立小學校教育費國庫補助法第六條及明治三十三年三月勅令第三百三十三號市町村立小學校教員加俸令第十一條ニ依ル支給金給與規程左ノ通相定ム

市町村立小學校教育費國庫補助法第六條等ニ依ル支給金給與規程

第一條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條ニ依ル支給金及市町村立小學校教員加俸令第十一條加給金給與ノ方法ハ本年六月本縣令第六十四號市町村立小學校教員加俸給與細則第二條及第三條ヲ準用ス

第二條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ該當スルモノニハ左ノ書式ノ證書ヲ交付ス

書式

校名職名

氏

名

明治三十年法律第六十三號市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ明治三十三年四月ヨリ年額金何程ヲ支給ス

年月日

靜

岡

縣

第三條 市町村立小學校教員加俸令第十一條ニ該當スルモノニハ左ノ書式ノ證書ヲ交付ス

書式

校名職名

氏

名

明治三十三年勅令第三百三十三號市町村立小學校教員加俸令第十一條ニ依リ明治何年何月ヨリ金何程ヲ加給ス

年月日

靜

岡

縣

◎訓令甲第二十五號

(明治三十五年九月十九日)

郡

役

所

明治三十三年八月訓令甲第二十四號市町村立小學校教員加俸費支拂ニ關スル規定左ノ通改正ス

市町村立小學校教員加俸費支拂ニ關スル規定

第一條 市町村立小學校教員加俸費ノ支拂命令ノ發行ハ之ヲ郡長ニ委任ス

第二條 郡長ハ毎支拂期ニ要スル支拂見込額ヲ取調ヘ第一號様式ニ依リ前期ハ七月三十一日限後期ハ一月三十一日限知事ニ報告スヘシ

第三條 郡長ハ第二號様式ニ依リ支給臺帳ヲ備フヘシ

支給臺帳ハ前期及後期ヲ各別冊トシ支拂期月ノ初日ニ於ケル現在ニ依リ調製スヘシ但シ加俸給與規則第三條但書ニ依リ支給ヲ爲ストキハ其際當該期ノ臺帳ニ登載スヘシ

特別加俸ヲ受クル者他郡市ニ轉任ノ場合ニ於テハ其際前任郡ニ於テ特別加俸ヲ給スルモノトシ前項但書ノ規定ニ依ルヘシ

第四條 郡長ハ前條ノ支給臺帳ニ依リ第一號様式ニ準シ毎支拂期精算調書ヲ作り前期ハ十月二十日限後期ハ四月二十日限知事ニ報告スヘシ

第五條 特別加俸ヲ受クル者左ノ場合ノ一ニ該當スルトキハ當月限り當然其ノ支給ヲ罷ムルモノトス

- 一 多級學校ニシテ高等小學校ノ教科ヲ併置スルコトヲ認可セラレタルトキ
- 二 單級小學校ニシテ多級ノ編制トナリタルトキ但シ補習科ヲ正教科ノ時間内ニ設ケタル爲メ多級ノ編制トナリタルトキハ正教科受持ノ本科正教員ニ限り此限ニアラス
- 三 單級小學校ニシテ高等小學校ノ教科ヲ併置スルコトヲ認可セラレタルトキ但シ尋常科ノ編制カ單級ナルトキハ其ノ受持ノ本科正教員ニ限り此限ニアラス
- 四 單級小學校ニシテ分教場ヲ設ケタルトキ

第一號様式

何年度九(三)月 市町村立小學校教員加俸費支拂見込調		何 郡	
區別	人員	金額	附記
法第六條支給金			六ヶ月何人五ヶ月何人四ヶ月何人ト記スノ類
年功加俸			正教員六ヶ月何人五ヶ月何人ト記スノ類 准教員六ヶ月何人五ヶ月何人ト記スノ類
令第十一條加給金			六ヶ月何人五ヶ月何人四ヶ月何人ト記スノ類
小計			(人員ハ小計セス)
特別加俸ノ分			甲六ヶ月何人五ヶ月何人六ヶ月何人五ヶ月何人丙六ヶ月何人五ヶ月何人ト記スノ類
同 多級ノ分			同上
小計			(人員ハ小計セス)

第四條ノ精算調書ハ本様式中「九(三)月」トアルヲ「前(後)期」ト改メ「見込調」トアルヲ「精算調」ト改ムヘシ

附記欄ハ記入例ニ示スモノ、外必要ノ事項アルトキハ記入スヘシ

第二號様式



郡役所 市役所 町村役場 市町村立小學校

小學校准教員ニシテ本科正教員ニ代リ一時教授ノ勤務ヲ命セラレ本年三月三十一日迄在職シタルモノ從前市町村立小學校教員加俸令第三條ニ依リ年功加俸之支給ヲ受ケ更ニ本年四月一日付ヲ以テ同一學校ノ准教員ニ任命セラレタルトキハ別ニ辭令ヲ用ヒスシテ從前ノ通り年功加俸ノ支給ヲ受クル儀ト心得ヘシ

●三第八七八號ノ三

(明治三十四年四月十六日)

各都市長 內務部長通牒

市町村立小學校教育費國庫補助法第六條並ニ市町村立小學校教員加俸令第十一條適用上左記各項ノ者ニ對シテハ同一校勤務者トシテ可取扱儀ニ有之候條依命此段及通牒候也

- 一 學校ノ分合アリタル場合ニ於テ其學校ニ引續キ勤務スルモノ
- 一 已存之尋常小學校へ新ニ高等小學校之教科ヲ併置シタル場合ニ於テ其學校ニ引續キ勤務スルモノ
- 一 分教場ヲ獨立校ト爲シ若クハ獨立校ヲ分校トナシタル場合ニ於テ其學校ニ引續キ勤務スルモノ

### 第六 檢 定

●縣令第七十二號

(明治三十三年九月十三日)

小學校教員檢定細則左ノ通相定ム

小學校教員檢定細則

第一條 試驗檢定ハ毎年一回五月ニ於テ之ヲ施行ス但時宜ニヨリ臨時ニ施行スルコトアルヘシ  
試驗施行ノ期日及試驗場ハ豫メ之ヲ告示ス

第二條 試驗檢定ヲ請フ者ハ毎年二月一日ヨリ三月二十日迄ニ願書ヲ現住地ノ郡市役所ニ差出スヘシ

郡市長ニ於テ前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ三月三十一日迄ニ縣知事ニ進達スヘシ  
臨時ニ試驗檢定ヲ施行スル場合ニ於テハ出願期限ハ其都度之ヲ告示ス

第三條 無試驗檢定ヲ請フ者ハ隨時出願スヘシ其出願手續ハ前條ノ例ニ依ル

第四條 無試驗檢定ヲ出願シタル者ニシテ教員檢定委員會ニ於テ全部若クハ一部ノ試験ヲ必要ト認メラレタルトキハ本人ノ志望ニ依リ更ニ出願ヲ要セス次期ノ試験檢定ニ於テ其試験ヲ受クルコトヲ得

第五條 檢定ヲ請フ者ハ願書(第一號書式)ニ履歷書(第二號書式)及戶籍吏ノ作リタル戶籍抄本ヲ添ヘテ差出スヘシ

郡市長ハ本人ノ品行經歷ニツキ其意見ヲ副申スヘシ

第六條 檢定ヲ出願スル者ハ檢定手数料トシテ現金又ハ爲替券ヲ以テ金壹圓ヲ願書ト共ニ納ムヘシ但シ二種以上ノ檢定ヲ同時ニ出願スル場合ハ檢定手数料ヲ各別ニ納ムヘキモノトス  
前項ノ手数料ハ既ニ納メタル後ハ願下其ノ他何等ノ事由アルモ之ヲ還付セサルモノトス

第七條 試驗場ニ於ケル受験者ノ心得左ノ如シ

- 一 試驗定時二十分前迄ニ試驗場ニ參着スヘシ
  - 二 試驗問題ノ意義ニ關シテ質問スルコトヲ得ス
  - 三 試驗時間中許可ヲ受ケスシテ退室スルコトヲ得ス
  - 四 凡テ試驗場ノ秩序ヲ亂スヘキ行爲アルヘカラス
  - 五 書籍、紙類ヲ携帶シテ入場スルコトヲ得ス
  - 六 筆、墨、小刀、鉛筆、其ノ他試驗ニ要スル器具ハ之ヲ持參スヘシ
- 前項各號ノ外必要ナル事項ハ其都度之ヲ揭示ス

第八條 小學校本科正教員ノ試驗科目左ノ如シ

一 男子ニツキテハ修身、教育、國語、漢文、歷史、地理、數學、物理、化學、博物、習字、圖畫、音樂、体操ノ十四科目トス但圖畫、音樂ハ當分ノ内之ヲ缺ク

二 女子ニツキテハ修身、教育、國語、漢文、歷史、地理、數學、理科、家事、習字、圖畫、音樂、体操ノ十三科目トス但圖畫、音樂、体操ハ當分ノ内之ヲ缺ク

前項ノ教育科ニツキテハ筆答、口答、實地ノ三種ニ、家事科ニツキテハ家政及育兒、裁縫ノ二種ニ別チテ之ヲ試驗ス但シ教育科ニツキテハ時宜ニヨリ口答ヲ省クコトアルヘシ

第九條 尋常小學校本科正教員ノ試驗科目ハ修身、教育、國語、歷史(日本歷史)地理、算術、理科、習字、音樂、体操、裁縫(女子ニ限ル)ノ十一科目トス但シ音樂ハ男女ヲ通シ体操ハ女子ニ限リ當分ノ内之ヲ缺ク

前項ノ教育科ニツキテハ前條第二項ヲ適用ス

第十條 小學校准教員ノ試驗科目ハ修身、教育、國語、算術、歷史、地理、理科、圖畫、体操、裁縫(女子ニ限ル)ノ十科目トス但シ圖畫ハ男女ヲ通シテ体操ハ女子ニ限リ當分ノ内之ヲ缺ク

第十一條 尋常小學校准教員ノ試驗科目ハ修身、教育、國語、算術、歷史地理、体操ノ六科目トス但シ体操ハ女子ニ限リ當分ノ内之ヲ缺ク

第十二條 専科正教員ノ試驗ハ筆答、口答、實地ノ三種ニ分チテ之ヲ行フ但シ學科目ノ種類ニヨ

リ其一種ヲ缺クコトアルヘシ

第十三條 試験施行ノ方法及試験成績ノ判定方法ハ檢定委員會ニ於テ之ヲ定ム

試験ニ合格セサルモノ科目若クハ數科目ノ成績佳良ナルトキハ其科目ニツキ證明書ヲ授與ス

第十四條 不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケムト企テタル者ハ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

不正ノ方法ニヨリ檢定ニ合格シ若クハ前條ノ證明書ヲ得タル後其ノ事實發覺シタルトキハ其合格若クハ證明ヲ無効トスヘシ

試験ニ關スル規定若クハ受験者心得ニ違背シタル者ニ對シテハ其試験ヲ差止ムルコトアルヘシ

附 則

第十五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 明治二十五年ニ縣令第二十一號同年五月縣令第四十三號ハ之ヲ廢止ス

第十七條 明治二十五年ニ縣令第二十一號第二十條ニ依リ授與シタル證明書ハ本令第十三條ニ依リ授與シタルモノト見做シ仍其ノ効力ヲ存續セシム

第一號書式(用紙左東紙)別記記入方心得ヲ參照シテ自筆ニテ認ムヘシ

小學校教員檢定願

住所(本籍地) 族籍

何々教員(、、)

氏

名

生 年 月

私儀本縣内ニ於テ小學校教員志願ニ付前記ノ通り試験檢定(無試験檢定)相成度別紙履歷書及戶籍抄本相添此段相願候也

年 月 日

何

某 印

静岡縣知事何某殿

(別記)記入方心得

一 何々教員トアル所ニハ左ノ種別ニ從ヒ記入スヘシ

小學校本科正教員

尋常小學校本科正教員

小學校准教員

尋常小學校准教員

專科正教員(專科ノ文字ノ上ニ學科目ヲ記載スヘシ)

二 試験檢定ヲ請フ者ニアリテハ何々教員トアル下、括弧内ニ受験ノ爲メ出頭スヘキ試験場ノ



地名ヲ記入スヘシ

第二號書式(用紙左束紙)

履 歷 書

族 籍

氏

生 年 月

學 業

一 年月日何學校ニ入學、年月日何科卒業證書寫別紙ノ通リ

一 年月日何地ニ於テ何之誰ニ從ヒ何々ヲ修ム

免許狀及證明書

一 年月日何々ニ於テ何免許狀ヲ受ク其寫別紙ノ通リ

一 年月日何々ニ於テ何々ニツキ證明書ヲ受ク其寫別紙ノ通リ

(教員檢定ノ資料トナルヘキ免許狀及證明書ハ總テ之ヲ記載スルヲ要ス)

業 務

一 年月日何官拜命或ハ何業ニ從事年月日依願免官或ハ廢業又ハ現今在職從事等

一 年月日任何々小學校訓導何級何俸給與

賞 罰

一 年月日何所ニ於テ何々ニ付何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク

右之通相違無之候也

右

何

某 ㊦

右ノ外改氏名其他身分ノ變更ハ之ヲ賞罰ノ次項ニ記スヲ要ス

●縣令第七十三號

(明治三十三年九月十三日)

本縣小學校教員免許狀書式並免許狀書換手數料ニ關シ左ノ通相定ム

第一條 本縣小學校教員免許狀ノ書式ハ左ノ如シ

其一 本科正教員又ハ准教員タル者ニ授與スルモノ

小學校教員免許狀

族 籍

氏

生 年 月

右ハ靜岡縣管内ニ於テ(尋常)小學校(本科正)准教員

學 事 小學校

タルコトヲ免許ス

年月日

番號

静岡縣知事位勳爵氏名 圖

其二 専科正教員タルモノニ授與スルモノ

小學校教員免許狀

族籍

何々

氏

名

生年月

右ハ静岡縣管内ニ於テ前記ノ 學科目ニツキ小學校  
専科正教員タルコトヲ免許ス

年月日

番號

静岡縣知事位勳爵氏名 圖

「前記ノ」下ニ學科目ノ數ヲ記入ス

第二條 本縣ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ノ書換又ハ再渡ヲ請フモノハ其手數料トシテ金  
五拾錢ヲ納ムヘシ

前項ノ手數料ハ既ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セサルモノトス

●告示第百八十四號

(明治三十三年十月二十日)

明治三十三年九月縣令第七十二號小學校教員檢定細則第十七條ニ依リ効力ヲ存續セシメタル證明書  
ノ取扱方左ノ如シ

- 一 従前小學校本科正教員(男)ノ試験ヲ受ケ簿記ノ證明書ヲ有スル者ニ就キテハ數學科中簿記  
ノ試験ヲ缺キ數學ノ證明書ヲ有スル者ニ就キテハ數學科ニ在リテハ簿記ノミノ試験ヲ行フ
- 二 従前小學校本科准教員ノ試験ヲ受ケ某科目ノ證明書ヲ有スル者ニ就キテハ左ノ例ニ依リ小  
學校准教員ノ試験ニ關シ有効トス  
博物、物理、化學ノ一科目若ハ數科目ノ證明書ヲ有スル者ニ就テハ理科中該當事項ノ試験  
ヲ缺ク  
習字ノ證明書ヲ有スル者ニ就キテハ國語科中習字ノ試験ヲ缺キ國語ノ證明書ヲ有スル者ニ  
就キテハ國語科ニ在リテハ習字ノミノ試験ヲ行フ  
家事ノ證明書ヲ有スル者ニ就キテハ裁縫ノ試験ヲ缺ク  
其ノ他某科目ノ證明書ヲ有スル者ニ就キテハ其ノ科目ノ試験ヲ缺ク
- 三 従前尋常小學校本科准教員ノ試験ヲ受ケ某科目ノ證明書ヲ有スル者ニ就キテハ左ノ例ニ依

リ尋常小學校准教員ノ試験ニ關シ有効トス  
歴史、地理ノ一科目若ハ二科目ノ證明書ヲ有スル者ニ就キテハ歴史地理科中該當事項ノ試  
驗ヲ缺ク

習字ノ證明書ヲ有スル者ニ就キテハ國語科中習字ノ試験ヲ缺キ國語ノ證明書ヲ有スル者ニ  
就キテハ國語科ニ在リテハ習字ノミ試験ヲ行フ

其他證明書ヲ有スル者ニ就キテハ其ノ科目ノ試験ヲ缺ク

●三三四一三號 (明治三十五年六月二十一日)

各郡市長 内務部長通牒

小學校教員試験檢定ノ試験科目及其ノ程度ハ文部省令及縣令ノ規定ノ通り候處其ノ檢定ヲ受ケム  
トスル者ノ參考ニ供スヘキ圖書ハ大凡左記ノ通り心得セシメ度候條便宜御示シ相成度依命此段及  
通牒候也

- 一 小學校本科正教員(男) 師範學校中學校程度ノ教科書ノ類
- 一 小學校本科正教員(女) 師範學校高等女學校程度ノ教科書ノ類
- 一 尋常小學校本科正教員 師範學校簡易科第一類講習科程度ノ教科書ノ類
- 一 小學校准教員 大略前項ニ準ス

一 尋常小學校准教員 師範學校第二類講習科程度ノ教科書ノ類

一 小學校專科正教員 師範學校中學校甲種商業學校甲種農業學校等ノ程度ノ教科書  
ノ類但裁縫音樂及圖書ハ女子ニ限リ師範學校女子部高等女學  
校程度ノ教科書ノ類

以上各項ノ外現行小學校教科用圖書

●縣令第七十四號 (明治三十三年九月十三日)

明治二十七年<sup>四</sup>縣令第二十二號幼稚園保母及小學校ニ類スル各種學校教員免許狀規則左之通改正  
ス

幼稚園保母及小學校ニ類スル各種學校教員免許規則

第一條 幼稚園保母若クハ小學校ニ類スル各種學校教員ノ免許狀ヲ授與スルハ檢定ニ合格シタル  
モノニ限ル

前項ノ檢定ハ小學校教員檢定委員會之ヲ行フ

第二條 檢定ハ之ヲ分チ試験檢定及無試験檢定トス

第三條 試験檢定ハ各種學校教員ニ就キテハ小學校令施行規則第百八條若クハ第百九條ノ學科程  
度ニ準シ其一科目若クハ數科目ニ就キ幼稚園保母ニ就キテハ同規則第百十一條若クハ第百十二

條ノ學科程度ニ準シ其學科程度ヲ參酌シテ試驗ヲ行フモノトス

無試驗檢定ハ前項ノ程度ヲ參照シ本人ノ學力及經歷等ヲ調査シ檢定スルモノトス

第四條 無試驗檢定ニツキテハ明治三十三年九月縣令第七十二號小學校教員檢定細則第三條第五條

第六條及第十四條ヲ準用ス

第五條 免許狀ヲ分ツテ左ノ二種トス

各種學校教員

甲種 小學校令施行規則第百八條ノ程度ニ準シ檢定スルモノ

乙種 同規則第百九條ノ程度ニ準シ檢定スルモノ

幼稚園保母

甲種 小學校令施行規則第十一條ノ程度ニ準シ檢定スルモノ

乙種 同規則第百十二條ノ程度ニ準シ檢定スルモノ

第六條 免試狀ノ書式ハ幼稚園保母免許狀ニツキテハ小學校准教員ニ授與スルモノヲ準用シ各種

學校教員免許狀ニツキテハ小學校專科正教員ニ授與スルモノヲ準用ス

第七條 小學校令施行規則第百四條各號ハ本規則ニ依ル檢定及免許狀ニ關シ左ノ通り之ヲ準用ス

一 第一號乃至第四號ニ該當スル者ハ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

二 免許狀ヲ有スル者ニシテ第一號乃至第三號ニ該當スルトキハ免許狀ハ其ノ効力ヲ失フ

第八條 免許狀ヲ有スル者其氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其書換若クハ再渡ヲ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若クハ再渡ヲ出願スルモノニツキテハ明治三十三年九月縣令第七十三號第二條ヲ準用ス

附 則

第九條 従前ノ規定ニ依リ授與シタル免許狀ハ本規定ニ依ル免許狀ト同一ノ効力ヲ有ス

第七 兒 童

●縣令第三號 (明治三十四年一月二十四日)

學齡兒童就學ニ關スル細則左ノ通相定ム

學齡兒童就學ニ關スル細則

第一條 市町村長ハ小學校令施行規則第八十二條ニ依リ其ノ年四月ニ於テ就學セシムヘキ兒童ヲ調査シ其ノ入學スヘキ期日及學校ヲ定メ一月三十一日マテニ其ノ保護者ニ通知スヘシ(三十五年十二月號ヲ以テ改正)

兒童保護者其ノ市町村ニ居住セサルトキハ兒童ノ現住スル家ノ戸主ニ對シテモ前項ノ通知ヲナスヘシ

第二條 前項ノ通知ヲ受ケタル兒童保護者ニシテ小學校令施行規則第八十四條ニ依リ免除若シクハ猶豫ヲ請ハムトスルトキハ二月十日マテニ其ノ旨市町村長ニ申立ツヘシ

市町村長ハ小學校令第三十三條ニ依リ免除若クハ猶豫ヲナス必要アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ學務委員ノ意見書ヲ添ヘ二月末日マテニ監督官廳ニ稟申スヘシ

第三條 第一條ノ通知ヲ受ケタル兒童保護者ニシテ小學校令第三十六條第一項但書ニ依リ市町村長ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ二月十日マテニ學校名若クハ教授ノ場所並教授者ノ氏名及其ノ履歷書ヲ具シ願出ツヘシ

市町村長ニ於テ前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ二月末日マテニ監督官廳ニ報告スヘシ

第四條 第一條ノ通知ヲ受ケタル兒童保護者ニシテ小學校令施行規則第八十二條第二項但書ニ依リ

市町村長指定以外ノ小學校ニ入學セシムトスルトキハ二月末日迄ニ其旨市町村長ニ申立ヘシ

第五條 第一條ノ通知ヲ受ケタル兒童保護者ニシテ小學校令施行規則第八十八條ニ依リ師範學校附屬小學校又ハ他市町村立小學校ニ入學セシムトスルトキハ其ノ承認書ヲ添ヘ二月末日マテニ市町村長ニ届出ツヘシ

第六條 市町村長ハ一月三十一日マテニ其ノ年四月ニ於テ入學スヘキ兒童ノ概數ヲ關係學校長ニ通知スヘシ

市町村長ハ前項ノ入學兒童ニ關シ小學校令施行規則第八十三條ニ依リ兒童ノ氏名ヲ通知スルハ第一號表ノ様式ニ依リ入學期日ト共ニ三月二十日マテニ之ヲナスヘシ

第七條 市町村長ハ第一條ノ通知後三月三十一日マテニ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ノ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ小學校令施行規則第八十一條第一項ニ依リ學齡簿ニ記入スルト同時ニ前各條ノ規定ニ準シ相當ノ取扱ヲナスヘシ

第八條 市町村長ハ就學期間中ニアル兒童ニシテ其市町村ニ來住シタル者アルトキハ小學校令施行規則第八十一條第二項ニ依リ其ノ兒童ノ就學ノ始期ニ達シタル年ノ學齡簿ニ記入スルト同時ニ第一條乃至第六條ノ規定ニ準シ相當取扱ヲナスヘシ

第七條 市町村長ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル學齡兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ小學校令施行規則第八十一條第二項ノ規定ニ準シ取扱フヘシ

第十條 市町村長ハ就學中ノ兒童ニシテ其ノ就學ニ關シ異動ヲ生シタルトキハ小學校令施行規則第八十三條後段ノ規定ニ準シ取扱フヘシ其ノ第六條ニ依リ通知シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第十一條 小學校令施行規則第九十六條ノ規定ニ依ル屆出ハ事故ノ生シタル日ヨリ七日以内ニ之ヲナスヘシ

第十二條 小學校令施行規則第九十一條ノ規定ニ依ル報告ハ入學期日後十日以内ニ之ヲナスヘシ  
第十三條 小學校令施行規則第九十三條ニ依リ市町村長ニ於テ兒童保護者ニ對シ督促スルハ其ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三日以内タルヘシ

前項ノ督促ヲナスモ五日以内ニ就學又ハ出席セシメサルトキハ更ニ三日以内ニ於テ一回以上ノ督促ヲナシ仍就學又ハ出席セシメサルトキハ直ニ監督官廳ニ報告スヘシ

第十四條 小學校令第三十八條ニ依リ小學校長ニ於テ兒童ノ出席ヲ停止シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ監督官廳ニ報告スヘシ  
其ノ停止ヲ解キタルトキ亦同シ

第十五條 市町村立小學校長、師範學校長及市町村長ハ兒童出席督促原簿ヲ作り小學校令施行規則第九十二條第九十三條ニ依ル兒童出席ノ督促ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第十六條 郡長ハ毎年一回實地ニ就キ兒童ノ就學及出席ニ關シ調査スヘシ

第十七條 小學校令施行規則第九十條ニ依リ作ルヘキ出席簿ハ第二號表ノ様式ニ依ルヘシ  
高等小學校長ノ作ルヘキ出席簿亦同シ

第十八條 小學校長ハ第三號表ノ様式ニ依リ兒童出席調査表ヲ作り兒童出席ノ情况ヲ明ニスヘシ  
前項ニ依リ作りタル月表ハ翌月三日限り其年表ハ四月三十日限り縣知事ニ報告スヘシ  
郡長ハ前項ノ報告ヲ精査シタル上之ヲ一括シ月表ハ毎月十五日限り年表ハ五月十五日限り縣知事ニ進達スヘシ(三十五年縣令第三十二號全第六十二號ヲ以テ改正追加)

第十九條 市町村長ハ第四號表ノ様式ニ依リ市町村學齡兒童調査表ヲ製シ甲號表ハ四月三十日限り乙號表ハ五月十五日限り縣知事ニ報告スヘシ

郡長ハ前項ノ報告ヲ精査シタル上之ヲ一括シ且郡學齡兒童調査表ヲ添ヘ甲號表ハ五月十五日限り乙號表ハ五月三十一日限り縣知事ニ進達スヘシ(全上)

第二十條 郡長又ハ市長ハ縣知事ノ認可ヲ受ケ就學ニ關スル取扱手續ヲ定ムヘシ(三十五年縣令第三十三號ヲ以テ改正)

附 則

第二十一條 第一條乃至第五條及第六條第一項ノ期限ハ本年ニ限り各十日間延長ス

第二十二條 明治二十五年ニ縣令第十六號乃至第十八號ハ之ヲ廢止ス

第一號表 入學兒童通知表様式

明治何年四月入學兒童通知表

兒童ノ姓名	主ト	族 籍	住 所	生年月	摘 要	保護者ノ氏名	兒童ノ關係	職 業	住 所
-------	----	-----	-----	-----	-----	--------	-------	-----	-----



第三號表(甲) 兒童出席調查日表樣式

備考	(科等高)科常尋									明治何年何月		日附
	計			女			男			女別	男別	
	席事故	缺病氣	出席	席事故	缺病氣	出席	席事故	缺病氣	出席			
										一	二	四月一日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一	二	日
										三	四	計
										一		









附 表	年度内		年度内		年度内		年度内		年度内	
	計	女	計	女	計	女	計	女	計	女
數 在 見 童	計	女	計	女	計	女	計	女	計	女
四月三										
日現										
第一學年										
第二學年										
第三學年										
第四學年										
合計										
考										
備										

備考

- 一 本表ハ學籍簿及月表ニ基キ調製スヘシ
- 二 本表ニハ補習科ト明記シタル欄ヲ除ク外ハ補習科ノ兒童ヲ計算セサルモノトス
- 三 三月一日現在兒童數ハ學籍ニ在ル者ニシテ年度内四月一日ヨリ三月一日ニ至ル間全ク出席セサルモノヲ除キ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ其補習科ノ兒童ニ於ケル亦同シ

四 附表ノ兒童數ハ四月調ノ月表ニ依リ其出席兒童數ヲ掲クヘシ但シ縣知事ニ報告スル分ハ之ヲ缺ク(三十五年縣令第三十二號全) (第六十二號ヲ以テ改正追加)

五 兒童、入學兒童、卒業者ノ中外國人ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

六 六年度内日々出席平均數及日々缺席平均數ハ年度内各延員數ヲ年度内授業日數ヲ以テ除シ四拾五入ノ法ニヨリ單位以下二位迄ヲ掲出スヘシ

七 年度内出席歩合ハ年度内出席延員數及同缺席延員數ノ和ヲ以テ年度内出席延員數ヲ除シ四拾五入ノ法ニヨリ單位以下二位迄ヲ算出スヘシ計ニ於ケル亦同シ(三十五年縣令第六十二號ヲ以テ改正)

八 尋常高等小學校ニ在リテハ尋常科高等科ヲ各別表トスヘシ

九 分教場(小學校令施行規則第三十九條)ニ係ル者ハ別表トスヘシ

十 兩郡ニ跨ル町村學校組合ノ設置ニ係ル高等小學校ニアリテハ學校所在地ノ郡長ニ差出シ尙他ノ郡長ヘモ差出スヘシ

●訓令甲第三十號 (明治三十三年十月二十日) 郡役所 市役所 町村役場

學齡簿整理規程左ノ通相定ム

但シ明治二十九年十一月學第九五二號ハ之ヲ廢止ス